



地方独立行政法人神奈川県立病院機構
精神医療センター

平成23年度

精神医療センター業務年報

(芹香病院・せりがや病院)

平成24年12月

目 次

I 概 況

1 基 本 理 念	1
2 沿 革	1
3 組 織 ・ 機 構	5
4 職員配置状況	6
5 施 設	8
施設配置図	9
6 主な委員会・会議一覧	10
7 主な研修実績	11

II 芹香病院事務事業の状況

1 芹香病院基本方針	13
2 経理の状況	
(1) 地方独立行政法人会計決算状況	14
3 業務実績	
(1) 各種指標	17
4 患者の状況	
(1) 外来患者の状況	18
(2) 入院患者の状況	20
(3) 救急医療の状況	26
5 業務の状況	
(1) 看 護	27
(2) 作業療法	38
(3) デイ・ケア療法	41
(4) 検査業務	45
(5) 地域医療相談室業務	49
(6) 薬剤業務	56
(7) 医療教育	58
(8) 栄養管理科業務	58
(9) 保育業務	61

Ⅲ セリがや病院事務事業の状況

1	セリがや病院基本方針	63
2	経理の状況	
(1)	地方独立行政法人会計決算状況	64
3	業務実績	
(1)	各種指標	67
4	患者の状況	
(1)	外来患者の状況	68
(2)	入退院患者の状況	71
5	業務の状況	
(1)	看 護	78
(2)	心理・相談業務	82
(3)	作業療法	84
(4)	学生等の指導	85
(5)	薬剤業務	85
(6)	栄養業務	86

(注) 本年報の表は原則として平成24年3月31日をもって作成してあります。例外については、本文中に基準年月日を表示してあります。

I 概 況

1 基本理念

患者様やご家族に信頼される心あたたかい医療を提供し、神奈川県精神医療の発展に努めます。

2 沿革

当センターは精神病院法に基づくわが国3番目の府県立精神病院として昭和4年3月から診療を開始した芹香院と、昭和38年4月全国にさきがけ麻薬中毒患者専門医療施設として収容治療を開始し、その後神経症、アルコール依存症、薬物中毒等の患者を対象に治療を行ってきたせりがや園を統合して、平成2年4月神奈川県立精神医療センターに組織を改正した。その際名称も芹香病院、せりがや病院に改称し、精神科診療業務を行っている。開設以来の主たる変遷は次のとおりである。

【芹 香 院】

昭和3年11月	本館及び病棟5棟 付属建物を含め延べ3,606㎡の施設完成
4年3月	診療開始（150床）
35年7月	第1、第2病棟完成（現作業療法棟2,207.05㎡）
39年4月	地方公営企業法（企業会計方式）の一部適用
46年8月	子供預り施設新築
11月	C病棟、管理診療棟、サービス棟新築
48年1月	A病棟、B病棟、社会療法棟、喫茶売店棟、車庫棟新築
3月	温室及び看護婦宿舍新築
6月	作業療法棟改築
7月	事務局に医事課を新設
8月	事務局に栄養課を新設、医療局を部長制とし、作業療法科を新設、看護部に看護教育係を新設
50年7月	せりがや地区第一医療職員公舎完成
54年3月	A、B、C各病棟の2、3階に消防用スプリンクラー設備設置
10月	A3病棟を開棟
55年8月	事務局が総務局に、管理課が総務課に改称、総務局次長（総務課長兼務）新設
56年7月	保育施設改修
10月	芹香院作業療法用農場（27アール）整備工事完成
57年1月	身体障害者用便所、管理診療棟1箇所、A病棟1箇所完成
58年11月	緊急医療対策用保護室改修
60年9月	デイ・ケア施設改修
62年4月	医療局にデイ・ケア科を新設
	夜間、休日の緊急医療開始
12月	外来受付室、待合室改修
平成元年3月	保護室（6室）、静養室（16室）改修
2年1月	保護室（8室）改修

【せりがや園】

昭和38年 1 月	本館新設（サーモコン 2 階建）
3 月	厨房棟新築（コンクリート鉄骨平屋建）
4 月	診療開始（70床）
39年 4 月	地方公営企業法（企業会計方式）の一部適用
43年 7 月	本館増築工事等 病棟、管理部門の改修
52年 4 月	病床数（64床）変更

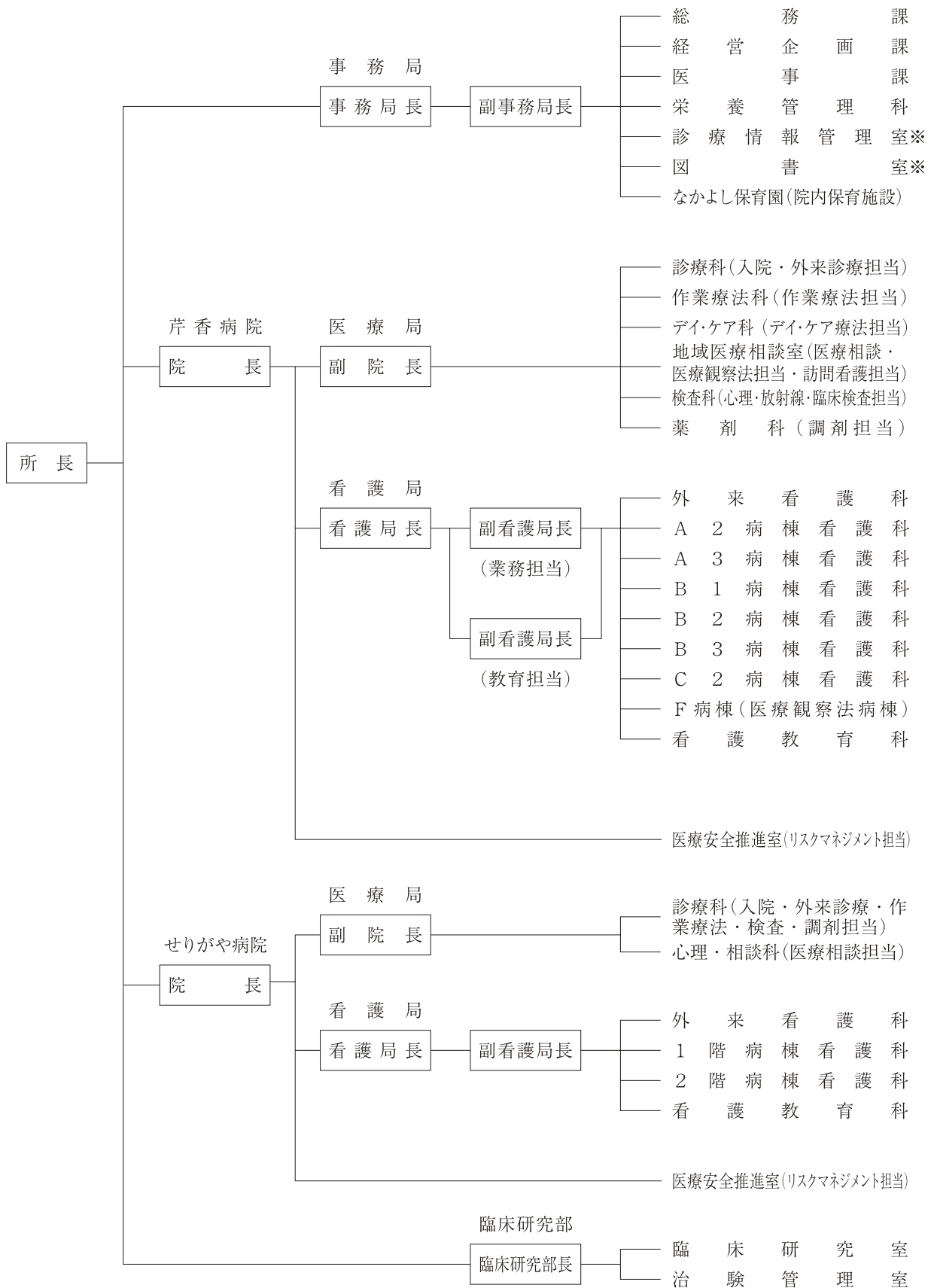
【精神医療センター】

平成 2 年 4 月	芹香院とせりがや園を、精神医療センターに組織改正、センター所長職の設置、芹香院を芹香病院に、せりがや園をせりがや病院に改称、精神医療センター総務局に総務課、経理課、医事課及び栄養課設置 せりがや病院の医療局に心理・相談科、看護部に外来看護係、看護教育係を新設
9 月	せりがや病院新築（80床）
3 年 4 月	芹香病院 A1 病棟を老人性痴呆専門治療病棟（44床）に改修 芹香病院 B3 病棟の一部を改築（結核合併症病棟16床、精神科病棟31床）
4 年 4 月	芹香病院 B2 病棟保護室（4 室）改修
5 年 2 月	せりがや病院 基準看護結核・精神特 2 類承認
3 月	芹香病院 基準看護結核・精神特 2 類承認
6 年 3 月	看護婦共同宿舍、看護士宿舍、職員公舎一戸解体 芹香病院 C1 病棟に消防用スプリンクラー設備設置
10 月	芹香病院、せりがや病院新看護体系 3：1 承認
7 年 3 月	芹香病院 B1 病棟に消防用スプリンクラー設備設置 C 棟外壁塗装、屋上防水塗装工事完成
7 年 5 月	せりがや病院 特別管理給食加算（適時適温給食）実施
8 年 3 月	芹香病院 A1 病棟に消防用スプリンクラー設備設置 芹香病院 A2 病棟に感染症隔離室（2 室）設置 芹香病院 A3 病棟に救急用保護室（4 室）、静養室（3 室）設置
8 年 4 月	芹香病院病床数（497床）変更 芹香病院 精神科救急医療開始 選択メニュー給食の実施
10 年 12 月	職員公舎 3 戸解体
12 年 7 月	芹香病院 特別管理給食加算（適時適温給食）実施
12 月	第 1 医療職員公舎解体
14 年 4 月	芹香病院 精神科救急医療 24 時間体制開始（8 床）
15 年 4 月	芹香病院 精神科 救急病棟開設（B－1 病棟 26床） 芹香病院 病床数（445床）変更
15 年 9 月	芹香病院 応急入院指定病院（1 床）

平成15年10月	芹香病院 精神科急性期治療病棟（B1）入院科1 適用承認 芹香病院 紹介患者加算5 実施
16年 4月	芹香病院 精神科救急入院科（B1病棟26床）適用承認 芹香病院 精神科救急入院施設管理加算（A1病棟を除く）適用承認 芹香病院 医療保護入院等診療科適用承認 せりがや病院 医療保護入院等診療科適用承認 芹香病院 褥瘡患者管理加算適用承認
6月	芹香病院 療養環境加算（A1・B2病棟）適用承認
9月	芹香病院 夜間勤務等看護加算（A1病棟）
17年 4月	地方公営企業法全部適用 精神医療センターの組織再編成 看護部を看護局と改称、経理課及び医事課を医事経営課に統合、 栄養課を栄養管理科に改称、各看護係を看護科と改称、各病院内に医療安全推進室を設置、芹香病 院診療科内の医療相談室を地域医療相談室と改称
12月	芹香病院 日本医療機能評価機構認定病院となる せりがや病院 日本医療機能評価機構認定病院となる
18年 1月	芹香病院 診療録管理体制加算 せりがや病院 診療録管理体制加算
4月	芹香病院 15対1 精神病棟入院基本料（A1病棟及びB1病棟を除く） 芹香病院 老人性認知症疾患治療病棟入院料1（A1病棟） 芹香病院 医療安全対策加算 芹香病院 臨床研修病院入院診療加算 芹香病院 栄養管理実施加算 せりがや病院 15対1 精神病棟入院基本料 せりがや病院 栄養管理実施加算
8月	芹香病院 精神科ショート・ケア「大規模なもの」
9月	芹香病院 指定自立支援医療機関（通院精神医療）の指定 せりがや病院 指定自立支援医療機関（通院精神医療）の指定
12月	芹香病院 特定病院認定
19年 5月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料2 適用承認
8月	せりがや病院 精神科作業療法適用承認
20年 3月	芹香病院 老人性認知症専門病棟（A1病棟）閉床 芹香病院 生活訓練・短期静養病棟（C1病棟）閉床
4月	芹香病院 ストレスケア病棟（A2病棟）開床 芹香病院 精神科地域移行実施加算
8月	芹香病院 看護補助加算1
21年 2月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料2（A2・B2病棟）
4月	芹香病院 精神科救急入院料2（B1・B2病棟） 芹香病院 通院対象者社会復帰連携体制強化加算
6月	せりがや病院 褥瘡患者管理加算

平成21年 9 月	芹香病院 病床数（308床）変更
22年 2 月	芹香病院 指定入院医療機関の指定（2床） 芹香病院 入院対象者入院医学管理料
4 月	地方独立行政法人へ移行
5 月	芹香病院 救急医療管理加算 せりがや病院 重度アルコール依存症管理加算
6 月	芹香病院 精神科救急入院料 1（B1、B2病棟）
7 月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料 1（A2病棟）
12月	芹香病院 精神科身体合併症管理加算 せりがや病院 精神科身体合併症管理加算 せりがや病院 13対 1 精神科病棟入院基本料
23年 1 月	芹香病院 作業療法棟及び社会療法棟の撤去
9 月	芹香病院 医療観察法病棟の建設工事を開始

3 組織・機構（H24. 4. 1 現在）



※院内組織

4 職員配置状況（H24. 4. 1現在）

所属 \ 職	事務職員	技術職員	技能職員	計	非常勤職員	再雇用職員	契約職員	任期付職員
所 長		1		1				
事 務 局								
事 務 局 長	1			1				
副 事 務 局 長	1			1				
総 務 課	5			5	5		1	
経 営 企 画 課	10			10				
医 事 課	6			6	2			
栄 養 管 理 科		3	16	19	22		4	
小 計	23	3	16	42	29		5	
芹 香 病 院								
院 長		1		1				
副 院 長		2		2				
診 療 科		14		14	22			1
作 業 療 法 科		7		7			1	
デイ・ケア科	2	3		5			1	
地域医療相談室	10	4		14	1			
検 査 科	5			5	2			
薬 剤 科		5		5	2			
看 護 局 長		1		1				
副 看 護 局 長		2		2				
看 護 局		181	8	189	11	3	8	
医療安全推進室		1		1				
小 計	17	221	8	246	38	3	10	1
せりがや病院								
院 長		1		1				
診 療 科		7		7	9			
心 理・相 談 科	3			3	2			
看 護 局 長		1		1				
看 護 局		36		36	6	1	1	
小 計	3	45		48	17	1	1	
計	43	270	24	337	84	4	16	1

職種別内訳（H24. 4. 1現在）

所 属 職 種		所 長	事 務 局	芹 香 病 院	せりがや病院	計
一 般 事 務 職			23			23
栄 養 士			3			3
調 理 職			16			16
医 師		1		18	5	24
福 祉 職	ソーシャルワーカー			11	2	13
	臨 床 心 理 士			6	1	7
作 業 療 法 士				8	2	10
薬 剤 師				5	1	6
看 護 職				190	37	227
病 棟 技 能 職				8		8
総 数		1	42	246	48	337

5 施 設

【芹香病院】

土 地	111,978.980㎡		
建 物			
管 理 診 療 棟	鉄筋コンクリート造地下1階・地上4階建	3,529.963㎡	
サ ー ビ ス 棟	鉄筋コンクリート造地下1階・地上1階建	1,733.030㎡	
病 棟	鉄筋コンクリート造地下1階・地上3階建		
A 棟	〃（1F リハビリテーション部門、2F A2病棟、3F A3病棟）	4,225.214㎡	
B 棟	〃（1F B1病棟、2F B2病棟、3F B3病棟）	4,219.314㎡	
C 棟	〃（1F 看護教育部門、2F C2病棟、3F C3病棟）	4,225.214㎡	
温 室	鉄骨造平屋建（2棟）	81.000㎡	
倉 庫	軽量鉄骨造平屋建	41.400㎡	
ポ ン プ 室	鉄筋コンクリート造平屋建	64.200㎡	
営 繕 作 業 棟	鉄骨プレハブ造平屋建	79.570㎡	
保 育 施 設	鉄筋コンクリート造平屋建	321.041㎡	
喫 茶 棟	〃	91.718㎡	
車 庫 棟	〃	109.395㎡	
そ の 他	渡り廊下他	954.825㎡	
計	13棟	19,675.884㎡	

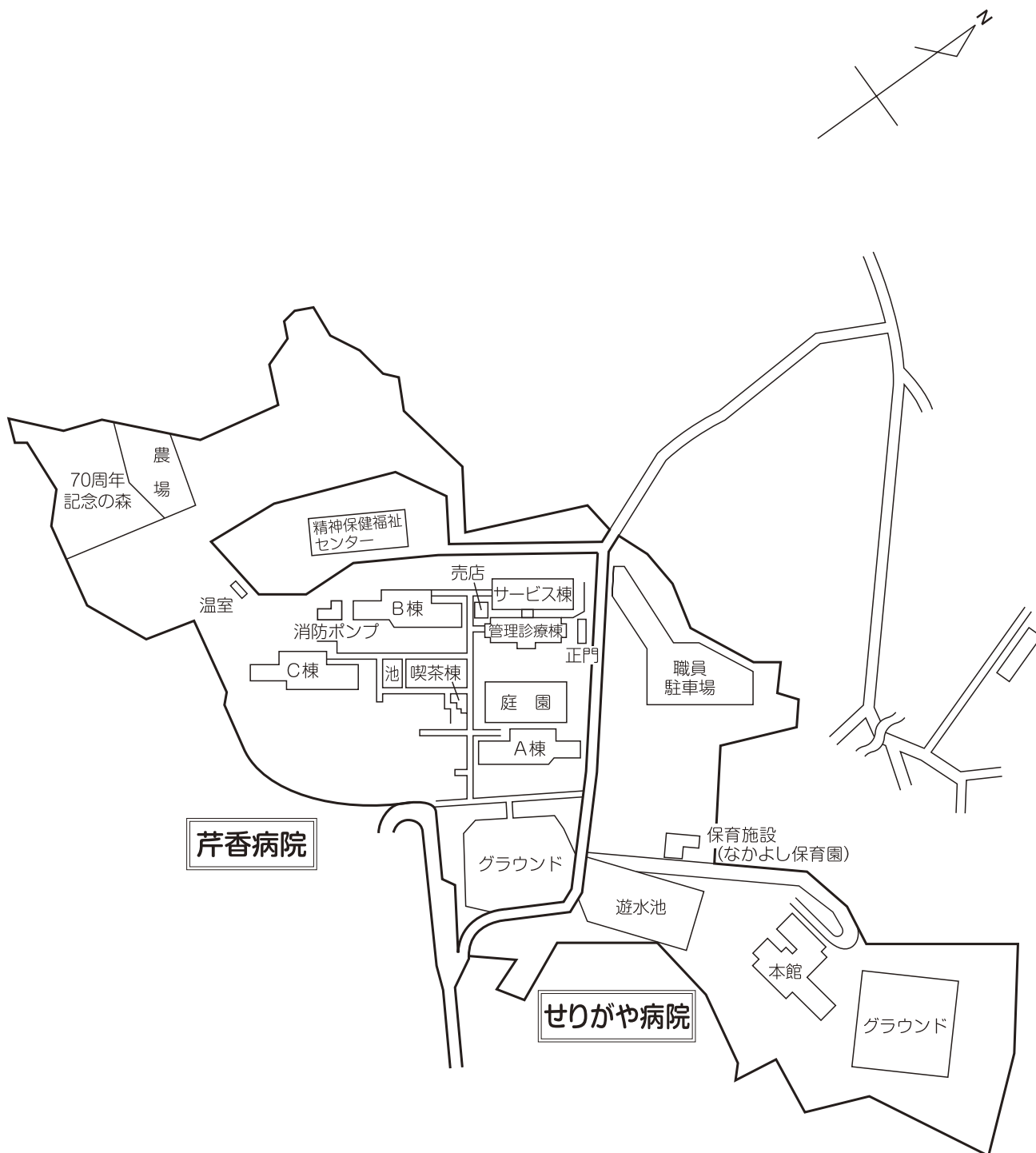
【せりがや病院】

土 地	5,196.030㎡		
建 物			
本 館	鉄筋コンクリート造地上2階建	4,426.550㎡	
車 庫	鉄骨造平屋建	21.490㎡	
倉 庫	〃	14.330㎡	
計	3棟	4,462.370㎡	

【精神医療センター計】

土 地	117,175.010㎡	
建 物	16棟	24,138.254㎡（延面積）

施設配置図



6 主な委員会・会議一覧（H24. 4. 1現在）

委員会・会議	目 的	所管課（科）	構成員数	開 催 日
管 理 者 会 議	所の運営基本方針、事業計画及び予算等の重要事項の協議決定	総 務 課	10人	月2回（第1・第3月）
経 営 会 議	両病院の経営改善の推進に必要な事項の検討	医 事 課	10人	芹香 月1回（第3月）
情 報 管 理 会 議	両病院のカルテ、看護記録等の診療情報の管理に関する事項の検討	医 事 課	11人	随時
運 営 協 議 会	所の人権に配慮した医療と効率的な運営に向けた必要事項の検討	総 務 課	13人	年1回
倫 理 審 査 委 員 会	所で行う医療等に関し、倫理上の配慮が求められる事項についての検討	総 務 課	10人	随時
機 種 等 選 定 会 議	備品購入又は委託等に係わる機種選定及び入札参加者等の適正な選定	経 営 企 画 課	11人	随時
教 育 研 修 会 議	医療人材の教育・研修及び評価並びに、成果発表会の企画・運営	看 護 局	15人	隔月
運 営 調 整 会 議	各病院の運営基本方針、事業計画及び予算等の重要事項の協議決定	総 務 課	芹香 16人 せりがや 16人	芹香 月1回（第1火） せりがや 月1回（第4水）
感 染 防 止 対 策 会 議	各病院の院内感染防止及び衛生管理対策等の検討	総 務 課 (医療安全推進室)	芹香 17人 せりがや 16人	芹香 月1回（第3火） せりがや 月1回（第2火）
医 療 事 故 防 止 対 策 会 議	各病院の医療事故の防止体制の整備・確立及び防止対策の企画・立案等	総 務 課 (医療安全推進室)	芹香 17人 せりがや 16人	芹香 月1回（第1火） せりがや 月1回（第2火）
栄 養・給 食 会 議	各病院の栄養管理・食事サービス業務の効率的な運営と向上	栄 養 管 理 科	芹香 16人 せりがや 16人	芹香 年4回 せりがや 月1回（第2火）
薬 事 会 議	各病院の医薬品の適正な管理及び効率的な運用	薬 剤 科	芹香 8人 せりがや 8人	芹香 年4回 せりがや 年2回
衛 生 委 員 会	各病院の職員の安全と健康の確保及び快適な作業環境の形成	総 務 課	芹香 9人 せりがや 10人	芹香 月1回 せりがや 月1回
看 護 科 長 会 議	各病院の看護管理に関する連絡調整及び看護組織の運営改善等の協議、看護職員の資質向上の検討	看 護 局	芹香 12人 せりがや 4人	芹香 月2回（第1・第3水） せりがや 月2回（第1・第3水）

7 主な研修実績

月	研 修	担 当	開催日	テーマ	講 師	参加者数
4 月	新採用・転入職員研修	芹香病院看護局・(総務課)	4月1日～6日(4日間)	別紙参照	別紙参照	52名
9 月	接遇研修	教育研修会議	9月12日(月) 15:30～17:30	病院スタッフのための豊かな接遇マナー「患者・家族・スタッフ間のコミュニケーション作りのコツ」	渡辺久美子	54名
10月	医療事故防止研修①	医療事故防止対策会議(山口)	10月20日(木) 15:15～16:15	安全管理	医療機器メーカー安全管理情報担当 千葉政一	100名
10月	研究発表会1回目	教育研修会議	10月12日	7部署発表		82名
11月	救急蘇生	教育研修会議	11月29日(火) 15:30～17:00	救急時の初期対応	重症集中認定看護師 がんセンター 鎌田 循呼センター 石山 小林	29名
11月	感染防止研修①	感染防止対策会議(山口)	11月7日(月) 15:15～16:15	ノロウイルス	感染管理認定看護師 二瓶比呂志	101名
12月	研究発表会2回目	教育研修会議	12月14日	8部署発表		95名
1 月	衛生委員会研修	衛生委員会(坂田)	1月19日(木) 16:00～17:00	「ストレスと依存」 ストレスをためないで楽しく仕事をするために	せりがや病院医長 中川牧子	61名
1 月	医療安全フォーラム	医療事故防止対策会議(山口)	1月31日(火) ～2月2日(木)	医療事故防止研修② 感染防止研修② 薬剤の安全管理研修		芹香病院 246名
2 月			2月6日(月) ～2月10日(金)			せりがや病院 56名
2 月	接遇研修	教育研修会議	2月17日 15:00～17:00	選ばれる病院は接遇で決まる	接遇トレーナー看護科長	40名
2 月	研修発表会3回目	教育研修会議	2月22日	5部署発表		74名
2 月	せりがや病院 医療事故防止研修	せりがや病院 医療事故防止対策会議	2月13日(月) 16:00～17:00	安全管理	医療機器メーカー安全管理情報担当 千葉政一	24名
2 月	せりがや病院 感染防止研修	せりがや病院 感染防止対策会議	2月24日(金) 15:00～16:20	ノロウイルス	感染管理認定看護師 二瓶比呂志	23名

Ⅱ 芹香病院事務事業の状況

1 芹香病院基本方針

1 県民に信頼され親しまれる病院にいたします。

常に県民のニーズを考え、その期待に応えられるようにするとともに、心あたたかい医療を実践することで親しみのある病院づくりを行います。

2 神奈川県精神科中核病院として高度で専門的な医療を提供します。

進歩発展を続ける最新の医療水準を取り入れながら、精神科救急などの専門的医療を推し進めていきます。

3 適切で円滑な入院受入れと早期退院に努力し社会復帰を支援します。

入院の必要な患者様をスムーズに受け入れるとともに、当初より早期退院を目指して計画的な援助を行い、社会復帰や地域生活を支援します。

4 患者様の権利に配慮し納得してもらえる医療を心がけます。

患者様の権利について十分配慮するとともに、インフォームド・コンセントを重視し患者様とともに治療に取り組んでいきます。

5 医療の安全管理を徹底し安心して療養できるよう努めます。

職員の安全教育を繰り返し行うとともに、安心して療養できる環境づくりにも日頃から配慮していきます。

6 県立病院として健全な経営を目指します。

公共性と医療水準を維持しながら、合理的で効果的な経営のあり方を通して、健全で自立した病院経営に努力します。

2 経理の状況

(1) 地方独立行政法人会計 決算状況

(ア) 貸 借 対 照 表

(平成24年 3月31日)

【芹香病院】

(単位：円)

科 目	金 額			
資産の部				
I 固定資産				
1 有形固定資産				
土地		8,313,272,757		
建物	789,681,279			
減価償却累計額	△ 159,933,530	629,747,749		
構築物	30,240,149			
減価償却累計額	△ 4,845,656	25,394,493		
器械備品	258,699,651			
減価償却累計額	△ 95,933,267	162,766,384		
車両	643,729			
減価償却累計額	△ 202,135	441,594		
放射性同位元素	0	0		
減価償却累計額	0	0		
建設仮勘定		760,465,970		
有形固定資産合計		9,892,088,947		
2 無形固定資産				
ソフトウェア		0		
電話加入権		14,000		
その他		0		
無形固定資産合計		14,000		
3 投資その他の資産				
長期貸付金		0		
長期前払消費税等		35,969,968		
破産更生債権等	12,348,126			
貸倒引当金	△ 12,348,126	0		
その他		832,000		
投資その他の資産合計		36,801,968		
固定資産合計			9,928,904,915	
II 流動資産				
現金及び預金		326,441,977		
医業未収金	349,572,693			
貸倒引当金	△ 6,196,661	343,376,032		
未収金		4,724,572		
たな卸資産		13,671,589		
前払費用		1,340,737		
流動資産合計			689,554,907	
資産合計				10,618,459,822

(ア) 貸 借 対 照 表
(平成24年 3 月31日)

【芹香病院】

(単位：円)

科 目	金 額			
負債の部				
I 固定負債				
資産見返負債				
資産見返補助金等	0			
資産見返寄附金	0			
資産見返物品受贈額	388,680,534			
建設仮勘定見返運営費負担金	31,848,420			
建設仮勘定見返補助金等	625,107,129	1,045,636,083		
長期借入金		90,100,000		
移行前地方債償還債務		6,625,000		
引当金				
退職給付引当金	2,164,021,227			
環境対策引当金	2,702,090	2,166,723,317		
リース債務		49,607,807		
資産除去債務		13,022,601		
固定負債合計			3,371,714,808	
II 流動負債				
寄附金債務		0		
一年以内償還予定移行前地方債償還債務		9,475,000		
一年以内返済予定長期借入金		2,700,000		
未払金		249,340,533		
一年以内支払予定リース債務		30,464,428		
未払費用		64,901,939		
未払消費税等		0		
前受金		0		
預り金		12,199,505		
引当金				
賞与引当金	166,074,324	166,074,324		
流動負債合計			535,155,729	
負債合計				3,906,870,537
純資産の部				
I 資本金				
設立団体出資金		7,150,308,506		
資本金合計			7,150,308,506	
II 資本剰余金				
資本剰余金		22,000,000		
資本剰余金合計			22,000,000	
III 利益剰余金				
当期末処理損失		△ 460,719,221		
(うち当期総損失)		(△ 377,758,709)		
利益剰余金合計			△ 460,719,221	
純資産合計				6,711,589,285
負債純資産合計				10,618,459,822

(イ) 損 益 計 算 書
(平成23年 4 月 1 日～平成24年 3 月31日)

【芹香病院】

(単位：円)

科 目	金 額		
営業収益			
医業収益			
入院収益	1,436,412,367		
外来収益	564,936,485		
児童福祉施設収益	0		
その他医業収益	17,071,663	2,018,420,515	
運営費負担金収益		1,319,382,000	
補助金等収益		38,568,256	
寄附金収益		0	
資産見返運営費負担金戻入		1,208,135	
資産見返補助金等戻入		28,772,385	
資産見返寄附金等戻入		0	
資産見返物品受贈額戻入		32,300,728	
営業収益合計			3,438,652,019
営業費用			
医業費用			
給与費	2,694,706,981		
材料費	456,381,376		
減価償却費	119,955,539		
経費	454,159,684		
研究研修費	7,291,194		
児童福祉施設費	0	3,732,494,774	
一般管理費			
給与費	0		
減価償却費	0		
経費	0	0	
控除対象外消費税等		77,643,567	
資産に係る控除対象外消費税等償却		2,527,457	
その他営業費用		0	
営業費用合計			3,812,665,798
営業利益			△ 374,013,779
営業外収益			
運営費負担金収益		124,000	
患者外給食収益		8,462,207	
不用品売却収益		26,900	
財務収益		2,060	
雑益		8,711,799	
営業外収益合計			17,326,966
営業外費用			
患者外給食費		8,273,738	
財務費用		300,543	
雑支出		929,067	
営業外費用合計			9,503,348
経常利益			△ 366,190,161
臨時利益			
その他臨時利益		5,028,284	5,028,284
臨時損失			
固定資産除却損		495,947	
その他臨時損失		16,100,885	16,596,832
当期純損失			△ 377,758,709
当期総損失			△ 377,758,709

3 業務実績

(1) 各種指標

項 目	計 算 方 式	単位	平成23年度	平成22年度	対前年度比(%)	備 考
病 床 数		床	308 (252)	308 (308)	100.0 81.8	
取 扱 患 者 数		人	111,703	122,207	91.4	
入 院 患 者		人	74,223	84,081	88.3	
外 来 患 者		人	37,480	38,126	98.3	
1 日 平 均 取 扱 患 者 数		人	356.4	387.3	92.0	
入 院 患 者	取扱入院患者数／年間日数 365日	人	202.8	230.4	88.0	
外 来 患 者	取扱外来患者数／年間外来診療日数	人	153.6	156.9	97.9	
病 床 利 用 率	取扱入院患者数／延病床数×100	%	65.9 (67.9)	74.8 (74.8)	88.1 90.8	
平 均 在 院 日 数	入院延患者数／(入院患者数＋退院患者数)×0.5	日	123.6	122.6	100.8	
入 院 外 来 患 者 比 率	取扱外来患者数／取扱入院患者数×100－100	%	50.5	45.3	111.5	
医師・看護師1人当たりの取扱患者数						
医 師	取扱患者数／医師延人数	人	16.1	17.6	91.4	
看 護 師	取扱患者数／看護師延人数	人	1.7	1.9	89.4	
職 員 数		人	279	262	106.4	期 末 人 数
医 師		人	19	19	100.0	期 末 人 数
看 護 師		人	179	180	99.4	期 末 人 数
そ の 他 職 員		人	81	63	128.5	期 末 人 数
病 床100床 当 た り の 職 員 数	全職員数／病床数×100	人	90.5	85.1	106.3	
医 師	職員数／病床数×100	人	6.1	6.2	98.3	
看 護 師	職員数／病床数×100	人	58.1	58.4	99.4	
そ の 他 職 員	職員数／病床数×100	人	26.2	20.5	127.8	
患 者 1 人 当 た り の 収 益	医業収益／取扱患者数	円	18,069	17,418	103.7	
入 院 患 者	入院収益／入院患者数	円	19,352	18,619	103.9	
外 来 患 者	外来収益／外来患者数	円	15,073	14,214	106.0	
医師・看護師1人1日当たりの収益						
医 師	医業収益／医師延人数	円	291,048	306,949	94.8	
看 護 師	医業収益／看護師延人数	円	30,893	32,700	94.4	
患 者1人1日 当 た り の 費 用	医業費用／取扱患者数	円	33,414	29,215	114.3	
患 者1人 当 た り の 薬 品 費	薬品費／取扱患者数	円	3,364	3,075	109.3	
患 者1人 当 た り の 給 食 材 料 費	給食材料費／入院患者数	円	912	878	103.8	
医 業 収 益 に 対 す る 費 用 比 率	医業費用／医業収益×100	%	184.0	168.0	109.5	
給 与 費	給与費／医業収益×100	%	133.0	116.6	114.0	
材 料 費	材料費／医業収益×100	%	22.6	21.8	103.6	
経 費	経費／医業収益×100	%	22.5	22.1	101.8	

(注) 医師、看護師の延人数は、期末の在籍人数に365日（平成23・22年度共）を乗じ算出した

(注) 「病床数」欄の（ ）内は稼働病床数を示す

(注) 「病床利用率」欄の（ ）内は稼働病床数の病床利用率を示す

4 患者の状況

(1) 外来患者の状況

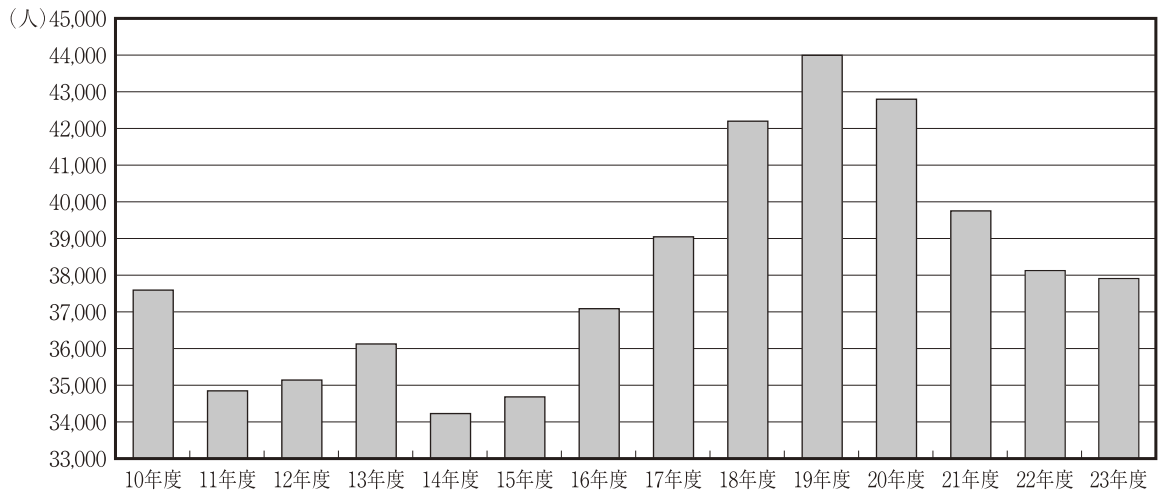
延患者数では646人減で対前年度比1.4%減となっている。また、新患については117人減の対前年度比14.8%減となっている。新外来患者数の病類別は、統合失調症が前年度に比べ4.1ポイント減で、全体の35.2%を占めている。

ア 月別外来患者数

年度	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
23	新 患	53	62	48	52	52	60	62	46	53	58	77	50	673
	再 来	3,055	2,893	3,086	3,000	3,347	2,986	3,040	3,195	2,978	3,021	3,052	3,154	36,807
	延患者数	3,108	2,955	3,134	3,052	3,399	3,046	3,102	3,241	3,031	3,079	3,129	3,204	37,480
	一日平均	155.4	155.5	142.5	152.6	147.8	152.3	155.1	162.1	159.5	162.1	149.0	152.6	153.6
22	新 患	83	77	71	79	54	63	56	62	60	91	39	55	790
	再 来	3,299	2,869	3,179	3,248	3,173	3,047	3,179	3,117	3,065	2,915	2,905	3,340	37,336
	延患者数	3,382	2,946	3,250	3,327	3,227	3,110	3,235	3,179	3,125	3,006	2,944	3,395	38,126
	一日平均	161.0	163.7	147.7	158.4	146.7	155.5	161.8	159.0	164.5	158.2	154.3	154.3	156.9

(注) 精神科のほか、内科・歯科受診者を含む

イ 外来患者数の年次推移状況



ウ 病類別新外来患者数

年度	病類(ICD) 区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)		生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計
		老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害			心因反応	その他神経症性障害						
23	男	3	8	12	5	3	98	111		13	2	0	1		13	269
	女	2	8	3	2	2	92	113		30	2	10	2		5	271
	計	5	16	15	7	5	190	224		43	4	10	3		18	540
	構成比	0.9	3.0	2.8	1.3	0.9	35.2	41.5		8.0	0.7	1.9	0.5		3.3	100.0
22	男	1	7	10	3	2	127	131		34	1	1	2		8	327
	女	1	13	4		1	118	98		45	1	9	4		1	295
	計	2	20	14	3	3	245	229		79	2	10	6		9	622
	構成比	0.3	3.2	2.5	0.5	0.5	39.3	36.8		12.7	0.3	1.6	0.9		1.4	100.0

(注) 新外来患者とは、精神科初診患者と6ヵ月以上通院していない再初診患者のこと

工 年齢別新外来患者数

年 度	年 齢 区 分	年 齢							計
		19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
23	男	8	37	66	85	38	17	18	269
	女	13	46	74	50	27	36	25	271
	計	21	83	140	135	65	53	43	540
	構成比	3.9	15.4	25.9	25.0	12.0	9.8	8.0	100.0
22	男	9	45	79	97	42	26	29	327
	女	10	40	87	62	43	25	28	295
	計	19	85	166	159	85	51	57	622
	構成比	3.1	13.6	26.7	25.6	13.6	8.2	9.2	100.0

オ 地域別実外来患者数

居住地域		年 度		居住地域		年 度		居住地域		年 度	
		23	22			23	22			23	22
横 浜 市	鶴 見 区	33	39	横 須 賀 市	平 塚 市	11	12	足 柄 上 郡	中 井 町	2	0
	神 奈 川 区	64	62		鎌 倉 市	49	48		大 井 町	0	1
	西 区	59	72		藤 沢 市	60	54		松 田 町	0	0
	中 区	81	86		小 田 原 市	5	14		山 北 町	1	0
	南 区	408	436		茅 ケ 崎 市	16	19		開 成 町	0	2
	港 南 区	439	461		逗 子 市	13	14	足 柄 下 郡	箱 根 町	1	2
	保 土 ケ 谷 区	144	158		相 模 原 市	2	6		真 鶴 町	0	1
	旭 区	77	84		三 浦 市	12	15		湯 河 原 町	0	1
	磯 子 区	177	180		秦 野 市	3	6		県 内 計	2,514	2,706
	金 沢 区	120	119		厚 木 市	8	12	東 京 都	東 京 都	23	24
	港 北 区	30	39		大 和 市	16	16		埼 玉 県	3	5
	緑 区	22	24		伊 勢 原 市	1	4		千 葉 県	3	8
	戸 塚 区	280	309		海 老 名 市	9	7		群 馬 県	0	0
	瀬 谷 区	28	32		座 間 市	5	4		栃 木 県	2	0
	栄 区	82	90		南 足 柄 市	5	3		山 梨 県	0	1
	泉 区	84	82		綾 瀬 市	6	4		静 岡 県	4	4
	青 葉 区	13	22		三 浦 郡 葉 山 町	1	2		茨 城 県	1	1
	都 筑 区	15	19		高 座 郡 寒 川 町	3	2		そ の 他 の 県	43	26
	川 崎 市	63	60		愛 甲 郡	1	2		県 外 計	79	69
川 崎 市	川 崎 区	14	18		愛 川 町	1	2	住 所 不 明	計	2,593	2,775
	幸 区	5	6		清 川 村	0	0				
	中 原 区	11	12		中 郡	2	6				
	高 津 区	2	6		大 磯 町	2	5				
	宮 前 区	9	6		二 宮 町	0	1				
	多 摩 区	10	8								
	麻 生 区	12	4								

(注) 新患・再来を含め、同一患者について一人としてカウントした数

(2) 入退院患者の状況

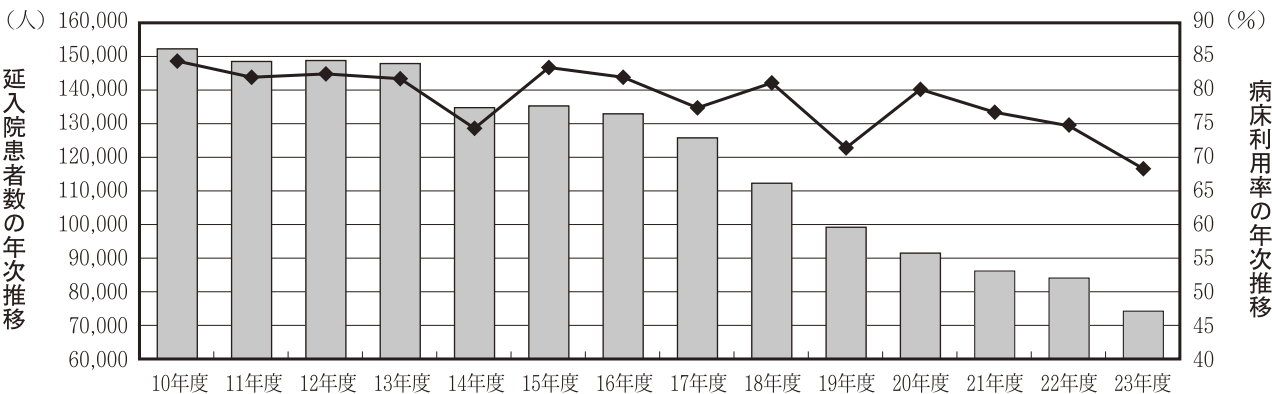
平成23年度は、延患者数74,233人で前年度と比べ9,848人減で対前年度比11.7%減となっている。病床利用率は68.3%で対前年度比6.5ポイントの減となっている。入院患者は前年度に比べ11.9%減となっている。病類別は統合失調症が最も多く36.6%を占めているが、新入院患者では気分障害が全体の41.3%で前年度に比べ1.6ポイント増え、統合失調症に次ぎ大きなウェイトを占める。これは平成20年4月からうつ病対策としてストレスケア病棟を開棟したことによるものである。入院形態は任意入院の構成比が対前年度比0.1ポイント増、医療保護入院が1.0ポイント減、措置入院が4.2ポイント増、鑑定入院は0.6ポイント減となっている。臨床研究入院は2.4ポイントと減少している。

ア 月別入退院患者数

年度	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
23	入院	38	52	53	50	51	53	60	55	45	51	46	40	594
	退院	49	47	52	56	49	44	55	57	48	53	43	54	607
	延患者数	5,991	6,195	6,058	6,090	6,131	6,023	6,492	6,334	6,405	6,319	5,861	6,334	74,233
	病床利用率	64.8	64.9	65.6	63.8	64.2	65.2	68.0	68.5	67.1	66.2	80.2	81.1	68.3
22	入院	69	61	75	63	67	55	59	52	43	42	39	49	674
	退院	65	56	73	72	59	75	45	58	51	37	55	52	698
	延患者数	7,065	7,338	7,114	7,352	7,407	7,023	7,202	6,974	6,995	7,036	6,044	6,531	84,081
	病床利用率	76.5	76.9	77.0	77.0	77.6	76.0	75.4	75.5	73.3	73.7	70.1	68.4	74.8

(注) 月別に新たに入院した数

イ 延入院患者数及び病床利用率の年次推移状況



ウ 病類別新入院患者数

年度	病類 (ICD) 区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)		生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計
		老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害			心因反応	その他神経症性障害						
23	男	2	9	5	4	3	59	64		7	1	0	1		3	158
	女	2	2	0	3	0	57	67		19	0	6	2		1	159
	計	4	11	5	7	3	116	131		26	1	6	3		4	317
	構成比	1.3	3.5	1.6	2.2	0.9	36.6	41.3	0.0	8.2	0.3	1.9	0.9	0.0	1.3	100.0
22	男	3	5	5	1	4	76	82		12	0	1	1		5	195
	女	2	3	1	1	1	76	66		19	1	3	3		2	178
	計	5	8	6	2	5	152	148		31	1	4	4		7	373
	構成比	1.3	2.1	1.6	0.5	1.3	40.8	39.7	0.0	8.3	0.3	1.1	1.1	0.0	1.9	100.0

(注) 新入院患者とは、当病院に初めて入院した患者のこと

工 病類別・年齢別実入院患者数

年度	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)		生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	年齢構成比
	年齢	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害			心因反応	その他神経症性障害							
23	19歳以下	男						5			1					1	7	2.2
		女						3	2		3			1		1	10	
		小計						8	2		4			1		2	17	
	20～29歳	男		2				26	5		2	1		1		4	41	9.2
		女				1		11	7		8		2	2			31	
		小計		2		1		37	12		10	1	2	3		4	72	
	30～39歳	男		1		1	1	47	16		1			3		3	73	20.1
		女				2	2	50	18		8		5				85	
		小計		1		3	3	97	34		9		5	3		3	158	
	40～49歳	男		6	4	3	2	61	35		2			1		1	115	27.9
		女						63	29		8		3	1			104	
		小計		6	4	3	2	124	64		10		3	2		1	219	
	50～59歳	男		2			1	51	28		4						86	17.7
		女						27	21		5						53	
		小計		2			1	78	49		9						139	
	60～69歳	男		3	2		1	40	7		3						56	15.6
		女	2	2				40	19		3						66	
		小計	2	5	2		1	80	26		6						122	
	70歳以上	男	4	4				11	9					1			29	7.3
		女	1					13	14								28	
		小計	5	4				24	23					1			57	
	計	男	4	18	6	4	5	241	100		13	1		6		9	407	100.0
		女	3	2		3	2	207	110		35		10	4		1	377	
		計	7	20	6	7	7	448	210		48	1	10	10		10	784	
		構成比	0.9	2.5	0.8	0.9	0.9	57.1	26.8		6.1	0.1	1.3	1.3		1.3	100.0	
年度	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)		生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	年齢構成比
	年齢	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害			心因反応	その他神経症性障害							
22	19歳以下	男						1			2					2	5	2.3
		女						7			7			1		1	16	
		小計						8			9			1		3	21	
	20～29歳	男					1	33	7		3		1			3	48	9.9
		女				1	2	21	7		4		3	2		1	41	
		小計				1	3	54	14		7		4	2		4	89	
	30～39歳	男		2	1	4	2	77	18		1			2		4	111	22.9
		女		1		2	3	53	22		9	1	2	2		0	95	
		小計		3	1	6	5	130	40		10	1	2	4		4	206	
	40～49歳	男		4	1	1	1	73	49		6					1	136	25.4
		女		2	1		1	48	27		11		2	1			93	
		小計		6	2	1	2	121	76		17		2	1		1	229	
	50～59歳	男		3		1	3	53	24		2						86	18.4
		女						53	23		3					1	80	
		小計		3		1	3	106	47		5					1	166	
	60～69歳	男	1	7	3			45	16		1						73	14.8
		女	1	2				37	17		3						60	
		小計	2	9	3			82	33		4						133	
	70歳以上	男	3		1			14	10					1			29	6.3
		女	5	3				7	12		1						28	
		小計	8	3	1			21	22		1			1			57	
	計	男	4	16	6	6	7	296	124		15		1	3		10	488	100.0
		女	6	8	1	3	6	226	108		38	1	7	6		3	413	
		計	10	24	7	9	13	522	232		53	1	8	9		13	901	
		構成比	1.1	2.7	0.8	1.0	1.4	57.9	25.8		5.9	0.1	0.9	1.0		1.4	100.0	

(注) 実入院患者数とは、前年度末に在院していた患者数に、当年度に新たに入院した患者数を足した数

オ 地域別実入院患者数

年度 居住地域		23	22	年度 居住地域		23	22	年度 居住地域		23	22
横 浜 市		547	649	横 須 賀 市	18	26	足 柄 上 郡		3	2	
	鶴 見 区	8	11	平 塚 市	9	13	中 井 町		2	0	
	神 奈 川 区	19	19	鎌 倉 市	16	17	大 井 町		0	1	
	西 区	19	21	藤 沢 市	39	31	松 田 町		0	0	
	中 区	18	27	小 田 原 市	2	12	山 北 町		1	1	
	南 区	87	116	茅 ケ 崎 市	13	17	開 成 町		0	0	
	港 南 区	107	115	逗 子 市	5	7	足 柄 下 郡		0	3	
	保 土 ケ 谷 区	44	49	相 模 原 市	25	12	箱 根 町		0	2	
	旭 区	22	25	三 浦 市	3	5	真 鶴 町		0	1	
	磯 子 区	43	37	秦 野 市	2	5	湯 河 原 町		0	0	
	金 沢 区	30	37	厚 木 市	5	9	県 内 計		760	874	
	港 北 区	13	22	大 和 市	11	9	東 京 都		6	9	
	緑 区	8	13	伊 勢 原 市	0	3	埼 玉 県		0	3	
	戸 塚 区	74	86	海 老 名 市	3	5	千 葉 県		0	3	
	瀬 谷 区	7	14	座 間 市	2	1	茨 城 県		1	0	
	栄 区	19	18	南 足 柄 市	4	1	群 馬 県		0	0	
	泉 区	24	25	綾 瀬 市	1	2	栃 木 県		2	0	
	青 葉 区	3	10	三 浦 郡 葉 山 町	1	1	静 岡 県		4	3	
	都 筑 区	2	4	高 座 郡 寒 川 町	1	2	そ の 他 の 県		8	4	
	川 崎 市		46	35	愛 甲 郡	2	3	県 外 計		21	22
川 崎 区		10	12	愛 川 町	2	3	住 所 不 明		3	5	
幸 区		3	6	清 川 村	0	0	計		784	901	
中 原 区		4	4	中 郡	2	4					
高 津 区		3	2	大 磯 町	2	3					
宮 前 区		8	5	二 宮 町	0	1					
多 摩 区		7	5								
麻 生 区		11	1								

カ 入院費負担区分別患者数（平成24年3月末現在在院患者一覧表）

年度	負担区分 区分	健康保険法		国民健康 保 険 法	生 活 保 護 法	精神保健 福 祉 法	感染症法 (第37条)	自 費	そ の 他	計
		本 人	家 族							
23	男	7	7	73	18	6			3	114
	女	1	7	45	19	4				76
	計	8	14	118	37	10			3	190
	構成比	4.2	7.4	62.1	19.5	5.2			1.6	100.0
22	男	6	9	85	20	8		1	3	132
	女		7	47	12	4		1		71
	計	6	16	132	32	12		2	3	203
	構成比	2.9	7.9	65.0	15.8	5.9		1.0	1.5	100.0

（注）本表のその他とは、「臨床研究入院」「医療観察法」等の患者が含まれる

キ 入院形態別患者数

年度	形態	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		区分													
23	任意	男	4	13	10	8	9	8	11.0	8	5	7	6	7	96
		女	9	11	12	13	11	11	15	14	11	11	10	8	136
		小計	13	24	22	21	20	19	26	22	16	18	16	15	232
		構成比	34.2	46.2	41.5	42.0	39.2	35.8	43.4	40.0	35.6	35.3	34.8	37.5	39.1
	医療保護	男	10	9	10	4	10	14	11	12	12	13	10	11	126
		女	6	3	11	13	14	11	7	9	7	13	11	6	111
		小計	16	12	21	17	24	25	18	21	19	26	21	17	237
		構成比	42.1	23.1	39.6	34.0	47.1	47.2	30.0	38.2	42.2	51.0	45.7	42.5	39.9
	措置	男	4	7	6	5	5	4	6	5	7	4	4	3	60
		女	5	7	3	4	1	3	8	4	3	3	5	4	50
		小計	9	14	9	9	6	7	14	9	10	7	9	7	110
		構成比	23.7	26.9	17.0	18.0	11.7	13.2	23.3	16.4	22.2	13.7	19.5	17.5	18.5
	鑑 定	男								1					1
		女					1								1
		小計					1			1					2
		構成比					2.0			1.8					0.3
	医療法 特例措置	男													
		女													
		小計													
		構成比													
	医療法 入院処遇	男				1		1							2
		女													
		小計				1		1							2
		構成比				2.0		1.9							0.3
	臨床研究	男		1	1	2			2	1				1	8
		女		1				1		1					3
		小計		2	1	2		1	2	2				1	11
		構成比		3.8	1.9	4.0		1.9	3.3	3.6				2.5	1.9
	計	男	18	30	27	20	24	27	30	27	24	24	20	22	293
		女	20	22	26	30	27	26	30	28	21	27	26	18	301
		計	38	52	53	50	51	53	60	55	45	51	46	40	594
22	任意	男	11	14	18	13	12	13	10	10	6	6	10	9	132
		女	22	9	19	10	17	13	19	12	8	11	8	5	153
		小計	33	23	37	23	29	26	29	22	14	17	18	14	285
		構成比	48.8	32.8	47.9	38.1	36.2	35.8	38.5	37.1	23.4	47.1	41.0	39.3	39.0
	医療保護	男	9	13	11	7	10	13	10	9	11	9	9	11	122
		女	11	15	17	17	15	8	6	9	10	6	3	8	125
		小計	20	28	28	24	25	21	16	18	21	15	12	19	247
		構成比	48.8	43.1	38.0	36.5	50.8	37.7	37.1	31.4	61.7	33.3	42.9	36.1	40.9
	措置	男	9	5	4	8	5	7	5	6	4	5	4	9	71
		女	5	3	3	3	3	1	5	4	3	1	3	6	40
		小計		8	7	11	8	8	10	10	7	6	7	15	97
		構成比		15.5	7.1	20.6	11.6	20.8	18.6	28.6	14.9	11.8	14.3	11.5	14.3
	鑑 定	男					1		1			1			3
		女	1												1
		小計										1			1
		構成比		1.7	1.4	1.6		1.9				3.9			0.9
	医療法 特例措置	男													
		女													
		小計													
		構成比							2.9						0.3
	医療法 入院処遇	男													0
		女													
		小計													
		構成比												3.3	0.3
	臨床研究	男	1	1	2	3	3		1	1	1	3	2	1	19
		女		1	1	2	1		2	1					8
		小計	1	2	3	5	4		3	2		3	2	1	26
		構成比	2.4	6.9	5.6	3.2	5.8	3.8	2.9	2.9		3.9	1.8	9.8	4.3
	計	男	30	33	35	31	31	33	27	26	22	24	25	30	347
		女	39	28	40	32	36	22	32	26	21	18	14	19	327
		計	69	61	75	63	67	55	59	52	43	42	39	49	674

ク 病類別・在院期間別在院患者数

年度	期間	区分	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)			中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)		生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
			老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その中毒性精神障害						心因反応	その他神経症性障害							
23	1年未満	男		4	1					31	12		2				1		1	52	50.0
		女						1		25	14		2				1			43	
		小計		4	1			1		56	26		4				2		1	95	
	1～2年	男		1						18	1									20	16.3
		女								11										11	
		小計		1						29	1									31	
	3～4年	男								7	1									8	6.8
		女								5										5	
		小計								12	1									13	
	5～9年	男								10										10	11.1
		女								11										11	
		小計								21										21	
	10～19年	男								14	1									15	10.5
		女								5										5	
		小計								19	1									20	
	20～29年	男								6										6	3.7
		女								1										1	
		小計								7										7	
	30年以上	男								3										3	1.6
		女																		0	
		小計								3										3	
	計	男		5	1					89	15		2				1		1	114	100.0
		女						1		58	14		2				1			76	
		計		5	1			1		147	29		4				2		1	190	
		構成比		2.6	0.5			0.5		77.4	15.3		2.1				1.1		0.5	100.0	
年度	期間	区分	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)			中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)		生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
			老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その中毒性精神障害						心因反応	その他神経症性障害							
22	1年未満	男		1	2	1				41	15		1						2	63	48.8
		女		1				2		22	8						1		2	36	
		小計		2	2	1	2	2		63	23		1						4	99	
	1～2年	男		2						20										22	16.7
		女								12										12	
		小計		2						32							0			34	
	3～4年	男								8	1									9	8.4
		女								8										8	
		小計								16										17	
	5～9年	男								12	1									13	11.8
		女								11										11	
		小計								23	1									24	
	10～19年	男								16										16	9.9
		女								4										4	
		小計								20										20	
	20～29年	男								6										6	3.0
		女																			
		小計								6										6	
	30年以上	男								3										3	1.5
		女																			
		小計								3										3	
	計	男		3	2	1				106	17		1						2	132	100.0
		女		1				2		57	8						1		2	71	
		計		4	2	1	2	2		163	25		1				1		4	203	
		構成比		2.0	1.0	0.5	1.0			80.2	12.3		0.5				0.5		2.0	100.0	

ケ 病類別・転帰別退院患者数

病類 (ICD)			脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)		生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
年度	転帰	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害			心因反応	その他神経症性障害							
			23	全開	男													
女																		
小計																		
軽快	男	1		7	5	5	2	102	58		8		3	4		9	204	72.2
	女			4	1	5		105	65		29		15	6		4	234	
	小計	1		11	6	10	2	207	123		37		18	10		13	438	
未治	男			1				3	5		1						10	3.0
	女			1				2	3		2						8	
	小計			2				5	8		3						18	
転医	男	1		9	6	3	1	49	9		3			3			84	21.9
	女	2				1		32	8		4	1		1			49	
	小計	3		9	6	4	1	81	17		7	1		4			133	
死亡	男							2									2	0.5
	女							1									1	
	小計							3									3	
鑑定了	男							1									1	0.3
	女								1								1	
	小計								1	1							2	
医観法入院処遇終了	男							2									2	0.3
	女																	
	小計							2									2	
臨研終了	男								7		1						8	1.8
	女								3								3	
	小計								10		1						11	
計	男	2		17	11	8	3	159	79		13		3	7		9	311	100.0
	女	2		5	1	6		140	80		35	1	15	7		4	296	
	計	4		22	12	14	3	299	159		48	1	18	14		13	607	
	構成比	0.7		3.6	2.0	2.3	0.5	49.2	26.2		7.9	0.2	3.0	2.3		2.1	100.0	

病類 (ICD)			脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)		生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
年度	転帰	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害			心因反応	その他神経症性障害							
			22	全開	男													
女																		
小計																		
軽快	男	5		8	5	4	2	126	71		11		2	3		8	245	74.3
	女	3		6	1	3	2	127	66		50		8	3		5	274	
	小計	8		14	6	7	4	253	137		61		10	6		13	519	
未治	男							6	4							1	11	3.2
	女						1		7		1		2				11	
	小計						1	6	11		1		2			1	22	
転医	男	1		4	1	2	2	57	5		1		1			1	75	17.3
	女	1		2		1		33	4		2		1	2			46	
	小計	2		6	1	3	2	90	9		3		2	2		1	121	
死亡	男							2									2	0.6
	女	1						1									2	
	小計	1						3									4	
鑑定了	男				1			3									4	0.7
	女							1									1	
	小計							4									4	
医観法入院処遇終了	男																	
	女																	
	小計																	
臨研終了	男								19								19	3.9
	女								8								8	
	小計								27								27	
計	男	6		12	7	6	4	194	99		12		3	3		10	356	100.0
	女	5		8	1	4	3	162	85		53		11	5		5	342	
	計	11		20	8	10	7	356	184		65		14	8		15	698	
	構成比	1.6		2.9	1.1	1.4	1.0	51.0	26.4		9.3		2.0	1.1		2.2	100.0	

コ 病類別・在院期間別退院患者数（23年度）

病類(ICD)	期間	区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)		生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
			老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害			心因反応	その他神経症性障害							
1年未満	男		2	15	11	8	3	141	79		12		3	7		9	290	95.3
	女		2	5	1	5		135	80		35	1	15	7		3	289	
	小計		4	20	12	13	3	276	159		47	1	18	14		12	579	
1～2年	男							9									9	2.0
	女					1		2									3	
	小計					1		11									12	
3～4年	男			1				3			1						5	1.0
	女															1	1	
	小計			1				3			1					1	6	
5～9年	男							4									4	0.8
	女							1									1	
	小計							5									5	
10～19年	男							2									2	0.7
	女							2									2	
	小計							4									4	
20～29年	男			1													1	0.2
	女																	
	小計			1													1	
30年以上	男																	0.0
	女																	
	小計																	
計	男		2	17	11	8	3	159	79		13		3	7		9	311	100.0
	女		2	5	1	6		140	80		35	1	15	7		4	296	
	計		4	22	12	14	3	299	159		48	1	18	14		13	607	
	構成比		0.7	3.6	2.0	2.3	0.5	49.2	26.2		7.9	0.2	3.0	2.3		2.1	100.0	

(3) 救急医療の状況

年度	区分	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
23	取扱件数	(12) 19	(14) 21	(9) 14	(10) 27	(7) 17	(7) 22	(15) 26	(10) 18	(11) 23	(8) 24	(8) 16	(7) 17	(118) 244
	入院	(9) 13	(13) 17	(9) 12	(9) 18	(6) 15	(7) 16	(14) 19	(9) 15	(10) 17	(7) 15	(8) 14	(7) 13	(108) 184
	外来処置	(3) 6	(1) 4	(0) 2	(1) 9	(1) 2	(0) 6	(1) 7	(1) 3	(1) 6	(1) 9	(0) 2	(0) 4	(10) 60
22	取扱件数	(16) 25	(12) 19	(11) 30	(12) 18	(9) 20	(9) 23	(12) 20	(10) 19	(9) 22	(7) 13	(8) 12	(15) 26	(130) 247
	入院	(13) 17	(10) 13	(7) 17	(11) 15	(9) 17	(8) 14	(10) 13	(10) 14	(7) 14	(6) 9	(7) 10	(15) 18	(113) 171
	外来処置	(3) 8	(2) 6	(4) 13	(1) 3	(0) 3	(1) 9	(2) 7	(0) 5	(2) 8	(1) 4	(1) 2	(0) 8	(17) 76

(注) () は、精神保健診察件数で内数

5 業務の状況

(1) 看護

ア 看護局の概要

(ア) 病院機能と看護職員配置（H24. 3. 31現在）

看護局長 1名		副看護局長（業務担当）1名 （教育担当）1名			
病棟	病棟機能	病床数	看護科長	看護職員 定数	病棟 技能員
A-2	ストレスケア病棟 開放病棟	37 保護室 1	1	16	2
A-3	総合治療病棟 閉鎖病棟	50 保護室 6 静養室 6	1	20	2
B-1 みなと・みらい	救急病棟 閉鎖病棟 医療観察法病棟	24 保護室14 静養室 4 2	1	26 3	2
B-2	救急病棟 閉鎖病棟	34 保護室 6 静養室 5	1	20	2
B-3	医療介護病棟 （含重症認知症・結核） 閉鎖病棟	結核 2 45 一般病床 保護室 2 静養室 2	1	24	2
C-2	一般病棟 閉鎖病棟	60 保護室 3 静養室 2	1	20	2
C-3	一般病棟（男子） 閉鎖病棟	56 休床			
F病棟 （医療観察法病棟）	医療観察法病棟 閉鎖病棟	（24年11月開棟33床予定）	1	42	0
小計		308	7	171	12
外来			1	6	
医療安全推進室				1	
地域医療相談室				4	
デイ・ケア				1	
看護教育科				1	
看護局	看護管理			3	
合計			8	187	12

(イ) 看護局活動

＜看護局理念＞

私たちは患者さんの尊厳と人権を尊重し最善の利益を考えた看護を提供します。

＜看護局方針＞

患者さんの自己決定・自立を支援し患者さんと共に可能性にチャレンジします。

〈平成23年度 看護局目標の評価〉

目 標	中目標	評価指標
1. 私たちは患者さんの尊厳と人権を尊重し、安全で安心な看護をめざします。	1) 患者さんの人権を尊重し、自己決定を支援します。 2) こころあたかな看護を提供します 3) 安全で安心な療養環境を整えます。 4) 患者さんと共に行う事故防止と感染防止に努めます。	・患者参加型カンファレンスの実施率 ・接遇マナーチェック実施と向上 ・与薬事故報告書件数の減少 ・転倒・転落アクシデント報告の減少 ・学習会参加率80%以上 ・患者参加型の学習会の実施
2. 私たちは総合整備計画に参画します。	総合整備に必要な部門検討に寄与します	・病院、セクションで行う説明会・検討会の実施状況 ・セクション目標の設定と運用状況

評 価

○必要時に患者の同意の元に行った患者参加型カンファレンスの実施件数（表1）。カンファレンス後は、患者の協力を得て看護実践に生かすことが出来ている。

表1 患者参加型カンファレンス実施件数等

A3	実施率80%、個々のカンファレンス時には患者の参加を促す。内容対人関係の対処方法について
B2	15件 内容不明
B3	21件 カンファレンス内容は患者の協力を得て看護実践している。
C2	66件/月 患者の気持ちや希望を尊重した看護計画・実践している。
C3	セルフケア能力維持向上、対人関係能力向上について患者と共に実践している。
外来	患者に声かけ等を行い、ショートカンファレンスを行い、問題の持越しが減少した。

【次年度の課題】

評価方法に件数や実施内容などバラツキがみられるため統一が必要。また、成功要因について看護プロセスが記述されていること。

○接遇マナーチェックでは、各部署内で現任教育担当者と共に達成率70%に満たない項目の改善の強化に取り組んだ。また、患者満足度の看護師の対応・病院全体の満足度については下記のとおりであった。

看護師の対応について	満足	不満足	入院時病院全体の満足度	満足	不満足
23年度	69%	22%	23年度	63%	27%
22年度	68%	20%			

【次年度の課題】

3項目「指示的・命令的な語調」「すぐに対応できないときの具体的説明」「ホール・廊下等で大きな声で呼ばない」の項目について70%以上を目指す。また他者評価など客観的評価が必要である。

○事故報告件数（表2）は4月～12月の9ヶ月間に事故件数は50件以上減少、特に内服薬は25件減少、転倒転落は昨年とほぼ同数であった。与薬については与薬・職場ラウンド実施し、問題点には注意喚起し各部署で検討し取組みを行った。

表2 内服薬・転倒転落の比較

	事故総数	内服薬	転倒転落	合 計	事故総数に占める内服薬、転倒・転落の割合
23年	310	82	74	157	51%
22年	365	107	73	180	49%

院内学習会の参加については伝達講習を含めると80%以上の参加となり、達成している。

	事故防止研修会	感染防止研修	医療安全フォーラム
23年度（看護職員185名）	58+（134）=192（103%）	58+（95）=108（58%）	154（83%）
22年度（看護職員181名）	51+（106）=157（87%）	71+（76）=147（81%）	158（87%）

（ ）伝達講習 * 参加者の再回答を含む

患者参加型研修企画は検討できず実施に至らなかった。

【次年度の課題】

各部署の事故防止の取組み方法に違いはあるが、緊急を要するものについては病棟カンファレンスで検討し、必要時業務の見直しやスタッフや患者の協力を得て実践している。しかし、事故防止看護部会会議では、この会議の後に代理会議があり、事故の報告に時間が費やされ検討ができない現状が見られたため、会議の持ち方を考える必要がある。

患者参加型の学習会は目標を明確にし、企画・検討していくことが必要である。

○全体説明会は3回行われた。看護部門ヒアリングでは対象となる看護科長の出席や病棟の共通懸案事項については臨時科長会議を行い、4～5回検討した。また設計図については図面を見ることができるようになし、常時看護局のテーブルに置いた。新棟及び医療観察法病棟の進行状況は、工事工程表を各部署に配布し周知に努めた。

○効果的・効率的運用については、6月に部署毎にヒアリングで今年度の目標数値を設定し運用に努めた。また、C2・C3病棟統合に伴い転棟計画に基づき11月から始まり1月13日に完了し、それに伴い一般病棟（A3・C2）では利用率が86%～73%の状況である。このためベッド調整が困難となり、救急病棟運営に影響を及ぼしている。全体の目標達成には至らなかった。

病床利用率：4～12月平均65.8%

	A2	A3	B1	B2	B3	C2	C3	合計
目標数値	75%	82%	85%	88%	70%	60%	65%	
4～12月実績	56.5%	74.9%	84.1%	80.2%	59.0%	61.0%	56.7%	65.8%
平成22年度実績	68.6%	79.6%	86.9%	87.5%	61.6%	67.8%	79.3%	74.8%

3. 私たちはチーム医療を推進し患者さんの地域での生活を支援します。	1) 入院時から退院に向けて支援します。 2) 多職種と協働し、地域との連携を図りチーム医療を支援します。	・退院前訪問、他職種カンファレンスの実施 ・地域を交えた他職種カンファレンスの実施 ・患者さんの持てる力を引き出すことが出来る看護の実施
4. 私たちは効率性・経済性を考えた業務改善に努めます。	5 Sに取り組み職場環境を整えます	・各セクションで効果的な業務の見直しを計画・実施時間管理を考えた業務管理や効果的な物品管理
5. 私たちは、精神科看護の専門性を追求し、魅力ある看護師を目指します。	1) 看護実践能力向上をめざします 2) 精神科看護の醍醐味を共有し、お互いを尊重した環境を整えます 3) 1人ひとりのキャリアの形成を支援します。	・集合と分散教育研修の実施状況 ・看護を語る場の実施状況 ・クリニカルラダー学習会の実施（ステップ認定率80%以上）

【次年度の課題】

今後、一般病棟が80％前後の利用率が予測される。ベッドコントロール会議での協力体制が重要となり、ベッドの有効利用を考えていく必要がある。

○退院訪問件数・他職種カンファレンスについて

病棟ではPSWと連携し退院前訪問を行ない訪問件数は増加、また外来の訪問件数も200件以上増加している。また、今年度はC2・C3病棟の統合に伴い、長期入院患者の退院に向けて各病棟が医師・PSW・施設職員等が話し合いと連携を行ない退院につなげた。

退院前・退院訪問について

訪問件数	病棟	外 来	
		訪問看護	病棟
23年	78/10ヶ月	1231/10ヶ月	23/6ヶ月
22年	70	1038/12ヶ月	
21年	98	810/12ヶ月	

○長期入院患者のカンファレンスや行動制限評価カンファレンスの実施、救急在宅移行率60％について

週一回の行動制限カンファレンスを実施している。一般病棟では患者の行動制限の拡大が行われ、また、セルフケア能力の維持・向上に向けて実践している病棟ではADLの拡大が図れている。このことは、患者の持てる力を引き出していることにつながっている。救急病棟では在宅移行率60％、新規患者率40％の維持が必要であるが、B1病棟では11月に59.1％となり達成することが出来なかった。

【次年度の課題】

平成26年新棟の準備に向けて、今後も長期入院患者の退院支援が必要となる。また、そのためにもセルフケア能力の維持・向上が図れるよう患者の出来る能力を見極め、看護をしていく必要がある。

○単価を明記したサプライン定数表を外来が作成し、病棟ラウンドを実施。また、病棟も無駄の無い物品請求にこころがけ、定数を把握しやすくする工夫を行い過剰在庫防止に努めた病棟や病棟閉鎖に伴う衛生材料の返品や回収など効率的な運用を行った。その結果、期限切れ物品損失は前期44,481円、後期 0円 であった。また、本年度の期限切れ物品について使用できるものは、新採用教育や静脈注射の研修に用いた。

○申し送りの時間短縮に取り組んだのは2病棟。散歩区分時間ボードの導入は1病棟

○ICTや医療安全職場ラウンドで指摘された部分について各部署で改善をおこなった。しかし、部署ごとのため共有化が出来ていない

○病棟統合により業務量増加に伴い時間外状況を調査し、夜勤体制の変更につながった。

【次年度の課題】

業務の見直し等で有効な場合、全部署で共有し実践に結びつける方法が必要である。

○集合教育では23年度予定した研修はすべて行った。しかし、レポート提出の期限が守れず、研修評価が遅れる結果となった。集合教育と分散教育の連携では、研修受講者の状況報告がある。また、病棟によっては研修の報告会を行ない支援が出来ている。各部署の特徴に応じた勉強会の計画を実施することができ、知識の確認や学びにつながったという意見がきかれている。また、今年度は勉強会の内容に応じて公開にするなど、各部署において工夫をしながら発信することができた。各部署では平成24年度に向けてステップⅠの対象者への教育計画を立案中である。

○看護を語る場について

各病棟で企画・実施した結果（下記の表）、看護援助場面を紙面にして共有することは、事例提供者や参加者の看護師のステップアップにつながった。また、日々の看護実践に活かされている。

看護を語る会

	実施回数	学び
A2	1	参加したスタッフには好評
A3	3	（紙面作成）自己の経験の振り返りと語り部自身の記憶と気持ちの整理が出来、背負っていた解決の糸口となった。参加者は看護の共有により日頃の「看護のヒント」になった
B1	4	先輩の看護体験を聞き学べることができた
B2	0	予定中
B3	1	フリートーキングで看護を語り合う場を設けた
C2	3	経験知を語る場で看護を共有でき、振り返りは看護計画に活かすことができた
C3	5	（紙面作成）気づきが多く、関わり方の選択肢が増え学びの共有ができた

【次年度の課題】

看護を語る場を提供することは重要である。そのためには、担当者(企画者)を決め、計画的に行うことが重要である。

○「キャリア形成について」の学習会は全看護師を対象に数回に分散して行った。また、ステップ申請は80％を超える病棟もある。

(ウ) 看護教育

a 平成23年度 院内教育研修実施状況

	研修名	ねらい	方法	研修日	時間	対象者	人数	担当
支援プログラム	採用時研修	1 精神医療センターの概要を理解し、組織・環境・業務への適応をはかる。 2 専門職業人としての自覚を促す。	・講義 ・演習 ・病院見学	4/1 4/4 4/5 4/6	4日間 8:30-17:15 (休憩1時間含む)	平成23年度 新採用者 既卒新採用者 転入者	延べ 58名	教育担当副看護局長 せりがや病院教育担当科長 看護教育科
	接遇研修	事例等をもとに接遇の重要性を自覚できる。	・講義 ・ロールプレイ	5/27	2時間 15:00-17:00	平成23年度 新採用者 転入者	21名	教育担当副看護局長 せりがや病院教育担当科長 看護教育科
	基礎技術研修①(救急蘇生法)	看護師として必要な急変時の基礎的対応がわかる。	・講義 ・演習	4/26	3時間30分 13:30-17:00	新卒新採用者 他科長が必要と認めた者	14名	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師3名
	基礎技術研修②(精神科看護技術)	精神科における専門的な看護技術の実際を学ぶ。	・講義 ・デモンストレーション ・演習	6/28	3時間30分 13:30-17:00	新卒新採用者 他科長が必要と認めた者	24名 (院内23名 院外1名)	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師4名 主任看護師1名
	フォローアップ研修(既卒・転入者)	入職してからの様々な思いや看護を仲間と共有し、精神医療センターの看護師としてこれまでの経験を活かしながら取り組んでいく心構えができる。	・自然散策	6/3	3時間30分 13:30-17:00	既卒新採用者・転入者	9名	教育担当副看護局長 せりがや病院教育担当科長 看護教育科
	フォローアップ研修(新卒新採用者)	入職してからの3ヶ月を振り返り、今後の看護実践への活力につなげる。	・自然散策	6/28	3時間 9:00-12:00	新卒新採用者	10名	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師1名
ステップⅠ	看護倫理Ⅰ(看護専門職としての倫理)	専門職としての倫理を再認識し、センターの看護師としての行動につなげる。	1回目:講義 2回目:GW(WILL/CAN/MUST)	7/15 7/22	1時間30分 15:30-17:00 3時間 14:00-17:00	ステップⅠを申請する者	12名 (他聴講1名)	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師2名
	事例検討Ⅰ	自己の看護場面を振り返り、適切な看護援助が考えられる。	・GW(事例検討)	9/29	3時間30分 13:30-17:00		14名	教育担当副看護局長 せりがや病院教育担当科長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師1名
	チームメンバー研修	1 チームナーシングについて理解を深めメンバーシップを発揮するための能力を養う。 2 チームメンバーの一員としての自己を振り返り今後の課題を明らかにできる。	・10～11月に1日以上リーダーと共に行動 ・講義 ・GW(カード法)	12/5	3時間30分 13:30-17:00	ステップⅠを申請する者	15名	教育担当副看護局長 せりがや病院看護科長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師1名
ステップⅡ	リーダーシップ研修Ⅰ(チームリーダー)	チームナーシングにおけるチームリーダーの役割が明確にできる。	・講義 ・GW(カード法) ・研修後に報告会	11/18	3時間30分 13:30-17:00	ステップⅠ以上の者 また、看護科長が認める者	5名	教育担当副看護局長 せりがや病院教育担当科長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師1名
	ケース・スタディ	受持ち患者の事例を通して、アセスメントおよび根拠に基づいた看護実践できる能力を養う。	1回目:講義・研修の進め方 2回目:ケーススタディ発表会	7/4 12/12	1時間45分 13:30-15:15 2時間 15:00-17:00	ステップⅠ以上の者 また、看護科長が認める者	7名	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師1名
ステップⅢ	リーダーシップ研修Ⅱ(リーダーシップ)	多職種の役割を理解し、チーム医療の中でリーダーシップを発揮できる。	・講義 ・GW(カード法)	6/17	3時間30分 13:30-17:00	ステップⅡ以上の者 また、看護科長が認める者	7名	教育担当副看護局長 せりがや病院教育担当科長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師1名
	人間関係研修	対人関係における自己の傾向を知り、看護師としてのアサーティブなコミュニケーションを行うための知識・技術を学ぶ。	・講義(公開) ・演習	10/28	8時間 9:00-17:00 (休憩1時間含む)	ステップⅡ以上の者 また看護科長が認める者	11名 (他聴講10名)	教育担当副看護局長 せりがや病院教育担当科長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師2名
	看護倫理Ⅱ	精神科における倫理的課題について理解する。	・講演会(公開) ・GW ・レポートをもとにセクション発表	1/24	3時間30分 13:30-17:00	ステップⅡ以上の者 また看護科長が認める者	7名 (他聴講19名)	教育担当副看護局長 看護教育科 現任教育担当看護師2名

研修名			ねらい	方法	研修日	時間	対象者	人数	担当
ステップⅣ	リーダーシップ研修Ⅲ（問題解決）	問題解決法を学びセクションの課題を捉えリーダーシップ能力を発揮した問題解決への取り組みができる。	1 回目:講義、GW	6/24	3 時間 14:00-17:00	ステップⅢ以上の者 また、看護科長が認める者	8 名	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師 2 名	
			2 回目:GW テーマ・計画の検討	7/26	1 時間30分 15:00-16:30				
			3 回目:GW取り組み経過の検討	9/14	1 時間30分 15:00-16:30				
			4 回目:発表会	12/15	3 時間 14:00-17:00				
	プレゼンテーション研修	自分自身が実践している看護を他者に効果的に伝える能力を身に付ける	1 回目:講義、演習	9/27	3時間30分 13:30-17:00	ステップⅢ以上の者 また、看護科長が認める者	6 名	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師 1 名	
			2 回目:発表会	12/16	3時間 14:00-17:00				
V	看護管理研修								
役割研修	新主任研修	主任としての認識を深め、自己の役割について積極的に取り組める。		4/21	2 時間 14:00-16:00	平成23年度 新主任看護師	4 名	教育担当副看護局長 せりがや病院教育担当科長 研修担当看護科長 看護教育科	
	プリセプター研修Ⅰ	プリセプターシップについて理解しプリセプターとしての役割行動につなげることができる。	・講義 ・ロールプレイ	1/20	3 時間30分 13:30-17:00	平成24年度 プリセプター予定者	12名（他聴講 3 名）	教育担当副看護局長 せりがや病院教育担当科長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師 1 名	
	プリセプター研修Ⅱ	指導の中で生じた不安や疑問を軽減し、プリセプターとしての自己の課題を明確にできる。	・GW	6/16	3 時間30分 13:30-17:00	平成23年度 プリセプター担当者	6 名	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 看護教育科 現任教育担当看護師 2 名	
研 静脈注射	静脈注射の実際		医師の指示に基づいた静脈注射を安全に実施するために必要な知識・技術を習得する。	・講義 3 回 ・演習 1 回 ・テスト	7/13～ 8/4 の間	カリキュラムによる	精神医療センター看護職員（非常勤、契約除く）	11名（他聴講 4 名）	静脈注射検討部会
精神看護専門研修			精神看護専門領域における実践能力を高め、質の高い看護を提供するために必要な能力の向上を図る。	H23:講義・実習 H24:事例研究・発表会	期間: 2 年間 （6 月-翌年 1 2 月修了）	カリキュラムによる	・精神科看護経験 4 年間ある者 ・キャリア形成過程ステップⅢ以上	9 名	教育担当副看護局長 看護教育科
講演等	公開講演	老年期精神障害	老年期における精神障害者への看護を学び、患者理解と看護の質の向上に役立てる。	公開講義 （精神科認定看護師等による）	6/10	90分 17:30-19:00	全看護職員 院外看護職員	39名（院内 34名 院外 5 名）	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 看護教育科
		訪問看護	精神科における訪問看護の実際と当院における具体的な取り組みについて学び、看護の質の向上に役立てる。		10/14			30名（院内 25名 院外 5 名）	
		行動制限最小化	現在の精神科における行動制限の考え方を学び、看護の質の向上に役立てる。		2/10			39名（院内 35名 院外 4 名）	
	看護研究基礎研修	看護研究に取り組むための基礎的知識を養う。	1 回目 講義・演習	5/20	3 時間30分 13:30-17:00	全看護職員 特に病棟で看護研究に取り組む者	23名	教育担当副看護局長 研修担当看護科長 せりがや病院教育担当科長 看護教育科 現任教育担当看護師 1 名	
			2 回目 演習	6/8	2 時間 15:00-17:00				
	看護研究発表会	1 看護活動を通して得た研究成果を発表し相互の学びとする。 2 精神科看護の質の向上につなげることができる。		院外講師講評	1/28	3 時間30分 9:00-12:30	全看護職員	60名	教育担当副看護局長 看護教育科 現任教育担当看護師 2 名
伝達講習会			院外研修の報告を受け、自己研鑽への動機づけとすることができる。		3/16	2 時間 16:30-18:30	全看護職員		教育担当副看護局長 看護教育科

※せりがや病院と合同のため参加者人数は総数で記載しています。

b 平成23年度学会・院外研修参加状況

	主 催	学会名・研修名	開催地	開催日	人数
学 会	日本精神科看護技術協会	日本精神科看護学会総会	福岡	5/31・6/1	1
	全国自治会病院精神科特別部会	第9回全国自治会病院精神科特別部会	山口	8/24・25・26	2
	日本看護協会	第42回 日本看護学会地域看護学術集会	香川	8/25・26	1
	日本看護管理学会	第15回日本看護管理学会年次大会	東京	8/26・27	1
	日本精神科看護技術協会	第18回 日本精神科看護学会専門学会Ⅰ	三重	8/26・27	1
	日本看護協会	第42回 日本看護学会精神看護学術集会	札幌	9/30・10/1	2
	日本精神科看護技術協会	看護研究発表会（神奈川県支部）	県内	10/15	8
	全国自治会病院協議会	第50回記念大会	東京	10/19・20	4
	日本精神科救急学会	第19回 日本精神科救急学会	宮崎	10/21・22	1
	日本精神科看護技術協会	第18回 日本精神科看護学会専門学会Ⅱ	岐阜	12/14・15	1
	日本環境感染学会	第27回日本環境感染学会総会	福岡	2/3・4	1
	神奈川県看護協会	横浜第2支部看護研究発表会	県内	2/17	4
				小 計	27
研 修	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所	第5回 精神科医療評価・均てん化 研修	東京	6/13・14	1
	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所	司法精神医学研修	東京	10/12・13・14	1
	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所	認知行動療法研修	東京	11/4	4
	精神・神経科学振興財団	指定入院医療機関従事者研修会（入院）	東京	9/16・17・18	2
	精神・神経科学振興財団	指定入院医療機関従事者研修会（通院）	東京	9/16・17・18	2
	日本クリニカルパス学会	わかる!できる!クリニカルパス ～基本と実践～	東京	7/23	4
	クロザリル講習会	クロザリル講習会	東京	6/11	9
	全国自治体病院協議会	第3回 看護管理研修	東京	10/26・27・28	1
	全国自治体病院協議会	第1回 接遇トレーナー研修会	東京	9/7・8・9	2
	医療観察法関連職種	医療観察法関連職種研修	新潟	6/10・11	3
	神奈川県看護協会	A群 摂食・嚥下障害のある患者の看護	県内	6/9	1
	神奈川県看護協会	A群 高めようリスクセンス 危険予知行動の実践に向けて	県内	7/1	1
	神奈川県看護協会	B群 組織で取り組む感染管理	県内	10/3・4	1
	神奈川県看護協会	災害研修	県内	11/1	2
	神奈川県看護部長会	研修会「創造する病院管理をめざして」	県内	9/29	2
	神奈川県精神保健福祉協会	自殺対策研修会	県内	7/2	2
	神奈川県精神保健福祉センター	薬物相談業務研修	県内	7/1	2
	神奈川県精神保健福祉センター	自殺対策基礎研修	県内	7/26	2
	日本精神科看護技術協会	精神科看護新任者研修会	県内	5/23・24	12
	日本精神科看護技術協会	行動制限最小化研修	県内	6/11	2
	日本精神科看護技術協会	暴力に対する看護	県内	6/18	1
	日本精神科看護技術協会	認知行動療法	県内	10/4	2
	日本精神科看護技術協会	発達障害の看護	県内	11/1	2
	日本精神科看護技術協会	うつ病の看護	県内	11/21	2
	日本精神科看護技術協会	境界性人格障害の看護	県内	12/2	2
	神奈川県精神科病院協会	地域自殺対策うつ医療体制強化事業に係る研修会	県内	1/31	1
	横浜病院協会看護専門学校	中範囲理論を活用しての心理・社会的なアセスメント、看護診断	県内	8/23	2
	保健福祉大学実践教育センター	高齢者支援課程	県内	4/7～3/9	1
	保健福祉大学実践教育センター	管理者養成課程管理Ⅰ	県内	4/7～9/30	1
	保健福祉大学実践教育センター	管理者養成課程管理Ⅱ	県内	10/6～3/9	1
	神奈川県立病院機構	新採用職員研修	県内	4/21	12
	神奈川県立病院機構	看護職員研修専門Ⅰ	県内	8/5・9/26	3
	神奈川県立病院機構	看護職員研修専門Ⅱ	県内	9/17・12/9	3
	神奈川県立病院機構	看護職員研修管理Ⅰ	県内	7/14・9/3	2
	神奈川県立病院機構	看護職員研修管理Ⅱ	県内	6/18・7/21・12/14	4
				小計	95

c 看護職員講師派遣等実績

学 校 等	科 目 名	氏 名
神奈川県立衛生看護専門学校 第一看護学科	精神障害をもつ人の看護 16時間	杉山 明子
横浜市医師会看護専門学校	精神看護学Ⅱ（精神障害と看護） 15時間	荒井 修司
神奈川県立衛生看護専門学校 第二看護学科	コミュニケーション技法 6時間	安藤 馨
	精神障害のある人の看護 12時間	山川 壽也
社会保険横浜看護専門学校	精神看護方法論Ⅱ 16時間	佐藤 泰幸
神奈川県立よこはま看護専門学校	精神看護学Ⅲ 8時間	東 和明
日本イーライリリー(株) 東京支店	第2回 3病院合同精神医療検討会	嘉山 一壽
神奈川県立がんセンター	CVPPPの講義と演習	鹿野哲夫、荒井修司、白石美由紀
全国自治体病院協議会精神科特別部会	看護部会ポスターセッション 「精神科の現場から」	佐藤 喜美子
日本精神科看護技術協会	精神科看護と精神科薬物療法（ディベート）	井上 美紀
藍生会 不動ヶ丘病院	行動制限最小化に関する研修	中谷 将
医療法人 昨雲会 飯塚病院	第9回行動制限最小化研究会	
日本精神科看護技術協会	行動制限最小化看護Ⅰ（事例検討）	
	行動制限最小化看護Ⅱ（事例検討）	
	行動制限最小化委員会の実際の取り組み	
日本精神科看護技術協会神奈川県支部	発達障害の看護研修	内田 靖子
神奈川県立病院本部	専門コースⅠ	尾花 由美子 山口 時雄
	専門コースⅡ	長 文枝
	管理コースⅠ	高橋 祐子
	管理コースⅡ	柏倉 裕子
医療法人誠心会 あさひの丘病院	感染対策	二瓶 比呂志
医療法人社団 水野会 平塚十全病院	ノロウイルス感染症	
神奈川県病院協会	第30回神奈川県病院学会	石橋 末宏
学校におけるメンタルヘルスリテラシー教育プログラム	学校におけるメンタルヘルスリテラシー教育プログラム	幸村幸男、佐藤泰幸、篠原仁
日本小児救急医学会	第25回 日本小児救急医学会座長	尾花 由美子
日本小児看護学会	日本小児看護学会 第21回学術集会座長	
日本看護協会 認定管理者制度 セカンドレベル教育課程	人的資源活用論 9時間	
県央地区看護部長会研修会	うつ病について	長 文枝
神奈川県立がんセンター	症状緩和：不安・抑うつ	白石 美由紀
北里大学看護キャリア開発センター	学生との教育的かわり 14時間	石田 正人
日本看護協会 認定看護師教育課程 感染管理・新生児集中ケア・慢性看護	対人関係 7時間	

d 執 筆

掲 載 先	内 容	氏 名
医学書院「精神看護」9月号	身体拘束時の心理的ケア	中谷 将
精神看護出版「精神科看護」11月号	座談会「今後、求められる医療者の姿勢とは」	

e 学会発表等

- 1 佐藤喜美子，田中久美子，松岡和伊，杉本由美子，大場久美子，植木真理子，村田日出子：夜間転倒・転落防止～客観的睡眠データー（体動センサー）を活用した取り組み，第9回全国自治会病院協議会精神科特別部会総会・研修会8月
- 2 石田正人，松島正明，重村毅洋：精神科救急病棟において看護師が提供できる治療的環境について－精神科初回入院患者からの語り－，第42回日本看護学会精神看護学術集会，9月
- 3 清水小織，落合浩子，杉本由美子，佐藤喜美子，大場久美子，村田日出子：慢性的な便秘を抱える精神疾患患者の異常の早期発見，第42回日本看護学会精神看護学術集会，9月
- 4 嘉山一壽：精神科救急システムを通じて入院する児童思春期症例についての検討，第19回精神科救急学会，10月
- 5 佐藤真希子，野田久恵，杉山直也，渡部晃，飯塚香織，富田敦，嘉山一壽，渡辺磨，三宅美智，伊藤弘人：急性期医療における隔離・身体拘束施行時間と患者特性の関連，第19回精神科救急学会，10月
- 6 横溝奨，佐藤泰幸，荒井修司：精神科救急病棟における家族に対する危険物の意識調査，日本精神科看護技術協会神奈川県支部平成23年看護研究発表会，10月
- 7 清水小織，落合浩子，佐藤喜美子：慢性的な便秘を抱える精神疾患患者に対する観察・異常の判断の実際，神奈川県看護協会横浜第2支部，2月
- 8 二瓶比呂志：職員の感染対策の意識向上への取り組み－簡便さと教育機能を備えたシステム作り－，第27回日本環境感染学会総会，2月

f 企画セミナー

- 1 成田真人，大塚由美，小山典子，高橋ひろえ，池田美佐子，近藤秀樹，上本恭子：認知症のいろは Part2－認知症を正しく理解し、ケアの基本を学ぼう！（脳血管性認知症，前頭側頭型認知症編），日本精神科看護学会専門学会Ⅱ，12月

g 平成23年度交流研修実績

研修施設	日 程	実 施 地	人 数
神奈川県立循環器呼吸器病センター	6/1～11/30	県 内	1
東京都立松沢病院	6/13～7/8	東 京	1
横浜市みなと赤十字	6/1～6/14	県 内	1
	6/14～7/11		1
	10/3～10/14		1
	10/17～10/28		1
	11/1～11/14		1
神奈川県立足柄上病院	1/1～6/30	県 内	1
	9/1～11/30		1
	12/1～2/28		1
久里浜アルコール症センター	10/1～10/14	県 内	1
	3/1～3/14		1
千葉県立精神科医療センター	12/1～12/14	千 葉	1
	2/1～2/14		1
平成23年度精神科急性期医療等専門家養成研修	11/13～11/19	イギリス	1
神奈川県立がんセンター	平成24年 2/1～5/31	県 内	1
神奈川県立足柄上病院	平成24年 3/1～6/30	県 内	1
神奈川県立循環器呼吸器病センター	平成24年 3/1～3/23	県 内	1
神奈川県立こども医療センター	平成24年 3/1～4/30	県 内	1

h. 見学・実習

項 目	実 施 月	対 象 者	人 数
看護教育実習生	平成23年10月	看護師	3名
保健福祉大学【保健医療福祉論Ⅰ】現場訪問	平成23年 8 月	大学生	16名
病院見学	平成23年 4 月 ～平成24年 3 月 22回	看護学生 看護師	31名
インターンシップ（3月・7月・8月）	平成23年 7 月・8 月 平成24年 3 月	看護学生 看護師	17名

i 実習生の受け入れ

	学 校 名	実 施 月	人 数
実 習	横浜市病院協会看護専門学校	平成23年 7 月～9 月	19人
	横浜市医師会看護専門学校	平成23年 5 月～11月	32人
	社会保険横浜看護専門学校	平成23年 6 月～12月	32人
	県立衛生看護専門学校第一看護学科	平成23年 5 月～10月	26人
	県立衛生看護専門学校第二看護学科	平成23年 6 月～10月	17人
	県立よこはま看護専門学校	平成23年 5 月～11月	60人
	県立保健福祉大学	平成23年 6 月～12月	49人
	聖母看護学校	平成23年 9 月	27人
	東京衛生学園	平成24年 2 月	33人

(2) 作業療法 (OT)

ア 作業療法

今年度の患者の受入れ状況は、OT実施延人数を見ると、昨年度に比べ、新規、継続共に減少している。しかし、通院作業療法（以下『外来OT』）は574人（対昨年度比123.7%）の増加がみられた。それ以外は大きな数字の変動はなく、例年通りである。

ここ数年に見る入院患者の状態は、対人関係や作業能力等において作業療法士とマンツーマンによる密度の高い関わりを必要とする人、集団場面の適応能力が低い人、集中力・持続力に欠ける人、病棟から出てOTに参加することが難しい人、3～6ヶ月で退院していく人や入院中より『外来OT』導入を前提とした人もみられ、多様化してきている。それに伴い、活動内容を柔軟に構成している『フリースペース』の延人数が昨年度と比較して、116人増加している。

通院患者においては、デイ・ケアや作業所といった集団活動への参加が困難な人を、個別作業が中心である『外来OT』で受入れるケースが増えてきている。僅かであるが、例えば、『体育』や『SST』といった入院患者と合同の集団活動プログラムへ参加を促し、次のステップへ進めるよう対応している。今年度からは、小集団で簡易な調理実習も行う『栄養講座』へも通院患者の参加を始めた。

当院の作業療法は、日常生活の回復を図り社会適応や自立を促すために様々なプログラムを実施している。作業療法科では、安心していられる居場所の提供を基本に、参加患者の状態により活動プログラムや所属するグループを考慮し、参加患者の今後の目標を意識して治療に当たっている。

その内容は主に、

- ・社会復帰訓練を中心とした活動
- ・ADL及びAPDL訓練を中心とした活動
- ・コミュニケーション及び自己表現力を高める活動
- ・体力の維持・向上を中心とした活動
- ・協同作業を中心とした活動
- ・生産的作業を中心とした活動
- ・レクリエーション活動

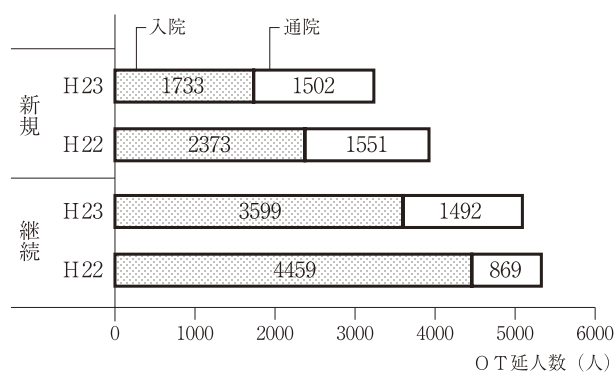
であり、その内容及び実績は次表の通りである。

(ア) 患者受入れ状況

a OT実施人員

(単位：人)

年度	実 人 員					
	新 規		継 続		計	
	男	女	男	女	男	女
23	203		222		425	
	112	91	142	80	254	171
22	233		218		451	
	142	91	137	81	279	172
対前年度比 (%)	87.1		101.9		94.2	
	78.9	100.0	103.6	98.8	91.0	99.4



b 月別実施延人員

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
23	661	635	754	697	785	686	702	724	685	672	646	679	8,326
22	830	744	822	791	795	736	821	833	766	677	701	736	9,252
対前年度比 (%)	79.6	85.3	91.7	88.1	98.7	93.2	85.5	86.9	89.4	99.3	92.2	92.3	90.0

c 患者別受け入れ状況

区分 年度	F0	F1	F2	F3	F4	F6	F7	F8	G4	その他	計
	症状性を含む器質性精神障害	精神作用物質使用による精神行動の障害	統合失調症	気分（感情）障害	神経症性障害	成人の人格および行動の障害	精神遅滞	心理的発達の障害	てんかん		
23	9	6	225	141	21	3	5	8	7	0	425
22	8	5	245	142	27	0	5	10	9	0	451
対前年度比（％）	112.5	120.0	91.8	99.3	77.8	—	100.0	80.0	77.8	—	94.2

d 年齢別受け入れ状況

区分 年度	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計	平均年齢
23	4	36	102	108	88	87	425	47.1
22	2	35	101	134	90	89	451	47.3
対前年度比（％）	200.0	102.9	101.0	80.6	97.8	97.8	94.2	

e 病棟別患者受け入れ状況

区分 年度	A2	A3	B1	B2	B3	C2	C3	外来	計
23	100	51	4	35	35	54	37	109	425
22	126	49	9	23	48	59	50	87	451
対前年度比（％）	79.4	104.1	44.4	152.2	72.9	91.5	74.0	125.3	94.2

(イ) 転 帰

区分 年度	継続	終 了												中断	計
		就労・復職	就学・復学	作業所	デイ・ケア	生保 生活 教室	家庭 復帰	施設	単 身 アパート	転 院	OS ステップ アップ T	通 院 療法	入院		
23	221	12	0	3	10	0	82	9	0	12	3	25	2	44	202
22	222	15	1	13	13	2	104	12	2	15	3	22	3	24	229
対前年度比（％）	99.5	80.0	0.0	23.1	76.9	0.0	78.8	75.0	0.0	80.0	100.0	113.6	0.0	183.3	88.2

(ウ) プログラム内容及び実施状況

a グループワーク

プログラム活動	件数	延人員	プログラム活動		件数	延人員	
グループミーティング (今月のOTの活動内容やOT行事について話し合い)	10	65	病棟OT	A2	154	601	
				A3	43	330	
				B1	10	11	
社会復帰訓練 (退院直前訓練、SST、栄養講座、OT行事の準備など)	162	798		B2	5	5	
				B3	45	338	
				C2	85	1,109	
				C3	29	325	
ADL訓練 (料理、掃除、環境整備など)	11	54	レクリエーション (DVD鑑賞、ゲーム、バス旅行、散歩など)			35	225
身体的活動 (体育、体力作り散歩)	45	211					
合 計					955	5,897	

b 導入及び評価グループ

グループ名	件数	延人員
フリースペース	142	610
ステップⅠ	89	482
あすなろ	90	733
合 計	321	1,825

c 個人プログラム

種 目 名	件数	延人員	種 目 名	件数	延人員
ネット手芸	210	646	ペン習字	14	14
刺繍	142	247	作文、感想、手紙書き	8	8
レース編み	88	94	木工細工	7	7
編物	83	94	刺し子	6	6
籐細工	76	78	小物作り	6	6
草細工	72	88	園芸	4	8
パソコン入力	71	91	洋裁	4	4
読書	48	52	塗り絵	3	3
勉強	45	48	ビートル手芸	2	2
ビーズ細工	43	47	和裁	2	2
紙細工	28	28	書道	2	2
絵画	15	15	興味チェックリスト	1	1
粘土細工	15	18	その他	10	10
合 計			1,005 1,694		

d 通院作業療法

グループ名	件数	延人員
外来OT	401	1,597
外来OTⅡ※復職支援のプログラム(作業療法担当分)	154	1,053
外来OTⅢ※気分障害を対象としたプログラム	90	344
合 計	645	2,994

e 非請求件数

面 接		電話での相談及びアフターフォロー	訪問	計
入院患者	外来患者			
1	101	27	2	131

(工) 教育（見学・実習・講義）

a 見学・研修受入れ

年度 \ 区分		行政関係者	医療関係者	学 生 (医師・看護師等)	院 内		そ の 他	計
					職 員	患 者		
23	件 数	1	1	70	10	13	1	96
	人 員	1	4	123	10	14	1	153
22	件 数	2	0	71	9	7	3	92
	人 員	2	0	167	11	7	3	190
対前年度比 (%)	件 数	50.0	—	98.6	111.1	185.7	33.3	104.3
	人 員	50.0	—	73.7	90.9	200.0	33.3	80.5

b 実習生の受入れ

内 容	対 象	実 施 日	人数
作業療法 4年インターン実習	北里大学医療衛生学部作業療法学専攻	平成23年 6月6日～7月29日	1

(3) デイ・ケア療法

外来の精神科患者を対象に社会生活機能の回復を図るため、昭和57年6月から試行し、昭和61年4月に精神科デイ・ケア療法大規模適合施設の承認を受け、本格実施した。実施にあたっては、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士の多職種チームを構成し、対象者の社会生活支援を行ってきた。

開催日は月曜日から金曜日の週5日で、平日にいつでも利用できるようになっている。治療内容は、心理教育的プログラムを中心に集団精神療法や日常生活訓練、SSTや就労関連プログラムなど利用者の要望に応えられるよう多種に及んでいる。平成18年度から診療報酬の改正に伴い、3時間程度のショート・ケアが新設され、当院デイ・ケアでも8月10日より導入し、新規入所者で急性期離脱後の活動性の低い方や、面接を中心とした支援で就労を継続したい方などに活用していただいている。また、平成15年に医療観察法が制定され、平成17年より施行された。これを受け当院デイ・ケアでも医療観察法の対象者を積極的に受け入れている。

更に、訪問支援の実施としては、地域活動支援センター・生活訓練施設・就労移行支援事業所などの福祉施設やハローワーク・就労相談センターなどの就労支援機関へも同行し、スムーズな地域生活への導入や移行に取り組んでいる。院内の他部門との連携としては、訪問看護部門との協力体制で単身者や医療観察対象者の生活を支援している。また、退院促進の一環として、退院間近の入院患者も受け入れ、スムーズな地域生活への移行を図っている。平成22年度からは、医療観察法の入院処遇（社会復帰期）の対象者の受け入れを試行している。

地域との連携では、地区の保健福祉センターや上記同様の福祉施設の他、他デイ・ケアとの交流（バレーボール大会や作品展）や港南区ネットワーク祭りなどに参加し、交流を深めている。そして、神奈川デイ・ケア連絡会の事務局補佐でもあることから、県内デイ・ケア施設との連携にも積極的に取り組んでいる。

その他、退所後の支援として、退所者やその家族との面接も行なっている。

ア デイ・ケア参加者

(ア) 月別参加者数

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (下段：月平均)
在 籍 者 数		126	130	130	127	126	123	124	123	128	125	124	121	1,507 (125.6)
(うち入院)		9	13	11	15	11	11	9	7	13	12	10	7	128 (10.7)
(うち医療観察法通院者)		11	12	12	11	11	12	12	13	13	13	13	13	146 (12.2)
就 労 ・ 就 学 者 実 数		4	3	3	3	3	3	4	5	5	5	5	4	47 (3.9)
福祉施設等通所者実数		26	23	23	24	24	24	24	23	23	26	26	28	294 (24.5)
延 数	参 加 者 延 数	957	893	946	830	916	815	787	851	855	821	869	794	10,334 (861.2)
	(うち入院)	50	120	91	69	49	70	30	22	48	41	57	43	690 (57.5)
	(医療観察法通院者)	76	75	84	87	107	87	82	83	88	85	98	81	1,033 (86.1)
	シ ョ ー ト 延 数	191	232	204	179	147	167	188	200	203	184	207	182	2,284 (190.3)
	(うち入院)	45	93	56	39	27	53	22	20	38	29	49	41	512 (42.7)
平 均	参加者一日平均	47.9	47.0	43.0	41.5	39.8	40.8	40.9	42.6	45.0	43.2	41.4	37.8	511 (42.6)
	(うちショート)	9.6	12.2	9.3	9.0	6.4	8.4	9.4	10.0	10.7	9.7	9.9	8.7	113 (9.4)
実 施 日 数		20	19	22	20	23	20	20	20	19	19	21	21	244 (20.3)

(イ) 地域別参加者数

地域別 年 度	横 浜 市																横 須 賀 市	鎌 倉 市	川 崎 市	相 模 原 市	藤 沢 市	そ の 他	合 計		
	鶴 見 区	西 区	中 区	南 区	港 南 区	保 土 ケ 谷 区	旭 区	磯 子 区	港 北 区	戸 塚 区	栄 区	泉 区	神 奈 川 区	金 沢 区	緑 区	青 葉 区	小 計								
平成23年度	2	3	3	30	42	13	0	16	1	27	6	4	5	3	0	1	156	1	3	1	0	1	3		165
平成22年度	2	4	2	34	48	14	0	14	0	26	9	4	7	2	0	1	168	1	2	2	1	0	1		175

(ウ) 年齢・病名別参加者数

病 名 年 齢 性 別	19歳以下			20～29歳			30～39歳			40～49歳			50歳以下			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
中毒性精神障害 (F1)							1	1	2	2		2				3	1	4
統合失調症 (F2)	1	1	2	18	9	27	37	12	49	32	17	49	17	7	24	105	46	151
気分（感情）障害 (F3)											1	1	2		2	2	1	3
人格及び行動障害 (F6)					1	1				1		1				1	1	2
精神遅滞 (F7)																		
そ の 他				1		1		1	1	2	1	3				3	2	5
計	1	1	2	19	10	29	38	14	52	37	19	56	19	7	26	114	51	165

イ プログラム内容

プ ロ グ ラ ム		小計	内 容 ・ 目 的
神 集 療 団 法 精	全体ミーティング	19	DC運営に関わる議題についてメンバー・スタッフで話し合う。
	グループミーティング(行事委員会)	10	行事ごとに委員会を作り、企画・立案・運営をメンバー・スタッフで実施していく。
	小 計	29	
訓 職 練 業 前	作 業	98	外部からの請負作業(やまゆり発送など)を通して、就労・作業所への準備性を高めていく。
	係の仕事	28	分担された係りを体験していく中で就労・作業所等への心構えや責任感を養っていく。
	就労勉強会	20	就労へのイメージ作り、就労の準備性を高める、現実的な目標を見出す。
	小 計	146	
創 作 活 動	創 作	20	創造性を養い、情緒の表出を図るため、絵画、手工芸、文芸、共同制作等を行う。
	垂れ幕作り	7	県下バレーボール大会の応援垂れ幕を応援グループで製作する。
	物作りサークル	12	様々な手芸品に挑戦する中で創る楽しさを体験していく。達成感を得る。
	お菓子づくり	9	お菓子作りを楽しむ。簡単な調理を経験する。
	思い出アルバム	7	外出や行事の写真の編集。役割分担をしながら実施しアレンジする。
	竹トンボ作り	1	外部講師の指導により竹トンボの制作。ボランティアとの交流を通し社会性を養う。
	布草履作り	1	外部講師の指導により布草履の製作。ボランティアとの交流を通し社会性を養う。
	小 計	57	
指 日 常 常 生 生 活 活 導 導	料 理	61	能力・目的別にグループ分けをし、調理に取り組む。
	防災訓練	2	院内の訓練に参加することで非常時に備える。
	生活クラブ	10	日常生活に必要な知識・技能の習得を図る。参加者の自立を促す。
	小 計	73	
活 ク ラ ブ 動 ブ	グループ活動	10	担当スタッフ別のグループとなり、それぞれグループ活動に取り組む。
	クラブ活動	88	同好のメンバーが集まり、自主的にグループ運営を行う。
	小 計	98	
運 動 療 法	バレーボール	42	チームプレーを通して協調性を養う、体力作り、身体を動かす心地よさを体験すること等を目的とする。
	ヨガ	53	体力の維持、身体を動かすことの心地よさを体験すること等を目的としグループで実施。
	ソフトボール	20	チームプレーを通して協調性を養う、体力作り、身体を動かす心地よさを体験すること等を目的とする。
	ファイトクラブ	1	体力作り、メンバー間の親睦を図ること等を目的とする。
	スポーツ大会(含む、準備交流試合)	16	大会などの目標に向けてチームワークを経験する。他施設との交流会の準備・実施を行う。
	体力測定	3	現在の体力を把握し、自己の身体への意識を高める。
	小 計	135	
音 楽 療 法	コーラス(含む、大会)	20	外部講師の指導により、合唱の練習をし年数回成果を発表。
	ドラム	4	外部講師の指導により、ドラムを中心とした打楽器を皆で演奏をする。
	楽器演奏	11	楽器に興味のある人が集まり、楽しみながら演奏をする。年数回成果を発表。
	琴演奏	1	夏のイベントとして外部講師の琴演奏を鑑賞し日本の伝統に親しむ。
	小 計	36	
認 知 行 動 療 法 ・ 心 理 教 育 他	生活設計研究会	22	病気や薬、社会制度や経済的な知識を得、将来の生活の見通しを立てらるようになるための心理教育。
	シニアライブ	1	親亡き後や自分の老後をどのように過ごすか検討する心理教育。
	健康・栄養講座(健診含む)	8	身体的な自己管理に関心を持つことを目的とし健康に関する講義を受ける。
	生活技能訓練	22	対人関係の改善を目的に、課題の場面を演じながら訓練を行う。
	服薬クラブ	11	服薬の必要性を学び自己管理の練習をする心理教育。
	気持ちのコントロール	10	怒りを中心とした自分の感情を認識しコントロールする方法を学ぶ。
	認知行動療法	12	病気の症状についての対処法を身に付けるための心理教育。
	福祉講座・講演会	11	精神障害者の動向や福祉制度の状況などを知る機会とする。
	ダイエット	20	肥満の健康上の問題を認識し、ダイエットの手法を学び体重の自己管理をしていく。
	社会人クラブ	8	社会生活する上での常識とされることやマナーの実践を学び役立てていく。
	小 計	125	
レ ク リ エ ー シ ョ ン 活 動	パーティー(含む、準備)	24	忘年会、歓送迎会等の準備、実施。
	外出(含む、準備)	3	社会性を養い、視野を広げることを目的とする。
	芦香祭り・港南ネット祭り・デイクア作品展(含む、準備)	31	入院患者・職員との交流、地域福祉施設との交流を図るために参加。
	バスハイク(含む、準備)	0	社会性を養い、メンバーの親睦を図るため、1日のバスハイクを実施。
	ロードショー	6	興味関心のある映画等を選び準備、鑑賞していく。
	かき氷、すいか割り(含む、準備)	1	夏の風物詩としての行事を行い楽しむ。
	看護の日レク	0	看護の日イベント行事に参加し楽しむ。
	小 計	65	
そ の 他	パソコン	33	外部講師の指導により、パソコンの操作を学ぶ。
	ニュースの窓	9	視野を広げる目的で各自新聞を持ち寄り自分に関心のある記事を紹介する。
	書 道	11	外部講師の指導により、各自好きな言葉を書き、添削を受ける。年数回成果を発表。
	茶 道	12	外部講師の指導により、お茶のたて方、飲み方を学ぶ。
	華 道	11	外部講師の指導でお花のいけ方を学ぶ。
	新人オリエントーション	12	新入所者に対し、メンバーがデイクアの説明を行う。
	アロマテラピー	3	外部講師の指導により、いろんな香りを楽しみながら、リラックスする方法を学ぶ。
	植物を育てる	22	花や野菜などの植物を育てる事で季節感を得ながら、達成感を得る。
	お茶を楽しむ	1	お茶を飲みながらスタッフ・メンバーでリラックスする時間を過ごす。
	メイクアップ講座	1	外部講師の指導により、メイクの方法を学び整容への関心を高める。
	頭のトレーニング	21	クイズ・パズル等を行うことで頭のリラックス、及び活性化を図る。
	リラクゼーション	3	ストレッチなどを行う、心身のリラックスを図る。
	小 計	139	
合 計		903	

ウ 転 帰

(単位：人) H23. 3. 31現在

性別 \ 転帰	就 労	就労支 援移行	支 援 セ ンター等	就 学	家庭内 適 応	転院等	入 院	不適応	死 亡	中 断	その他	D C 延長	6ヶ月 未 満	計
男	4	0	4	0	0	3	1	2	2	12	3	75	7	113
女	0	0	3	1	1	2	1	1	0	2	2	35	4	52
計	4	0	7	1	1	5	2	3	2	14	5	110	11	165

〔家庭内適応〕…主婦、家事手伝い等を行っている者

〔中 断〕…病状悪化した者

〔そ の 他〕…他施設入所、転居、他D C

〔D C 延 長〕…終了せず延長を行い平成24年3月31日現在通院している者

〔6ヶ月未満〕…期間が終了しておらず平成24年3月31日現在通院している者

エ 個別支援

(ア) 相談件数

(単位：人)

手 段	本 人	家 族	退所者	その他関係機関など
電 話	154	79	28	209
面 接	789	52	15	35
見 学	—	—	—	10

(イ) 訪問件数

(単位：人)

職場、福祉施設など	0
-----------	---

(ウ) カンファレンス（医療観察法含む）

科 内 2,379 件	科 外 76 件
----------------	-------------

オ 家族会

開催月	テ ー マ	開催数	参加者数
5月、6月	親子面接	2回	31名
5月	精神の病気について 講師 浅見先生	1回	9名
6月	精神科の薬について 講師 伊藤先生	1回	10名
7月	家族どうしの情報交換	1回	5名
8月	当事者のお話 講師 デイケアOB	1回	8名
9月	自立に向けて 講師 生活訓練施設 近藤先生	1回	5名
10月、11月	親子面接	2回	20名
11月	精神の病気について 講師 伊藤先生	1回	4名
12月	地域で利用できる制度について 講師 港南区MSW	1回	5名
12月	精神科の薬について 講師 浅見先生	1回	6名
1月	懇談会「関わり方について」	1回	6名
3月	成年後見制度について 講師 県社会福祉士会 雨宮先生	1回	3名
合 計		14回	112名

力 教 育

(ア) 研修・見学

(単位：人)

	医療関係者	福祉関係者	行政関係者	そ の 他	合 計
研 修	36	20	0	0	56
見 学	6	2	0	2	10

(4) 検査業務

ア 心理業務

心理室には4名の心理士が在籍。うち1名は医療観察法病棟の業務とその他の業務を兼務し、2名がストレスケア(A2)病棟に配属。

主な業務は心理検査、心理療法(心理面接)、医療観察法業務である。心理業務のうち心理検査は、精神医学的診断を補うためや、パーソナリティの理解を深める目的で、必要に応じていくつかの検査を組み合わせ実施している。心理療法は外来ならびに入院患者を対象とし、一対一の心理面接、集団療法などの形態で必要な心理的ケアを提供するものである。主治医から依頼のあった患者に対し契約を結び、必要に応じて主治医との連携をとりつつ継続的に関わりを持った。診断は統合失調症、うつ状態、人格障害などであった。その他に、医療観察法の鑑定に関わる心理検査、通院所処遇対象者への心理面接、多職種でのチーム会議などにも参加した。

ストレスケア(A2)病棟では、心理検査ならびに心理面接を実施した。他に、rTMS研究入院においては、心理検査を実施した。

また、リワークプログラムにおいては、多職種で運営についての検討を重ね、協力してプログラム・各種面接を実施した。その他、リワークプログラムにおいては認知行動療法(集団精神療法)を担当し、心理検査等を実施した。

医療観察法小規模病棟においては、各種プログラムの企画運営、心理検査・心理面接の実施、対象者の外出・外泊への付き添い、MDT会議、CPA会議、治療評価会議等多職種チームの会議等に参加した。

(ア) 心理検査(平成23年度)

検査名		外来	外来(リワーク)	入院(A2)	入院(他の病棟)	計
知能検査	W A I S	13	6	43	46	108
	田中ビネー	1	0	0	0	1
	コース立法体	0	0	0	0	0
人格検査	コールシャッハ人格診断検査	10	1	25	28	64
	S C T文章完成法	9	2	27	31	69
	描画検査(バウムテスト法)	12	1	25	44	82
	P-Fスタディ	2	0	1	0	3
	その他の人格検査	0	4	56	1	61
その他の心理検査	ベンダーゲシュタルトテスト	0	0	0	1	1
	内田クレベリン検査	0	0	0	1	1
	M M S E, H D S-R	28	0	9	70	107
	C O G N I S T A T	9	0	0	19	28
	H A M-D	0	35	57	0	92
	S C I D	0	0	9	0	9
	B D I	0	35	1	0	36
	W S C T	0	0	23	0	23
	その他	6	50	177	2	235
計		87(24)	134(35)	495(112)	243(81)	959(252)

※計欄の()は実人数を示す。

(イ) 心理療法（平成23年度）

	外 来	外来(リワーク)	入院（A2）	入院（その他の病棟）	医療観察法病棟
心理面接等	132(13)	—	158(12)※2	81(8)	78(4)
集団プログラム等	0	267(30)	1(1)	0	38(4)

※1 計欄（ ）は実人数を示す。

※2 外来移行後分含む。

(ウ) その他（平成23年度）

A2病棟 運営カンファレンスへの参加	12
リワーク・プログラム OTとの合同のプログラムであるテーマトークの実施	46
リワーク・プログラム OTとの合同のプログラムである離職者グループの実施	19
インテーク・復職準備評価面接の実施	131
リワーク・カンファレンスの実施	24
医療観察法（通院処遇・入院病棟）多職種チーム会議への参加	245

イ 放射線業務

検査科放射線は芹香・せりがや両病院のX線検査及びCT検査を行っています。平成18年度より、せりがや病院の入院患者様を毎週月・木曜日に芹香病院へ搬送し、外来患者様は随時芹香病院で検査を行っています。

a 芹香病院

検査は入院患者様の撮影が主です。一般撮影は、病床利用率の低下及び病床数の減少と共に、撮影人数も減ってきています。CT撮影検査は昨年とほぼ変わらない状況です。

b セりがや病院

昨年度と比較して、入院患者数が増加したため、一般撮影・CT撮影共に増加しました。

(ア) 一般撮影業務件数（人数及び撮影回数）

a 芹香病院

部位 月	頭 部				胸 部				腹 部				椎 骨				四肢骨				その他				合 計			
	人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数	
	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室
H23.4					5	49	5	58	1	21	1	26		1		2		2		3		1		2	6	74	6	91
5					1	62	1	72	2	39	2	50						4		8		1		1	3	106	3	131
6		1		2		60		67	2	44	3	53					1	5	3	12		2		3	3	112	6	137
7					4	49	4	59	4	37	5	48						4		7		2		3	8	92	9	117
8					2	55	2	60		47		55		2		6		2		8		1		1	2	107	2	130
9		3		8	5	69	5	79	2	43	2	54		2		4		5		8		1		2	7	123	7	155
10		1		1	10	53	10	62	5	47	5	60		2		4		7		20		2		4	15	112	15	151
11					12	56	12	63	7	43	7	53		1		2		2		3					19	102	19	121
12					5	60	5	72	5	50	5	69	1	2	1	4		2		4		4		6	11	118	11	155
H24.1		1		1	3	62	3	70	2	48	2	60						3		8					5	114	5	139
2					4	74	4	90	5	42	5	57		1		2		2		6		2		6	9	121	9	161
3					15	49	15	55	7	32	7	39						1		2		1		1	22	83	22	97
合計	0	6	0	12	66	698	66	807	42	493	44	624	1	11	1	24	1	39	3	89	0	17	0	29	110	1,264	114	1,585
構成比(%)	0.0	0.4	0.0	0.7	4.8	50.8	3.9	47.5	3.1	35.9	2.6	36.7	0.1	0.8	0.1	1.4	0.1	2.8	0.2	5.2	0.0	1.2	0.0	1.7	8.0	92.0	6.7	93.3

b セリがや病院

部位 月	頭 部		胸 部		腹 部		椎 骨		四肢骨		その他		合 計	
	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数
H23.4			31	32									31	32
5			13	13	1	1			2	4			16	18
6			36	38	1	1							37	39
7			23	23									23	23
8			24	24	1	1							25	25
9			35	37	1	1			1	2			37	40
10			31	31									31	31
11			31	31	4	5	1	2			1	2	37	40
12			27	27	1	1	1	2	1	2			30	32
H24.1			24	24	1	2			1	2	1	2	27	30
2			17	19	1	1					1	1	19	21
3			36	36					2	4			38	40
合計	0	0	328	335	11	13	2	4	7	14	3	5	351	371
構成比(%)	0.0	0.0	93.4	90.3	3.1	3.5	0.6	1.1	2.0	3.8	0.9	1.3	100.0	100.0

(イ) CT検査業務件数

a 芹香病院

部位 月	頭 部			胸 部			腹 部			椎 骨			四肢骨			その他			合 計		
	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数
H23.4	31	633	663	2	91	152	2	24	24										35	748	839
5	49	985	1,030				2	83	115										51	1,068	1,145
6	47	973	1,067	1	52	80													48	1,025	1,147
7	37	743	763	4	164	294	2	63	63										43	970	1,120
8	48	1,004	1,063	2	97	149													50	1,101	1,212
9	50	1,063	1,205	2	82	145	2	75	72										54	1,193	1,422
10	46	955	976				1	48	48										47	1,163	1,024
11	47	938	958	6	273	476	6	208	208										59	1,377	1,642
12	44	887	966	6	283	469	5	166	166										55	1,269	1,601
H24.1	42	844	880	6	270	460	3	99	99										51	1,151	1,439
2	44	903	993	7	323	549	1	37	37										52	1,263	1,579
3	35	764	807	3	131	232	1	33	33										39	928	1,072
合計	520	10,692	11,371	39	1,766	3,006	25	836	865	0	0	0	0	0	0	0	0	0	584	13,256	15,242
構成比(%)	89.0	80.7	74.6	6.7	13.3	19.7	4.3	6.3	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0

b セリがや病院

部位 月	頭 部			胸 部			腹 部			椎 骨			四肢骨			その他			合 計		
	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数	人数	スライス数	画像数
H23.4	30	613	613	1	33	65													31	646	678
5	14	285	285				1	47	47										15	332	332
6	39	814	814	3	121	219	1	13	13										43	948	1,046
7	24	484	504	1	61	83	1	13	13										26	558	600
8	24	484	526																24	484	526
9	39	792	812	1	71	107													40	863	919
10	31	625	645	3	102	204	1	31	31										35	758	880
11	32	643	703				1	71	71										33	714	774
12	26	534	554	1	51	81	1	58	84										28	643	719
H24.1	26	542	542																26	542	542
2	17	348	368	1	27	54	1	36	36										19	411	458
3	37	754	745	1	69	105													38	823	850
合計	339	6,918	7,111	12	535	918	7	269	295	0	0	0	0	0	0	0	0	0	358	7,722	8,324
構成比(%)	94.7	89.6	85.4	3.4	6.9	11.0	2.0	3.5	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0

(ウ) 一般撮影業務件数推移

		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比(%)
芹 香 病 院	延べ人数	1,451	1,299	1,326	1,728	2,202	1,929	1,393	1,643	1,553	1,466	1,374	93.7
	延べ回数	1,936	1,709	1,649	2,278	2,920	2,619	1,877	2,105	2,062	1,844	1,699	92.1
せりがや病院	延べ人数	473	474	420	393	353	384	350	329	383	330	351	106.4
	延べ回数	827	782	544	505	421	400	373	350	480	388	371	95.6
合計	延べ人数	1,924	1,773	1,746	2,121	2,555	2,313	1,743	1,972	1,936	1,796	1,725	96.0
	延べ回数	2,763	2,491	2,193	2,783	3,341	3,019	2,250	2,455	2,542	2,232	2,070	92.7

(エ) CT検査業務件数推移

		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比(%)
芹 香 病 院	延べ人数	178	150	197	463	518	625	487	615	629	571	584	102.3
	延べ回数	2,162	1,844	2,471	8,613	11,463	14,317	10,612	13,833	14,988	13,197	13,294	100.7
	画像処理	2,209	1,892	2,605	9,668	14,280	17,451	12,375	15,675	17,594	15,454	15,242	98.6
せりがや病院	延べ人数	454	470	373	381	318	374	322	322	339	315	358	113.7
	延べ回数	5,492	5,650	4,505	4,604	4,089	7,174	6,504	6,795	7,290	6,844	7,722	112.8
	画像処理	5,590	5,670	4,542	4,653	4,094	7,277	6,665	7,305	8,172	7,435	8,324	112.0
合計	延べ人数	632	620	570	844	836	999	809	937	938	886	942	106.3
	延べ回数	7,654	7,494	6,976	13,217	15,552	21,491	17,116	20,628	22,278	20,041	21,016	104.9
	画像処理	7,799	7,562	7,147	14,321	18,374	24,728	19,040	22,980	25,766	22,889	23,566	103.0

ウ 臨床検査業務

a 芹香病院

件 数 項 目	平 成 23 年 度	平 成 22 年 度	増 減
一 般 検 査	12,699 件	17,318 件	▲ 4,619 件
血 液 学 的 検 査	16,942	18,455	▲ 1,513
生 化 学 的 検 査	51,910	55,505	▲ 3,595
免 疫 学 的 検 査	3,301	3,409	▲ 108
微 生 物 学 的 検 査	195	235	▲ 40
病 理 学 的 検 査	1	6	▲ 5
内 分 泌 学 的 検 査	1,649	1,242	407
生 理 機 能 検 査	1,351	1,458	▲ 107
そ の 他 の 検 査	0	0	0
計	88,048	97,628	▲ 9,580

b せりがや病院

件 数 項 目	平 成 23 年 度	平 成 22 年 度	増 減
一 般 検 査	3,880 件	5,649 件	▲ 1,769 件
血 液 学 的 検 査	8,324	9,097	▲ 773
生 化 学 的 検 査	28,162	31,431	▲ 3,269
免 疫 学 的 検 査	1,769	1,919	▲ 150
微 生 物 学 的 検 査	35	29	6
病 理 学 的 検 査	0	1	▲ 1
内 分 泌 学 的 検 査	65	368	▲ 303
生 理 機 能 検 査	501	353	148
そ の 他 の 検 査	0	0	0
計	42,736	48,847	▲ 6,111

(5) 地域医療相談室業務

地域医療相談室はソーシャルワーカー10名、訪問看護師4名、および事務担当1名の計15名で構成されている。また独立行政法人化に伴う人事異動により、これからの病院再編に向けた地盤作りを進めている。相談内容は医療費・生活費などの経済的なこと、介護保険や障害者自立支援法などの福祉制度のこと、デイケアや地域作業所などの社会資源のこと、家族との関係や患者本人の対応法など多岐にわたっているが、何より本人並びに家族とのラポール作りと権利擁護、支援関係の継続を第一に業務を進めている。

救急医療については平成15年度にB1病棟が26床（現在は24床）の救急病棟として整備され、そのうち16床が神奈川県基幹病院としてシステム救急用のベッドとなっている。残りの10床（現在は8床）が院内救急用のベッドとなっている。救急については、本人・家族との面接や生活問題に関する調整をはじめ、県・横浜市・川崎市・相模原市担当課や後方病院との連絡調整などを関わっている。

地域移行（退院支援）については、平成15年度から長期在院者の退院促進に対する取り組み、入院患者の減少に伴い、

平成20年3月にA1病棟（認知症病棟）とC1病棟（一般開放病棟）が閉棟したのを第1期とすると、平成22～23年度のC2、C3病棟合併に伴う取り組みからを第2期として進めている。

平成17年度から施行された医療観察法における指定医療機関として、鑑定入院および、通院医療、小規模での入院医療を受け入れているが、観察担当者（兼任）を1名配置して対応している。（オで再掲）。

平成20年4月からは自殺予防対策の一環としてうつ病を対象としたストレスケア病棟（A2）病棟が開棟しているが、病棟担当者（兼任）を2名配置して対応している。またリワークプログラムにも多職種チームのスタッフとして対応している。

権利擁護の視点からは抗告、処遇改善や退院請求などを中心として迅速な個別対応を進めているが、医療や経済、家族間の法律的な問題への新たな窓口として、横浜弁護士会による法律相談会（モデル事業）を5月から12月まで月に1回ペースで開催して今後の展開を検討している（カで再掲）。

平成15年度から実施された訪問看護の充実を図るために、18年度から訪問看護スタッフが4名配置されて実施している（イで再掲）。

家族に対する支援も個別的に継続している。地域支援については、地域作業所、グループホームの運営委員会、地域移行定着事業への協力、区の各種ネットワーク会議等への参加を強化している。また医療観察法指定医療機関のワーカーを中心とした、かながわ司法精神医療福祉ネットワークを主催し、連携の強化を図っている。

全国自治体病院協議会精神科特別部会のコメディカル部会（平成19年度より設置）には理事として出席し、全国の会員との交流や連携を推進している。

ア ソーシャルワーク業務

（ア）内容別相談件数

{ } 医療観察、() はストレス、〈 〉 は救急を再掲

内 容	平 成 23 年 度			平成22年度計
	外 来	入 院	計	
受療相談、調整	3,165	1,514	4,679	4,647
経済関係(32条申請、生活保護、年金、手当等)	737	1,972	2,709	2,714
治療生活に関すること (ケースワーク、家族調整他)	2,865	4,165	7,030	6,939
社会復帰に関すること(退院、施設他)	1,315	4,732	6,047	5,386
仕事に関すること	847	504	1,351	1,256
転院に関すること	160	1,610	1,770	1,824
権利に関すること	35	317	352	609
院内及び院外関係機関との連絡調整、その他	4,556	5,949	10,505	10,178
計	13,680 { 2,980}	20,763 { 972}	34,443 { 3,952}	33,553 { 2,712}
	(1,035) 〈 514〉	(853) 〈 5,031〉	(1,888) 〈 5,545〉	(3,172) 〈 7,505〉

(イ) 実施方法別相談件数

内 容	平 成 23 年 度			平成22年度計
	外 来	入 院	計	
院内面接（患者、家族、院内外関係者等）	4,475	7,026	11,501	11,226
電 話	5,614	9,024	14,638	14,377
文 書（訪問依頼表、カルテ調べ等）	793	931	1,724	2,026
訪 問（保健所、役所、作業所、家庭等）	568	1,342	1,910	1,357
カンファレンス	2,230	2,440	4,670	4,567
計	13,680	20,763	34,443	33,553

(ウ) 被相談者別相談件数

内 容	平 成 23 年 度			平成22年度計
	外 来	入 院	計	
本 人	3,939	4,717	8,656	6,513
家 族	2,230	3,998	6,228	5,934
院内関係者	5,031	9,223	14,254	14,834
院外関係者（保健所、福祉事務所等）	4,076	5,141	9,217	8,936
その他（職場、後見人、民生委員等）	17	86	103	119
計	15,293	23,165	38,458	36,336

イ 訪問看護業務

訪問看護は、地域医療相談室に所属する専任の看護師4名、ソーシャルワーカー10名、及び、外来看護師6名、病棟看護師数名が連携し訪問看護業務を実施している。訪問看護登録者は医療観察法対象の患者を含め180名を超え、訪問看護件数も年々増加し、看護も見守りから病状の変化に応じて内容の濃いものになってきている。

交通手段としては4台の訪問看護専用車の他に、病院公用車、一般交通を利用している。道路交通法の改正に伴い、駐車除外許可証が1年毎の更新となり、総務課と協力し許可証を取得した。訪問先は当院近隣の他、泉区、青葉区、港北区、川崎市、横須賀市、鎌倉市、藤沢市、逗子市、小田原市、高座郡と往復50km以上かかるケースもあり広範囲にわたっている。

地域との連携を大切にし、退院前カンファレンスや訪問看護評価カンファレンスでは、地域の関係者（福祉保健センターソーシャルワーカー、作業所職員、ケアマネージャー、ヘルパー等）に参加してもらい支援の共有化を図った。

ソーシャルワーカーの学生の実習も受け入れ、訪問看護の必要性和実際に学ぶ場を提供している。

また、県や市の職員の新人研修にも組み込み、必要性和協力を依頼している。さらに、地域精神医療ネットワークの

勉強会等にも参加し、情報交換や連携を図っている。

訪問看護運営会議では、地域医療相談室と他部門との連携を図り学習会を行い、訪問看護の質の向上および地域支援の理解普及に努めた。

(ア) 平成15年度から平成23年度までの年間訪問看護件数

年 度	15	16	17	18	19	20	21	22	23
件 数	342	746	1,152	2,113	3,118	2,888	2,903	2,966	2,990

(イ) 平成23年度月別訪問看護件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問件数	250	243	250	270	256	250	253	237	233	237	240	270	2,990
対 象 者	185	189	188	192	184	188	189	184	182	190	196	186	2,253
C F 件数	14	13	13	20	16	9	10	15	13	11	11	22	167

(ウ) 平成23年度診療報酬別訪問件数（訪問Ⅰに評価訪問を含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間件数
訪 問 Ⅰ	243	235	243	268	246	243	250	234	231	233	236	260	2,922
訪 問 Ⅱ	2	2	0	0	2	1	0	1	0	1	0	2	11
退院前訪問	5	6	7	2	8	6	3	2	2	4	4	8	57
合 計	250	243	250	270	256	250	253	237	233	237	240	270	2,990

(エ) 平成23年度月別新規申し込み件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
4	3	2	8	1	2	3	2	2	2	2	2	33

(オ) 平成23年度病棟別新規申し込み件数

外来	A2	A3	B1	B2	B3	C2	C3	合 計
14	2	2	4	10	0	0	1	33

(カ) 平成23年度終了ケース

目標達成	施設利用	転 院	入 院	中絶・拒絶	死 亡	その他	合 計
6	2	5	3	0	6	5	27

(キ) 平成23年度疾患別分類（H24. 3現在）

疾患名	統合失調症 （他疾患の 合併含む）	中毒性精神障 害（薬物・アル コール含む）	躁 鬱	知的障害	人格障害	強迫性障害	認知症	うつ病	その他	合 計
件 数	156	8	6	2	1	2	0	8	2	185

(ク) 平成23年度地域別分類

横浜市

地域	港南区	南区	磯子区	戸塚区	中区	泉区	保土ケ谷区	栄区	緑区	神奈川区
件数	29	46	9	27	6	6	12	6	1	5
地域	西区	港北区	旭区	鶴見区	瀬谷区	青葉区	合 計			
8	4	1	6	2	3	1	172			

県域 () は医療観察法対象者

地域	川崎市	横須賀市	鎌倉市	逗子市	藤沢市	小田原市	高座郡	合 計
人数	4 (2)	2 (1)	2 (1)	1	2 (1)	1 (1)	1 (1)	13

(ケ) 平成23年度男女・住居別分

	男性	女性
単身生活	50	29
家族同居	44	42
施設入所	13	7
合 計	107	78

(コ) 平成23年度学習会状況

訪問運営会議	内 容	訪問運営会議	内 容
①平成23年 5 月27日	退院前訪問看護について	③平成23年11月25日	退院前訪問看護の活用と効果について
②平成23年 9 月30日	訪問看護の効果を高める為の社会資源について	④平成24年 1 月27日	医療観察法について

ウ 地域連絡会議

県立病院ソーシャルワーカー連絡会議

会 議 名	場 所	実 施 日
第 1 回 県立病院ソーシャルワーカー連絡会議	がんセンター	平成23年 7 月28日

港南区地域生活支援協議会

会 議 名	場 所	実 施 日
港南区障がい者地域生活支援会議	港南区社会福祉協議会	平成23年 5 月26日 7 月28日 9 月14日 11月14日 平成24年 1 月26日 3 月16日

港南ネット会議

会 議 名	場 所	実 施 日
平成23年度 第 1 回港南ネット会議	港南中央地域ケアプラザ	平成23年 5 月13日
第 2 回港南ネット会議	港南区社会福祉協議会	7 月 8 日
第 3 回港南ネット会議	港南中央地域ケアプラザ	9 月 9 日
第 4 回港南ネット会議	そよかぜの家	11月11日
第 5 回港南ネット会議	港南中央地域ケアプラザ	平成24年 1 月13日
第 6 回港南ネット会議	港南中央地域ケアプラザ	3 月 9 日

戸塚区連絡会（H22年度より出席）

会 議 名	場 所	実 施 日
戸塚区精神保健福祉連絡会・戸塚区生活支援センター運営連絡会	戸塚区役所	平成23年 6 月28日 平成24年 3 月12日
戸塚区精神保健福祉業務連絡会	戸塚区役所	平成23年11月25日

エ 協議会、研修受け入れ、講師派遣等

協議会等

内 容	場 所	参 加 日
全国自治体病院協議会 精神科特別部会総会・研修会	宇部全日空ホテル	平成23年 8 月24日～26日
精神障害者雇用支援連絡協議会	神奈川障害者職業センター	平成23年12月 8 日 平成24年 3 月 1 日
第 1 回全自病協精神科コメディカル部会関東ブロック会議（なでしこ会）	埼玉県立精神医療センター	平成23年 9 月17日
第 2 回全自病協精神科コメディカル部会関東ブロック会議（なでしこ会）	剛堂会館	平成24年 2 月18日

実習生受け入れ

依 頼 校	人 数	実 施 日
上智社会福祉専門学校	1 名	平成23年 7 月13日～ 7 月29日
桜美林大学	1 名	平成23年 8 月 8 日～ 8 月23日
県立保健福祉大学	2 名	平成23年 8 月15日～ 9 月14日
東洋大学	1 名	平成23年11月 7 日～11月22日
日本福祉大学通信教育部	1 名	平成23年 7 月11日～ 8 月11日
YMCA福祉専門学校	1 名	平成23年11月 7 日～11月24日

現任者の視察・研修受け入れ

内 容	人 数	実 施 日
神奈川県精神保健福祉 新任研修	9名	平成23年 7 月 7 ～ 8 日
横浜市精神保健 新任担当者研修	11名	平成23年 7 月22日
港南区生活支援センター	3 名	平成23年 9 月26日
神奈川県医療社会事業協会	3 名	平成23年12月 8 日

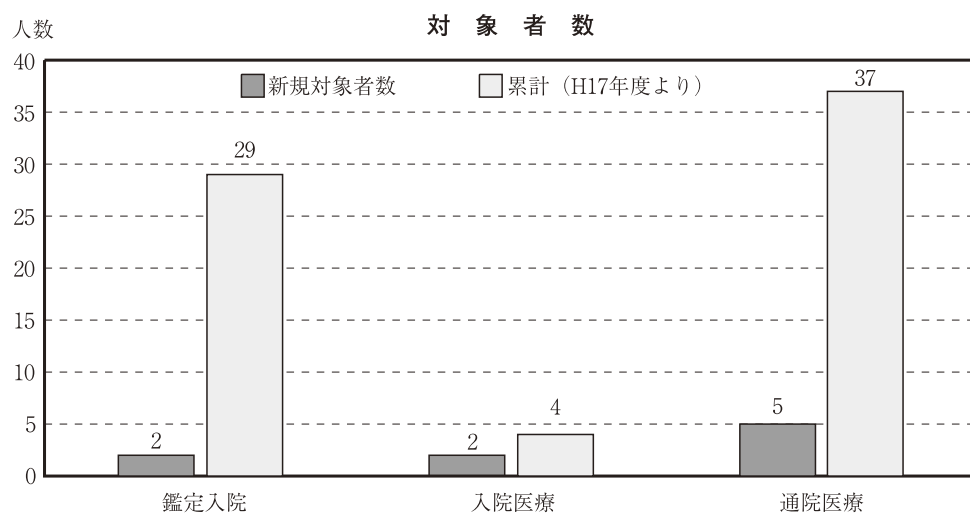
講師派遣

内 容	場 所	実 施 日
神奈川県相談支援従事者 初任者研修	藤沢産業センター	平成23年 8 月31日～ 9 月 2 日
指定医療機関従事者研修会	明治製菓講堂	平成23年11月12日
精神保健福祉のネットワーク情報交換交流会 その 2	上倉田地域ケアプラザ	平成23年11月29日
医療観察法病棟入院対象者家族会	久里浜アルコール症センター	平成24年 2 月 3 日
心神喪失者等医療観察法における地域処遇に関する説明会	さいたま新都心合同庁舎	平成24年 2 月16日
人権研修	横浜少年鑑別所	平成24年 2 月29日
指定通院医療機関等連絡会	大阪保護観察所	平成24年 3 月14日

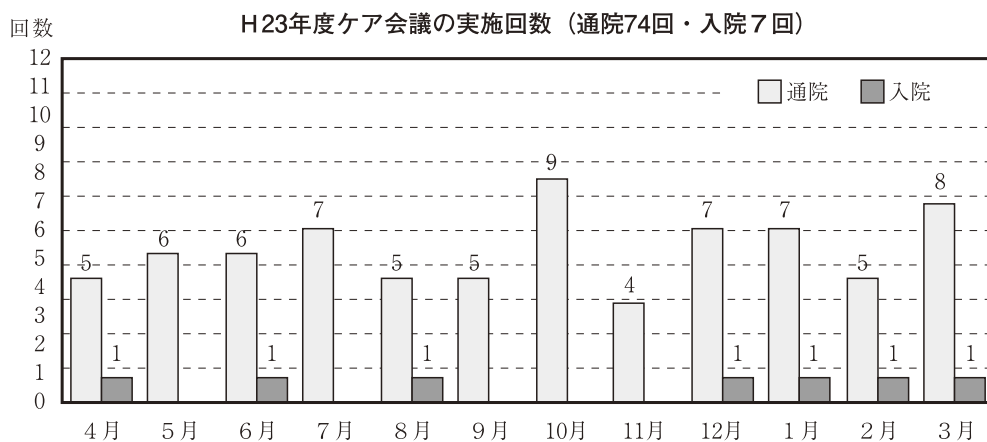
オ 医療観察制度の取組み

H17年7月15日より施行された「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医療観察制度）」では、医療と司法が連携の上で対象者の社会復帰に必要な処遇（それに伴う入院及び通院医療）を行なうとされている。当院では救急病棟であるB1病棟での鑑定入院ならびに併設小規模病棟における入院医療、外来・訪問看護・デイケアなどを基本とした通院医療を、それぞれMDTを編成して提供している。入院医療では週に1回の治療評価会議・MDT会議をベースに、通院医療では月に1回のチーム会議をベースにして、3ヶ月に1回程度のケア会議を軸にした処遇を展開している。これら全体を統括する医療観察法運営会議を月に1回開催している。地域医療相談室に医療観察担当者（兼任）が配置され、訪問看護調整者と連携の上で全体調整及び直接処遇を行なっている。H22年度からは事務担当が1名配置され、各種手続き書類や評価シートなどの文書整理やケア会議等のスケジュール管理など、マネジメント機能が飛躍的に充実強化されている。また、院内研修の実施および他県の医療機関等の視察研修や新任社会復帰調整官の研修も受け入れている。なお引き続き、円滑な制度運営に向けて、県内の指定医療機関のソーシャルワーカーおよび社会復帰調整官のネットワーク（かながわ司法精神医療福祉ネットワーク）を実施している。精神・神経科学振興財団主催の指定医療機関従事者研修の講師も継続して担当している。

対象者数



ケア会議の開催回数



連絡会

内 容	開催場所	実 施 日
かながわ司法精神医療福祉ネットワーク会議	東京都庁 横浜市大総合医療センター 曽我病院 横浜保護観察所	平成23年 4 月28日 7 月29日 10月14日 平成24年 1 月13日

講師派遣（再掲）

内 容	開催場所	実 施 日
指定医療機関従事者研修会	明治製菓講堂	平成23年11月12日
医療観察法病棟入院対象者家族会	久里浜アルコール症センター	平成24年 2 月 3 日
心身喪失者等医療観察法における地域処遇に関する説明会	さいたま新都心合同庁舎	平成24年 2 月16日
指定通院医療機関等連絡会	大阪保護観察所	平成24年 3 月14日

力 横浜弁護士会による法律相談会

精神科医療を受ける上で生じる権利擁護に関する事やさまざまな法律に関わる問題（借金、家族関係など）について、迅速かつ適切な相談および対応方法の提供の推進、および医療観察法入院病棟における権利擁護支援の一環として位置づけるために、法律の専門家である弁護士の相談を定期的に開催し密な連携を図っていくことを目的として、5月から12月の期間で月に1回（第3木曜日）の横浜弁護士会による法律相談会をモデル事業として開催した。

対象者は医療観察法病棟対象者と救急病棟入院患者として、事前にポスターにて周知後に担当PSWが申込み時の面接を行ない窓口弁護士との調整をはかった上で、希望者の人数により2人の弁護士に対応してもらった。

実績

回 数	月 日	利用者数	キャンセル
第1回	5 / 26	1 名	
第2回	7 / 28	4 名	
第3回	9 / 22		2 名
第4回	10 / 27	1 名	
第5回	11 / 24		
第6回	12 / 22		1 名

(6) 薬剤業務

調剤業務では、年間調剤数は入院93,408件、外来143,630件、合計237,038件である。一日平均調剤数は979.5件、一日平均処方せん枚数は229.9枚となっている。院外処方せんの発行枚数は、1,168枚で、発行率としては4.82%であった。

薬剤情報提供業務（外来）は、服薬アドヒアランス向上のため平成20年6月からは外来患者さん全員を対象に毎回行うこととした。保険点数算定件数は、処方内容に変更が無い場合は月1回のみ算定し18,906件だった。

薬剤管理指導業務（入院）は、指導実患者数延べ72人、指導回数延べ128回実施した。

製剤業務では、製剤品目20品目で、そのうち約束処方4品目である。錠剤の散剤化製剤は11品目（22,800錠）調整し調剤業務の効率化を図った。

事故防止の推進のため、昨年度から引き続いて調剤の手順や方法、調剤室の人員配置等を見直し改善した。薬剤科の「医療安全報告書」の報告件数は平成18年度が106件だったが、平成19年度が58件、平成20年度が35件、平成21年度は41件、平成22年度は7件、平成23年度は9件だった。

薬品管理業務では、購入薬品数は646品目であった。薬効別薬品購入額では、中枢神経系用薬が、92.1%、循環器官用薬、消化器官用薬及びその他の薬剤が、7.9%であった。

向精神薬の管理は、緊急時に対応できる在庫管理を全品目実施した。又、調剤室の全薬品の在庫量の確認を半期毎に実施した。病棟・外来の常備・救急薬品の管理については、薬剤師による点検を毎月実施した。

薬事会議は、5月、9月、12月、2月の4回開催した。新規採用医薬品21品目、緊急購入医薬品19品目、削除医薬品8品目であった。

医薬品情報管理業務では、「医薬品情報」(DIニュース)を14回発行した。

オーダーリングシステムが平成21年12月から導入された。手書き処方箋と比較して照会件数が減少し、外来患者さんの待ち時間の短縮に繋がった。

A 平成23年度調剤数

区 分	処方せん枚数	剤 数	延べ剤数	1 日 平 均	
				剤 数	延べ剤数
入 院	32,548 枚	93,408 件	629,820 剤	386.0 件	2,602.6 剤
外 来	23,081	143,630	3,516,569	593.5	14,531.3
計	55,629	237,038	4,146,389	979.5	17,133.9

B 平成23年度注射剤払い出し本数

注射せん枚数	500 ml 未 満	500 ml 以 上	計
4,332 枚	8,800 本	2,965 本	11,765 本

C 平成23年度製剤数

内 服 散 剤	外 用 液 剤		軟 膏 剤	錠 剤 の 粉 砕
	非 滅 菌 製 剤	滅 菌 製 剤		
11,987 g	260,000 ml	0 ml	0 g	22,800 錠

D 平成23年度剤型別薬品購入額

剤 型	品 目 数	%	購 入 額	%
注 射	62 品	9.6 %	38,499,374 円	10.4 %
内 服	533	82.5	328,585,649	89.3
外 用	45	7.0	717,084	0.2
消 毒 液	6	0.9	69,075	0.1
計	646	100.0	367,871,182	100.0

E 平成23年度薬効別薬品購入額

薬 効	品 目 数	%	購 入 額	%
精 神 神 経 用 剤	212 品	32.8 %	305,207,675 円	83.0 %
抗 て ん かん 剤	33	5.1	1,205,407	3.3
抗 パーキンソン剤	15	2.3	5,121,788	1.4
睡眠鎮静剤・抗不安剤	67	10.4	16,418,934	4.4
循 環 器 官 用 薬	45	7.0	3,178,794	0.9
消 化 器 官 用 薬	60	9.3	11,115,254	3.0
そ の 他 の 薬 剤	214	33.1	14,774,666	4.0
計	646	100.0	367,871,182	100.0

(7) 医療教育

ア 臨床研修医受入状況

管理型病院名	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
足柄上病院				1						1	1		
厚木市立病院										1			
国際親善総合病院								1					

平成23年度は臨床研修協力型病院として次のとおりに臨床研修医を受け入れた。(単位：人)

イ 研修受け入れ

対象	人数	実施日
横浜市立大学医学部学生	5～6人	火曜日（見学実習）

(8) 栄養管理科業務

栄養管理科では、患者個々にあった栄養管理と安全、安心な食事提供を業務としている。さらに精神科治療の一環として食生活の自立支援に結びつく関わりを目的としている。

平成22年度はオーダリングシステムの活用が軌道にのり大規模なシステム変更はなかった。平成23年度は運用面において生じた事柄について、そのつと協議し院内の取り決めや改善策を検討して円滑な業務を図った。

入院患者への栄養管理については管理栄養士が栄養管理計画を作成するとともに病棟カンファレンスにおいて栄養管理上の問題点、課題などを検討し改善に向けた提案をしてきた。結果は項目「イ」に表記した。

NST・検討部会においては、イレウス予防、嚥下食について学習を進め、栄養管理の充実を図った。

ア 給食実施状況

平成23年度はC3病棟閉鎖の影響を受け、入院患者が減少した。入院給食数は、対前年度比91.8%〔一日平均615食（デイ・ケア食含む）〕であった。デイ・ケア食は対前年度比103.9%（一日平均30.6食）と増加した。

職種別食数の対前年度比では、介護食68.5%、ミキサー食22.7%と昨年度に引き続き減少しており、低残渣食、ソフト食は794.2%、180.6%と急激に増加した。低残渣食の増加については、イレウス予防のニーズが高まっている結果と考えられる。

食種構成比率では、介護食、ミキサー食、流動食、低残渣食、ソフト食などの形態調整食は、平成22年度の9.7%に比較して平成23年度は10.5%と増加している。また全ての食種において「一口大」、「小さい一口大」、「果物一口大」、「主菜一口大」、「麺一口大」、「麺キザミ」のコメント対応を可能にしたため、常に一定の割合でこれらの対応を活用する患者が存在している。

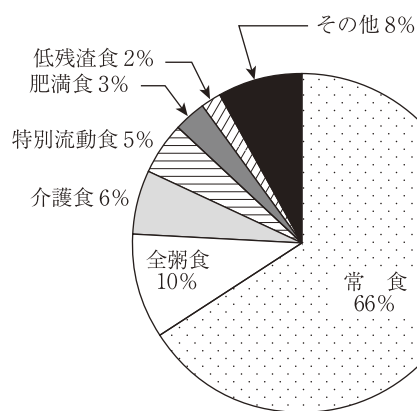
「全量摂取を目的とした個人対応」を調理に反映してきたことに加えて、院内における栄養管理への理解が進んだ結果、形態調整食の適正活用がなされ、摂食、嚥下予防に寄与できたと考えられる。

区 分				年 度	23年度	22年度	対前年度比（％）
一 般 食	常 食				140,580	160,236	87.7
	軟 流 動 食	全 粥 食			21,875	20,140	108.6
		介 護 食			12,465	18,187	68.5
		ミ キ サ ー 食			294	1,293	22.7
		流 動 食			42	0	—
		小 計			34,676	39,620	87.5
	計				175,256	199,856	87.7
特 別 食	加 算 で き る も の	腎 炎 食			3,041	3,133	97.1
		心 臓 病 食			738	984	75.0
		肝 臓 病 食			0	51	—
		糖 尿 病 食			4,814	9,198	52.3
		膵 臓 病 食			152	0	—
		ネ フ ロ ー ゼ 食			0	0	—
		潰 瘍 食			184	62	296.8
		貧 血 食			1,098	1,203	91.3
		脂 質 代 謝 異 常 症			1,121	1,776	63.1
		肥 満 食			4,364	4,688	93.1
		痛 風 食			0	0	—
		小 計			15,512	21,095	73.5
	加 算 で き な い も の	肥 満 食			2,306	4,470	51.6
		高 血 圧 食			844	673	125.4
		貧 血 食			0	0	—
		特 別 流 動 食			9,900	3,140	315.3
		脂 質 代 謝 異 常 症			0	0	—
		低 残 渣 食			5,091	641	794.2
		ソ フ ト 食			4,493	2,488	180.6
		小 計			22,634	11,412	198.3
	計				38,146	32,507	117.3
合 計				213,402	232,363	91.8	
院 外 作 業 食・ 病 棟 レ ク 食				(340)	(399)	85.2	
デ イ ・ ケ ア				7,445	7,165	103.9	
検 食 ・ 保 存 食				2,196	2,190	100.3	
職 員 食（ 実 習 生 ）				27,575(128)	28,496(546)	96.8(23.4)	
総 合 計				250,618	270,214	92.7	

* 院外作業食、病棟レク食 () は再掲

* 職員食 () は実習生で内数

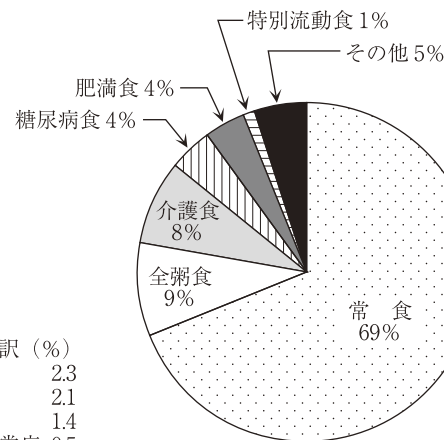
〔平成23年度〕



* その他の内訳 (%)

糖尿病食	2.3
ソフト食	2.1
腎炎食	1.4
脂質代謝異常症	0.5
貧血食	0.5
高血圧食	0.4
心臓病食	0.4
ミキサー、流動食	0.2
潰瘍食	0.1
膵臓食	0.1

〔平成22年度〕



* その他の内訳 (%)

腎炎食	1.3
ソフト食	1.0
脂質代謝異常症	0.8
ミキサー、流動食	0.5
貧血食	0.5
心臓病食	0.4
高血圧食	0.3
低残渣食	0.2

イ 栄養管理・NST活動

入院患者については、管理栄養士が栄養管理計画書を作成し入院中の食事提供について個々人に最適であるように提案を出し実施した。

平成23年度は栄養管理を目的とした病棟カンファレンスが定着し、毎月定例で実施した。

NST・栄養管理検討部会において各病棟における栄養管理上の問題点を共有し改善に向けた検討を実施した。

	A2	A3	B1	B2	B3	C2	計
スクリーニング件数（新規入院患者）	125	17	175	148	15	9	489
定例カンファレンス対象件数	19	47	0	30	60	48	204

※C3病棟閉鎖

ウ 栄養指導

本年度の集団指導は、ストレス外来治療プログラム「リワーク」の一環としての集団指導の他、病棟で入院生活を送る上で必要となる食知識の集団指導、作業療法プログラムでの食生活自立支援のための集団指導、デイ・ケア通院患者対象の集団指導など精神科特有の視点に立った指導を実施した。

個人指導については体重管理、バランスのとれた食生活、糖尿病、脂質異常症などの食生活指導から疾病のコントロール指導を対象者に合わせて実施した。

区分 年度	入 院				外 来				合 計			
	集団指導		個別指導		集団指導		個別指導		集団指導		個別指導	
	件数	延人数	件数	延人数	件数	延人数	件数	延人数	件数	延人数	件数	延人数
23	25	136	13	13	4	29	1	1	29	165	14	14
22	23	119	17	18	5	77	8	10	28	196	25	28
対前年度比 (%)	108.7	114.3	76.5	72.2	80.0	37.7	12.5	10.0	103.6	84.2	56.0	50.0

エ その他

- （1）栄養情報の提供：病棟配布献立表に栄養健康情報を掲載し啓蒙を行った。
- （2）実習生の受け入れ指導：栄養士養成施設の実習受託をし、2週間の実習を実施した。

看護学生やコメディカルへの講義を実施した。

(9) 保育業務

平成23年度は、精神医療センター及びこども医療センターに勤務する看護師、医師の幼児を対象とするとともに、保育時間も6時30分から22時までとしている。また、毎週土曜日と月1回日曜保育（第3を基本）も実施している。

ア 保育の状況

年 齢	男	女	計	保 護 者 の 所 属	
6 歳	2	4	6	精神医療センター 1	こども医療センター 5
5 歳	1	1	2	精神医療センター 1	こども医療センター 1
4 歳	3	6	9	精神医療センター 5	こども医療センター 4
3 歳	5	3	8	精神医療センター 3	こども医療センター 5
2 歳	7	4	11	精神医療センター 3	こども医療センター 8
1 歳	4	5	9	精神医療センター 2	こども医療センター 7
計	22	23	45	精神医療センター 15	こども医療センター 30

イ 主な行事

月	内 容	
4	進級式、クラス懇談会、クッキング	誕生会
5	遠足、病院の作品展参加、芋苗植え	〃
6	ぎょう虫検査、クッキング、春の健康診断	〃
7	プール開き、終園式 プールは～8/31まで実施	〃
9	始園式、クッキング、梨狩り遠足、秋祭り	〃
10	運動会、ハロウィンパーティー	〃
11	芋掘り、秋の健康診断、歯みがき指導	〃
12	クリスマスお楽しみ会、終園式、なかよし発表会	〃
1	始園式、個人面談、もちつき大会	〃
2	お店屋さんごっこ	〃
3	お別れ遠足、卒園式、終園式、お別れ会カレーパーティー	〃

Ⅲ せりがや病院事務事業の状況

1 せりがや病院基本方針

- 1 依存症の専門病院として、最新の知識を生かし、質の高い医療を提供するとともに、啓発活動に努めます。
- 2 患者様の人権に配慮し、インフォームド・コンセントを重視します。
- 3 職員間の連携を図り、チーム医療に努めます。
- 4 ご家族や関連諸機関と連携し、患者様の社会復帰を目指します。
- 5 県立病院として健全な経営に努力します。

2 経理の状況

(1) 地方独立行政法人会計 決算状況

(ア) 貸 借 対 照 表

(平成24年 3 月31日)

【せりがや病院】

(単位：円)

科 目	金 額			
資産の部				
I 固定資産				
1 有形固定資産				
土地		376,727,243		
建物	641,999,929			
減価償却累計額	△ 56,167,840	585,832,089		
構築物	22,513,363			
減価償却累計額	△ 2,741,937	19,771,426		
器械備品	37,906,354			
減価償却累計額	△ 10,834,335	27,072,019		
車両	0			
減価償却累計額	0	0		
放射性同位元素	0			
減価償却累計額	0	0		
建設仮勘定		0		
有形固定資産合計		1,009,402,777		
2 無形固定資産				
ソフトウェア		0		
電話加入権		8,000		
その他		0		
無形固定資産合計		8,000		
3 投資その他の資産				
長期貸付金		0		
長期前払消費税等		2,079,006		
破産更生債権等	8,550,931			
貸倒引当金	△ 8,550,931	0		
その他		130,000		
投資その他の資産合計		2,209,006		
固定資産合計			1,011,619,783	
II 流動資産				
現金及び預金		26,404,422		
医業未収金	86,327,666			
貸倒引当金	△ 2,562,269	83,765,397		
未収金		649,816		
たな卸資産		4,758,744		
前払費用		9,879		
流動資産合計			115,588,258	
資産合計				1,127,208,041

(ア) 貸 借 対 照 表
(平成24年 3 月31日)

【せりがや病院】

(単位：円)

科 目	金 額			
負債の部				
I 固定負債				
資産見返負債				
資産見返補助金等	0			
資産見返寄附金	0			
資産見返物品受贈額	86,717,935			
建設仮勘定見返運営費負担金	0			
建設仮勘定見返補助金等	0	86,717,935		
長期借入金		6,275,000		
移行前地方債償還債務		374,822,000		
引当金				
退職給付引当金	417,861,985			
環境対策引当金	0	417,861,985		
リース債務		1,958,277		
資産除去債務		1,012,584		
固定負債合計			888,647,781	
II 流動負債				
寄附金債務		0		
一年以内償還予定移行前地方債償還債務		55,382,000		
一年以内返済予定長期借入金		1,425,000		
未払金		7,256,613		
一年以内支払予定リース債務		1,084,892		
未払費用		16,269,818		
未払消費税等		0		
前受金		0		
預り金		2,877,991		
引当金				
賞与引当金	36,514,206	36,514,206		
流動負債合計			120,810,520	
負債合計				1,009,458,301
純資産の部				
I 資本金				
設立団体出資金		95,174,613		
資本金合計			95,174,613	
II 資本剰余金				
資本剰余金		4,000,000		
資本剰余金合計			4,000,000	
III 利益剰余金				
当期末処分利益		18,575,127		
(うち当期総利益)		(18,575,127)		
利益剰余金合計			18,575,127	
純資産合計				117,749,740
負債純資産合計				1,127,208,041

(イ) 損 益 計 算 書
(平成23年 4 月 1 日～平成24年 3 月31日)

【せりがや病院】

(単位：円)

科 目	金 額		
営業収益			
医業収益			
入院収益	309,285,635		
外来収益	154,430,551		
児童福祉施設収益	0		
その他医業収益	2,776,406	466,492,592	
運営費負担金収益		382,500,000	
補助金等収益		0	
寄附金収益		0	
資産見返運営費負担金戻入		0	
資産見返補助金等戻入		0	
資産見返寄附金等戻入		0	
資産見返物品受贈額戻入		2,834,004	
営業収益合計			851,826,596
営業費用			
医業費用			
給与費	582,926,796		
材料費	98,084,022		
減価償却費	36,651,030		
経費	102,741,790		
研究研修費	724,490		
児童福祉施設費	0	821,128,128	
一般管理費			
給与費	0		
減価償却費	0		
経費	0	0	
控除対象外消費税等		10,401,935	
資産に係る控除対象外消費税等償却		131,789	
その他営業費用		0	
営業費用合計			831,661,852
営業利益			20,164,744
営業外収益			
運営費負担金収益		4,972,000	
患者外給食収益		3,293,694	
不用品売却収益		6,210	
財務収益		481	
雑益		1,507,634	
営業外収益合計			9,780,019
営業外費用			
患者外給食費		3,212,414	
財務費用		7,498,907	
雑支出		428,147	
営業外費用合計			11,139,468
経常利益			18,805,295
臨時利益			
その他臨時利益		200,005	200,005
臨時損失			
固定資産除却損		0	
その他臨時損失		430,173	430,173
当期純利益			18,575,127
当期総利益			18,575,127

3 業務実績

(1) 各種指標

項 目	計 算 方 式	単位	平成23年度	平成22年度	対前年度比(%)	備 考
病 床 数		床	80	80	100.0	
取 扱 患 者 数		人	32,947	33,922	97.1	
入 院 患 者		人	17,924	19,231	93.2	
外 来 患 者		人	15,023	14,691	102.3	
1 日 平 均 取 扱 患 者 数		人	110.6	113.0	97.9	
入 院 患 者	取扱入院患者数／年間日数 365日	人	49.0	52.6	93.2	
外 来 患 者	取扱外来患者数／年間外来診療日数	人	61.6	60.4	102.0	
病 床 利 用 率	取扱入院患者数／延病床数×100	%	61.2	64.7	94.6	
平 均 在 院 日 数	入院延患者数／(入院患者数＋退院患者数)×0.5	日	52.3	60.0	87.2	
入 院 外 来 患 者 比 率	取扱外来患者数／取扱入院患者数×100－100	%	83.8	76.3	109.8	
医師・看護師1人当たりの取扱患者数						
医 師	取扱患者数／医師延人数	人	18.0	18.6	96.7	
看 護 師	取扱患者数／看護師延人数	人	2.3	2.4	95.8	
職 員 数		人	58	57	101.7	期 末 人 数
医 師		人	5	5	100.0	期 末 人 数
看 護 師		人	39	37	105.4	期 末 人 数
そ の 他 職 員		人	14	15	93.3	期 末 人 数
病 床100床 当 た り の 職 員 数	全職員数／病床数×100	人	72.5	71.2	101.8	
医 師	職員数／病床数×100	人	6.2	6.2	100.0	
看 護 師	職員数／病床数×100	人	48.7	46.2	105.4	
そ の 他 職 員	職員数／病床数×100	人	17.5	18.8	93.0	
患 者 1 人 当 た り の 収 益	医業収益／取扱患者数	円	14,158	13,451	105.2	
入 院 患 者	入院収益／入院患者数	円	17,255	15,967	108.0	
外 来 患 者	外来収益／外来患者数	円	10,279	9,986	102.9	
医師・看護師1人1日当たりの収益						
医 師	医業収益／医師延人数	円	255,612	250,024	102.2	
看 護 師	医業収益／看護師延人数	円	32,770	33,787	96.9	
患 者1人1日 当 た り の 費 用	医業費用／取扱患者数	円	24,922	24,594	101.3	
患 者1人 当 た り の 薬 品 費	薬品費／取扱患者数	円	2,410	2,221	108.5	
患 者1人 当 た り の 給 食 材 料 費	給食材料費／入院患者数	円	865	863	100.2	
医 業 収 益 対 する 費 用 比 率	医業費用／医業収益×100	%	176.0	183.0	96.1	
給 与 費	給与費／医業収益×100	%	124.9	129.4	96.5	
材 料 費	材料費／医業収益×100	%	21.0	20.9	100.4	
経 費	経費／医業収益×100	%	22.0	24.4	90.1	

(注) 医師、看護師の延人数は、期末の在籍人数に365日(平成23・22年度共)を乗じ算出した

4 患者の状況

(1) 外来患者の状況

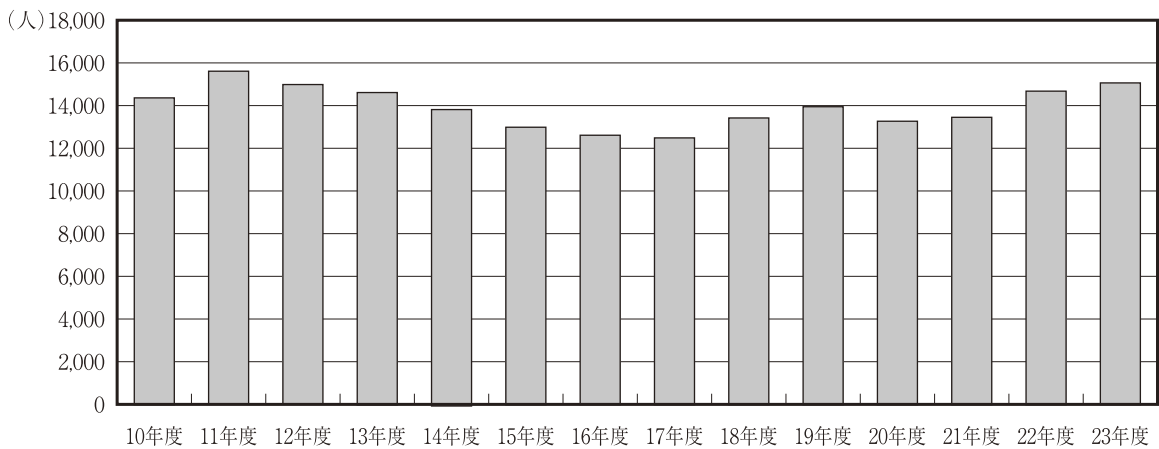
延患者数は332人の増で対前年度比2.6%の増となっている。そのうち、再来は、359人の増で対前年度比2.6%の増、新患は27人の減で対前年度比3.7%減となっている。新外来患者において、依存薬物別ではアルコールが56.2%で最も大きな割合を占め、年齢別では40～49歳の構成比が24.8%と最も多くなっている。また、外来患者の受診経路は医療機関からの経路が最も多く、全体の27.7%を占めている。

ア 月別外来患者数

年度	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
23	新 患	59	51	62	70	67	55	54	60	43	46	58	82	707
	再 来	1,134	1,118	1,279	1,159	1,288	1,199	1,130	1,293	1,166	1,115	1,156	1,279	14,316
	延患者数	1,193	1,169	1,341	1,229	1,355	1,254	1,184	1,353	1,209	1,161	1,214	1,361	15,023
	一日平均	59.7	61.5	61.0	61.5	58.9	62.7	59.2	67.7	63.6	61.1	57.8	64.8	61.6
22	新 患	71	59	66	59	59	49	67	57	59	57	61	70	734
	再 来	1,167	1,078	1,204	1,212	1,196	1,175	1,125	1,136	1,142	1,156	1,052	1,314	13,957
	延患者数	1,238	1,137	1,270	1,271	1,255	1,224	1,192	1,193	1,201	1,213	1,113	1,384	14,691
	一日平均	59.0	63.2	57.7	60.5	57.0	61.2	59.6	59.7	63.2	63.8	58.6	62.9	60.5

(注) 精神科のほか、内科受診者を含む

イ 外来患者数の年次推移状況



ウ 依存薬物別新外来患者数

年度	区分	依存薬物等 (F1)							計
		アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	そ の 他 薬 物	そ の 他 精神障害	
23	男	313	2	100	3	25	47	34	524
	女	70	0	28	3	4	40	13	158
	計	383	2	128	6	29	87	47	682
	構成比	56.2	0.3	18.8	0.9	4.3	12.8	6.9	100.0
22	男	302	7	122		9	52	31	523
	女	77	1	46		3	34	19	180
	計	379	8	168		12	86	50	703
	構成比	53.9	1.1	23.9		1.8	12.2	7.1	100.0

その他の薬物詳細

年度	薬物名 区分	鎮・睡剤	コカイン	幻覚剤	アヘン	市販薬	多剤	その他	計
23	男	15	0		3	5	26	1	50
	女	23	2		1	0	15	2	43
	計	38	2		4	5	41	3	93
	構成比	5.6	0.3		0.6	0.7	6.0	0.4	13.6

エ 年齢別新外来患者数

年度	年齢 区分	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
23	男	4	63	106	129	91	79	52	524
	女	5	28	49	40	19	14	3	158
	計	9	91	155	169	110	93	55	682
	構成比	1.3	13.3	22.7	24.8	16.1	13.6	8.1	100.0
22	男	9	55	103	144	106	66	40	523
	女	11	42	49	43	26	8	1	180
	計	20	97	152	187	132	74	41	703
	構成比	2.8	13.8	21.6	26.6	18.8	10.5	5.8	100.0

オ 地域別実外来患者数

居住地		年度	23	22	居住地		年度	23	22	居住地		年度	23	22
居住地		年度	23	22	居住地		年度	23	22	居住地		年度	23	22
横 浜 市	鶴 見 区		7,514	1,147	横 須 賀 市	平 塚 市		250	49	足 柄 上 郡	中 井 町		30	6
	神 奈 川 区		376	63		鎌 倉 市		243	27		大 井 町		0	2
	西 区		305	45		藤 沢 市		131	29		松 田 町		16	2
	中 区		227	37		小 田 原 市		369	64		山 北 町		14	2
	南 区		606	107		茅 ヶ 崎 市		82	14		開 成 町		0	
	港 南 区		1,374	177		逗 子 市		162	31	足 柄 下 郡	箱 根 町		0	
	保 土 ヶ 谷 区		854	113		相 模 原 市		21	5		真 鶴 町		6	3
	旭 区		435	71		三 浦 市		26	21		湯 河 原 町		6	1
	磯 子 区		425	65		秦 野 市		11	6		県 内 計		0	
	金 沢 区		506	79		厚 木 市		25	6		東 京 都		0	
	港 北 区		246	47		大 和 市		63	12	埼 玉 県	千 葉 県		10,209	1,624
	緑 区		244	49		伊 勢 原 市		139	25		群 馬 県		341	68
	戸 塚 区		146	19		海 老 名 市		75	7		栃 木 県		17	3
	瀬 谷 区		769	112		座 間 市		76	12		山 梨 県		18	4
	栄 区		282	38		南 足 柄 市		85	12		静 岡 県		0	1
	泉 区		173	30		綾 瀬 市		5	1		茨 城 県		3	7
	青 葉 区		304	49		三 浦 郡 葉 山 町		59	10		そ の 他 の 県		0	1
	都 筑 区		120	28		高 座 郡 寒 川 町		16	3		県 外 計		19	0
			122	18		愛 甲 郡		49	10		住 所 不 明		9	2
川 崎 市	川 崎 区		742	118		愛 川 町		6	2		計		195	41
	幸 区		262	40	中 郡	清 川 村		6	2				602	127
	中 原 区		151	21		大 磯 町		0	0				0	0
	高 津 区		56	13		二 宮 町		24	4				10,811	1,751
	宮 前 区		120	21				6	2					
	多 摩 区		57	9				18	2					
	麻 生 区		70	11										
			26	3										

(注) 新患・再来を含め、同一患者について一人としてカウントした数

カ 新外来患者の受診経路

年度	依存薬物等 (F1) 受診経路	アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	その他 薬 物	そ の 他 精神障害	計	構成比
23	退院者、通院歴あり	103	1	55		1	13	6	179	26.2
	医 療 機 関 (精 神 科)	109		26	3	9	36	6	189	27.7
	医 療 機 関 (その他診療科)	68		3		2	6	3	82	12.0
	保 健 所	4				1	3		8	1.2
	福 祉 事 務 所	13		11		2	1		27	4.0
	断 酒 会 A - A	8		6		3	8		25	3.7
	職 場 関 係 者	3		1			1	25	30	4.4
	友 人 ・ 知 人	18		9	1	3	3	1	35	5.1
	警 察		1	1			1		3	0.4
	そ の 他	57		16	2	8	15	6	104	15.2
	計	383	2	128	6	29	87	47	682	100.0
年度	依存薬物等 (F1) 受診経路	アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	その他 薬 物	そ の 他 精神障害	計	構成比
22	退院者、通院歴あり	97	3	53		4	29	7	193	27.5
	医 療 機 関 (精 神 科)	82	3	23		3	22	4	137	19.4
	医 療 機 関 (その他診療科)	111	1	16			10	3	141	20.1
	保 健 所	6		3			3	1	13	1.8
	福 祉 事 務 所	25		21		1	2		49	7.0
	断 酒 会 A - A	7		10		1	4	1	23	3.3
	職 場 関 係 者			1			2	27	30	4.3
	友 人 ・ 知 人	13		10		1	1	4	29	4.1
	警 察	1		5		1			7	1.0
	そ の 他	37	1	26		1	13	3	81	11.5
	計	379	8	168		12	86	50	703	100.0

(2) 入退院患者の状況

延患者数は対前年度比6.8%、1,307人減少している。病床利用率は、対前年度比5.8ポイント減となった。

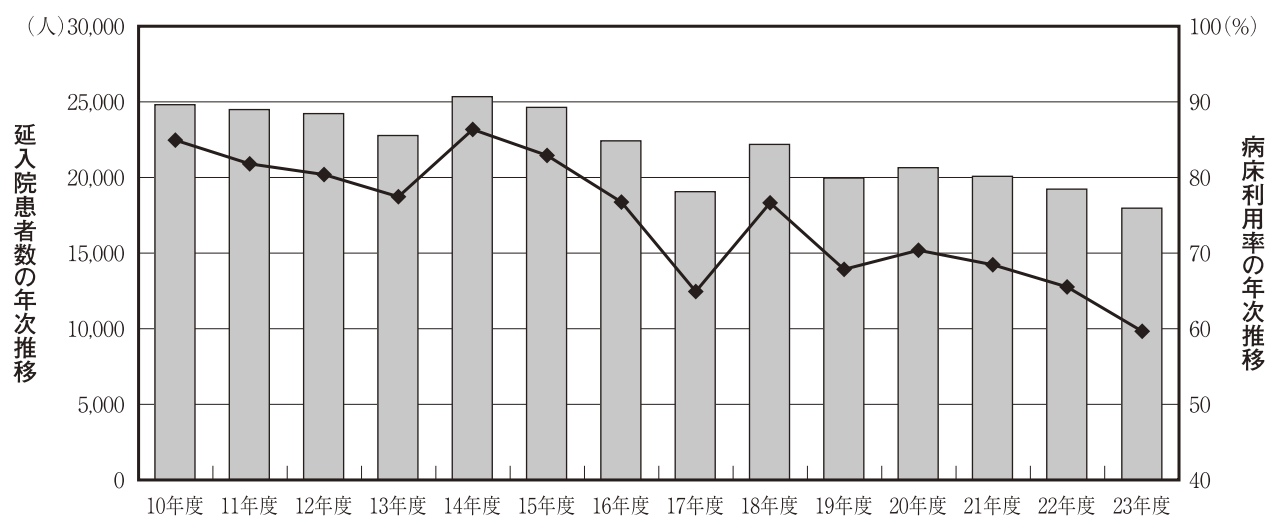
新入院患者は、対前年度比11.7%、36人増加している。新入院患者の病類別の構成比はアルコール依存症の割合が最も多く74.2%を占め、次いで覚せい剤中毒の8.1%となっている。入院形態は任意入院が全体の95.4%を占めている。退院患者の転帰は軽快の割合が多く、58.8%を占めている。

ア 月別入退院患者数

年度	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
23	入 院	31	18	33	25	29	33	36	33	27	25	21	34	345
	退 院	21	27	20	30	35	34	38	31	20	21	29	34	340
	延 患 者 数	1,464	1,401	1,472	1,579	1,593	1,386	1,428	1,432	1,539	1,614	1,506	1,510	17,924
	病床利用率	60.1	55.4	60.5	62.5	62.8	56.3	56	58.4	61.3	64.2	63.7	59.5	60.1
22	入 院	31	25	32	26	27	34	25	23	22	21	22	21	309
	退 院	37	25	33	27	27	35	25	29	31	19	19	24	331
	延 患 者 数	1,918	1,756	1,664	1,814	1,782	1,815	1,773	1,548	1,382	1,260	1,252	1,267	19,231
	病床利用率	79.9	70.8	69.3	73.1	71.9	75.6	71.5	64.5	55.7	50.8	55.9	51.1	65.9

(注) 月別に新たに入院した数

イ 延入院患者数及病床利用率の年次推移状況



ウ 依存薬物別入院患者数

年 度	依存薬物等 (F1) 区分	アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	そ の 他 薬 物	そ の 他 精神障害	計
23	男	195	1	21	2	8	26		253
	女	61		7			23	1	92
	計	256	1	28	2	8	49	1	345
	構成比	74.2	0.3	8.1	0.6	2.3	14.2	0.3	100.0
22	男	172	3	29		2	25	1	232
	女	43		12		1	20	1	77
	計	215	3	41		3	45	2	309
	構成比	69.6	1.0	13.3		1.0	14.5	0.6	100.0

(注) 本表の患者数とは、当年度に新たに入院した患者数

その他の薬物詳細

年 度	薬物名 区分	鎮・睡剤	コカイン	幻 覚 剤	ア ヘ ン	市 販 薬	多 剤	そ の 他	計
23	男	12			2	2	10	2	28
	女	12					10	1	23
	計	24			2	2	20	3	51
	構成比	7.0			0.6	0.6	5.8	0.9	14.8

工 病類別・年齢別実入院患者数

年度	依存薬物等 (F1)		アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	その他 薬 物	そ の 他 精神障害	計	年 齢 構 成 比
	年齢	区分									
23	19歳以下	男									0.6
		女			1			1		2	
		小計			1			1		2	
	20～29歳	男	4		5		5	8		22	10.1
		女	3		1			8	1	13	
		小計	7		6		5	16	1	35	
	30～39歳	男	23	1	13	2	3	8		50	22.0
		女	17		3			6		26	
		小計	40	1	16	2	3	14		76	
	40～49歳	男	57		3			5		65	28.7
		女	26		2			6		34	
		小計	83		5			11		99	
	50～59歳	男	49					4		53	18.0
		女	7					2		9	
		小計	56					6		62	
	60～69歳	男	47					1		48	15.9
		女	7							7	
		小計	54					1		55	
	70歳以上	男	15							15	4.6
		女	1							1	
		小計	16							16	
	計	男	195	1	21	2	8	26		253	100.0
		女	61		7			23	1	92	
		小計	256	1	28	2	8	49	1	345	
		構成比	74.2	0.3	8.1	0.6	2.3	14.2	0.3	100.0	
年度	依存薬物等 (F1)		アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	その他 薬 物	そ の 他 精神障害	計	年 齢 構 成 比
	年齢	区分									
22	19歳以下	男	1				1	1		3	2.3
		女			1			3		4	
		小計	1		1		1	4		7	
	20～29歳	男	2		6		1	8		17	9.3
		女	3		2		1	5	1	12	
		小計	5		8		2	13	1	29	
	30～39歳	男	25	1	6			11		43	20.4
		女	10		5			5		20	
		小計	35	1	11			16		63	
	40～49歳	男	45		10			5		60	28.2
		女	18		4			5		27	
		小計	63		14			10		87	
	50～59歳	男	57	2	7					66	25.5
		女	11					2		13	
		小計	68	2	7			2		79	
	60～69歳	男	31						1	32	10.7
		女	1							1	
		小計	32						1	33	
	70歳以上	男	11							11	3.6
		女									
		小計	11							11	
	計	男	172	3	29		2	25	1	232	100.0
		女	43		12		1	20	1	77	
		小計	215	3	41		3	45	2	309	
		構成比	69.6	1.0	13.3		1.0	14.6	0.6	100.0	

(注) 本表の患者数とは、当年度に新たに入院した患者数

才 地域別実入院患者数

年度 居住地域		23	22	年度 居住地域		23	22	年度 居住地域		23	22
横 浜 市		511	207	横 須 賀 市	19	6	足 柄 上 郡				1
	鶴 見 区	20	10	平 塚 市	35	11	中 井 町	0			
	神 奈 川 区	25	12	鎌 倉 市	8	7	大 井 町	0			
	西 区	20	5	藤 沢 市	49	19	松 田 町	0			1
	中 区	50	24	小 田 原 市	7	1	山 北 町	0			
	南 区	69	31	茅ヶ崎 市	8	5	開 成 町	0			
	港 南 区	35	19	逗 子 市	0		足 柄 下 郡				
	保土ヶ谷区	34	13	相 模 原 市	7	1	箱 根 町	0			
	旭 区	32	12	三 浦 市	0	1	真 鶴 町	0			
	磯 子 区	21	9	秦 野 市	9	1	湯 河 原 町	0			
	金 沢 区	18	9	厚 木 市	3	1	県 内 計	803		303	
	港 北 区	28	9	大 和 市	15	5	東 京 都	72		24	
	緑 区	18	6	伊 勢 原 市	14	1	埼 玉 県	0		2	
	戸 塚 区	44	16	海 老 名 市	2		千 葉 県	3		1	
	瀬 谷 区	16	6	座 間 市	11		群 馬 県	0			
	栄 区	30	5	南 足 柄 市	3		栃 木 県	0		3	
	泉 区	17	9	綾 瀬 市	5	2	山 梨 県	0			
	青 葉 区	16	8	三 浦 郡 葉 山 町	0		静 岡 県	2			
	都 筑 区	18	4	高 座 郡 寒 川 町	5	2	茨 城 県	4		1	
川 崎 市		90	30	愛 甲 郡	2		そ の 他 の 県	18		12	
	川 崎 区	43	10		愛 川 町	2	県 外 計	99		43	
	幸 区	4	8		清 川 村	0	住 所 不 明	0		0	
	中 原 区	3	2	中	郡	0	2	計	902		346
	高 津 区	23	2		大 磯 町	0	1				
	宮 前 区	4	2	二 宮 町	0	1					
	多 摩 区	9	5								
	麻 生 区	4	1								

力 入院費負担区分別患者数（平成23年3月末現在在院患者一覧表）

年度	負擔区分	健康保險法		国民健康 保 險 法	生 活 保 護 法	精神保健 福 祉 法	麻 藥 取 締 法	自 費	計
	区分	本 人	家 族						
23	男	1		21	14				36
	女		2	5	3				10
	計	1	2	26	17				46
	構成比	2.2	4.3	56.5	37.0				100.0
22	男	7		10	13				30
	女		3	2	6				11
	計	7	3	12	19				41
	構成比	17.1	7.3	29.3	46.3				100.0

キ 入院形態別患者数

年度	形態	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		区分													
23	任意	男	20	15	22	17	21	22	21	27	20	17	14	23	239
		女	10	3	8	5	8	9	15	4	7	8	5	8	90
		小 計	30	18	30	22	29	31	36	31	27	25	19	31	329
		構成比	96.8	100.0	90.9	88.0	100.0	93.9	100.0	93.9	100.0	100.0	90.5	91.2	95.4
	医療保護	男	1		2	3		2		2			1	3	14
		女			1								1		2
		小 計	1		3	3		2		2			2	3	16
		構成比	3.2		9.1	12.0		6.1		6.1			9.5	8.8	4.6
	措置	男													
		女													
		小計													
		構成比													
	計	男	21	15	24	20	21	24	21	29	20	17	15	26	253
		女	10	3	9	5	8	9	15	4	7	8	6	8	92
		計	31	18	33	25	29	33	36	33	27	25	21	34	345
22	任意	男	23	15	23	18	22	21	17	18	17	17	19	13	223
		女	5	7	7	8	5	11	6	4	5	4	3	8	73
		小 計	28	22	30	26	27	32	23	22	22	21	22	21	296
		構成比	90.3	88.0	93.8	100.0	100.0	94.1	92.0	95.7	100.0	100.0	100.0	100.0	95.8
	医療保護	男	2	3	1			1	2						9
		女	1		1			1		1					4
		小 計	3	3	2			2	2	1					13
		構成比	9.7	12.0	6.3			5.9	8.0	4.3					4.2
	措置	男													
		女													
		小計													
		構成比													
	計	男	25	18	24	18	22	22	19	18	17	17	19	13	232
		女	6	7	8	8	5	12	6	5	5	4	3	8	77
		計	31	25	32	26	27	34	25	23	22	21	22	21	309

ク 依存薬物別・在院期間別退院患者数

年度	依存薬物等 (F1)		アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	その他 薬 物	そ の 他 精神障害	計
	期間	区分								
23	9 日以下	男	22	1	5	2	1	7		38
		女	12		1		1	5	1	20
		小計	34	1	6	2	2	12	1	58
	10～19日	男	13		2		2	5		22
		女	5		3			4		12
		小計	18		5		2	9		34
	20～29日	男	16		6		1	2		25
		女	2		2			4		8
		小計	18		8		1	6		33
	30～59日	男	42		6		2	7		57
		女	15		2			7		24
		小計	57		8		2	14		81
	60～89日	男	29		1					30
		女	10					1		11
		小計	39		1			1		41
	90日以上	男	77							77
		女	14		1			1		16
		小計	91		1			1		93
	計	男	199	1	20	2	6	21		249
		女	58		9		1	22	1	91
小計		257	1	29	2	7	43	1	340	
構成比		75.6	0.3	8.5	0.6	2.1	12.6	0.3	100.0	

年度	依存薬物等 (F1)		アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	その他 薬 物	そ の 他 精神障害	計
	期間	区分								
22	9 日以下	男	18	1	3			8		30
		女	8		2			4		14
		小計	26	1	5			12		44
	10～19日	男	1		6			3		10
		女	3		1					4
		小計	4		7			3		14
	20～29日	男	11		5			6		22
		女	1		2		1	4		8
		小計	12		7		1	10		30
	30～59日	男	36	3	16		2	8		65
		女	5		3			8	1	17
		小計	41	3	19		2	16	1	82
	60～89日	男	43		1			3	1	48
		女	14		2			4		20
		小計	57		3			7	1	68
	90日以上	男	77						1	78
		女	14		1					15
		小計	91		1				1	93
	計	男	186	4	31		2	28	2	253
		女	45		11		1	20	1	78
小計		231	4	42		3	48	3	331	
構成比		69.8	1.2	12.7		0.9	14.5	0.9	100.0	

ケ 依存薬物別・転帰別退院患者数

年度	依存薬物等 (F1)		アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	その他 薬 物	そ の 他 精神障害	計	構成比
	転帰	区分									
23	全 快	男									
		女									
		小計									
	軽 快	男	125		12		4	11		152	58.8
		女	31		3		1	13		48	
		小計	156		15		5	24		200	
	未 知	男	56	1	8	2	2	10		79	34.7
		女	24		5			9	1	39	
		小計	80	1	13	2	2	19	1	118	
	転 医	男	18							18	6.5
		女	3		1					4	
		小計	21		1					22	
	死 亡	男									
		女									
		小計									
	計	男	199	1	20	2	6	21		249	100.0
		女	58		9		1	22	1	91	
		小計	257	1	29	2	7	43	1	340	
		構成比	75.6	0.3	8.5	0.6	2.1	12.6	0.3	431.0	
年度	依存薬物等 (F1)		アルコール	有機溶剤	覚せい剤	麻 薬	大 麻	その他 薬 物	そ の 他 精神障害	計	構成比
	転帰	区分									
22	全 快	男									
		女									
		小計									
	軽 快	男	129	2	18		2	13	2	166	67.1
		女	35		8		1	12		56	
		小計	164	2	26		3	25	2	222	
	未 知	男	47	2	11			15		75	28.4
		女	9		3			7		19	
		小計	56	2	14			22		94	
	転 医	男	10		2					12	4.5
		女	1					1	1	3	
		小計	11		2			1	1	15	
	死 亡	男									
		女									
		小計									
	計	男	186	4	31		2	28	2	253	100.0
		女	45		11		1	20	1	78	
		小計	231	4	42		3	48	3	331	
		構成比	69.8	1.2	12.7		0.9	14.5	0.9	100.0	

5 業務の状況

(1) 看護

「精神医療センターの基本理念・せりがや病院の基本方針に沿って、質の高い看護を行い、ヒューマンサービスの推進に貢献する」の理念に則して、看護を実践している。

看護局は、外来看護科、1階病棟看護科、2階病棟看護科、教育科の4単位であり、1階病棟は男性の初期入院（30床）、2階病棟は男性の回復期（35床）および女性の初期から回復期（15床）で構成されている。

ア 病棟看護

1階病棟では、入院初期の男性患者に2週間程度、依存物質からの離脱、体力の回復、今後の治療の意志を固め、スムーズに2階病棟に継続できるよう援助している。2階病棟では、男性患者には中断することなく治療プログラムに取り組めるよう援助し、女性患者には、初期から回復期に至る全過程の援助を行っている。

近年、依存物質が多様化し、ギャンブル、異性、過激な運動への依存、摂食障害も見られ、それらは物質依存と合併している場合が多く、治療が難しくなっている。さらに、高齢化に伴うADLの低下がある患者や糖尿病、肝硬変、高血圧、低栄養状態などの身体合併のある患者が増えてきている。看護師は、治療効果が向上するよう多職種と連携を図りながら、患者の状態に応じて、認知行動療法、生活技能訓練（SST）や多様な治療プログラム実施をしている。

病棟別看護職員配置図

（平成24年4月1日現在）

病棟	定床数	保護室	現員	備考
1階	30	4	17+1（非）	初期入院（男性）病棟
2階	50	2	17+1（非）	回復期（男性）病棟、女性病棟

イ 外来看護

近年、外来での医療のニーズがますます高まってきている。外来では、患者の状況を観察、判断し、相談に応じている。そして、患者の状況に応じた看護が提供できるように、初診時からの看護計画を立て看護の継続に努めている。また、チーム医療を大切にし、看護師、医師、心理・相談科、作業療法士などの医療チームで患者をケアできるように月に1回外来運営カンファレンスを行なっている。集団精神療法を医師や心理・相談科の職員とともにこなしている。毎朝定時にベッドコントロールを実施し、患者の情報交換や情報の共有を行うことで、病棟との連携を図っている。

外来看護職員配置図

現員	3 + 4（非常勤）
----	------------

ウ 看護教育科

患者の動向を踏まえ、精神科看護に求められる看護師の育成を行い、看護師ひとり一人のキャリアニーズに基づき院内研修や院外研修への参加を支援している。平成22年度より、精神医療センターとして院内研修を芹香病院と合同で実施している。また、看護基礎教育での実習や中学生の職業体験、看護以外の専門学校からの見学を受け入れており、実習生の目標が達成できるよう支援している。そして、自施設の特徴から、健康教育の一環として薬物乱用防止の啓発活動を行っており、スタッフを講師として中学校や高校に派遣している。

(ア) 平成23年度 現任教育

	研 修 名	ね ら い	対 象	参加人数
支 援 プ ロ グ ラ ム	採用時研修	精神医療センター組織の一員としての自覚を持つことができる。 *既卒新採用者・転入者は希望する研修項目について参加する	新採用・転入者	4人
	接遇研修	事例等をもとに接遇の実際を学ぶ。	新採用・転入者	3人
	基礎技術研修① (救急蘇生法)	看護者として必要な急変時の基礎的対応がわかる。	新採用・転入者	2人
	基礎技術研修② (精神科看護技術)	精神科における専門的な看護技術の実際を学ぶ。	新卒新採用者 他科長が必要と認めた者	5人
	フォローアップ研修 (新卒新採用)	入職してからの3カ月を振り返り、今後の看護実践への活力につなげる。	新卒新採用者 他科長が必要と認めた者	1人
	フォローアップ研修 (既卒・転入)	入職してからの様々な思いや看護を、仲間と共有し、精神医療センターの看護師としてこれまでの経験を活かしながら取り組んでいく心構え	新卒新採用者	3人
	施設見学	地域とのネットワークが理解でき、連携の必要性和看護の役割がわかる。	既卒新採用者・転入者	6人
ス テ ッ プ Ⅰ	看護倫理Ⅰ (看護専門職としての倫理)	専門職としての倫理を再確認し、センターの看護師としての行動につなげる。	新採用者・転入者	1人
	事例検討Ⅰ フィジカルアセスメント	自己の看護場面を振り返り、不明確な知識や技術を明らかにすることができる。	ステップⅠを申請する者	1人
	チームメンバー研修	1. チームナーシングについて理解を深め、メンバーシップを発揮するための能力を養う。 2. 9か月間の自己を振り返り、今後の課題を明らかにできる。		1人
ス テ ッ プ Ⅱ	リーダーシップ研修Ⅰ (チームリーダー)	チームナーシングにおけるチームリーダーの役割が明確にできる。	ステップⅠ以上の者 また、看護科長が認める者	2人
	ケース・スタディ	事例を通して自己の看護を振り返り、精神科看護のポイントを学ぶ。		2人
ス テ ッ プ Ⅲ	リーダーシップ研修Ⅱ (リーダーシップ)	多職種の役割を理解し、チーム医療の中でリーダーシップを発揮できる。	ステップⅡ以上の者 また、看護科長が認めるもの	2人
	人間関係研修	対人関係における自己の傾向を知り、看護者としてのアサーティブなコミュニケーションを行うための知識・技術を学ぶ。		1人
	看護倫理Ⅱ	精神科看護における倫理的課題について理解する。		0人
ス テ ッ プ Ⅳ	リーダーシップ研修Ⅲ (問題解決)	問題解決法を学び、セクションの課題を捉え、リーダーシップ能力を発揮した問題解決への取り組みができる。	ステップⅢ以上の者 また、看護科長が認めるもの	0人
	プレゼンテーション研修	自分自身が実践している看護を他者に効果的に伝える能力を身につける。		2人
V	看護管理研修	県立病院機構 管理コースⅡを受講		1人
役 割 研 修	新主任研修	主任としての認識を深め、自己の役割について積極的に取り組める。	平成23年度新主任看護師	1人
	プリセプター研修Ⅰ	プリセプターシップについて理解しプリセプターとしての役割行動につなげることができる。	平成24年度 プリセプター予定者	1人
	プリセプター研修Ⅱ	指導の中で生じた疑問や不安を軽減し、プリセプターとしての自己の課題を明確にできる。	平成23年度 プリセプター担当者	1人
	SST研修	生活技能訓練を習得し、臨床現場に活かすことができる。	看護職員	2人
射 静 脈 研 修 注	静脈注射の実際	医師の指示に基づいた静脈注射を安全に実施するために必要な知識・技術を習得する。	精神医療センター看護職員 (非常勤・契約除く)	3人
専 精 門 神 神 研 科 研 修 護	精神看護専門研修	精神看護専門領域における実践能力を高め、質の高い看護を提供するために必要な能力の向上を図る。	精神科看護経験4年間ある者 キャリアステップⅢ以上	1人

(イ) 平成23年度実習受入れ状況

学 校 ・ 団 体	人 数
神奈川県衛生看護専門学校 第2看護学科	34人
神奈川県衛生看護専門学校 第1看護学科	72人
日本医療学院附属東亜看護学院	2人
福岡看護専門学校	1人
筑波大学大学院看護科学専攻	1人

(ウ) 平成23年度看護の日記念行事

内 容 (場 所)	対 象	人 数
クラシックコンサート (せりがや病院)	地域の方、患者、家族	40人
医師の講演会 (芹香病院と合同) 薬物防止教育キャラバンカーなど (せりがや病院)	一般の方中学生、地域の方	23人 21人
せりがや病院で働く人、仕事の紹介 (せりがや病院)	地域の方、外来・入院患者、 家族	多数

(エ) 病院見学・インターシップ等

学 校 ・ 団 体	対 象 者	人 数
横須賀市立池上中学校	3年生	2人
横浜市立芹が谷中学校	2年生	2人
インターシップ (3日間)	看護学生	5人
	大学院臨床心理領域	1人

(オ) 学校等への講師派遣

派 遣 場 所	内 容	氏 名
社会保険横浜看護専門学校	精神看護方法論Ⅱ	堀内恵美子
県立病院機構職員研修 (アドバイザー)	専門Ⅱコース	山本 直子
横浜断酒新生会	神奈川県酒害相談員研修	堀内恵美子

学会等発表

学 会 名	氏 名
第36回 日本精神科看護学会 福岡大会	黒川由美子
第10回 日本アディクション看護学会学術集会	堀内恵美子
第10回 日本アディクション看護学会学術集会	井ノ口恵子

(カ) 健康教育活動等における講師派遣

学 校・団 体	対 象 者	人 数
県立横浜栄高等学校	1 年生	238人
平塚市立神明中学校	1 年、2 年、3 年生	480人
県立川崎工科高等学校	1 年、2 年、3 年生	658人
横浜市立芹が谷中学校	1 年、2 年、3 年生	430人
	教職員・保護者	48人
県立希望が丘高等学校	1 年生	279人
県立松陽高等学校	1 年、2 年、3 年生	720人
	教職員	40人
県立神奈川総合高等学校	2 年生	266人
横浜市立戸塚高等学校	1 年生	280人
	教員	12人
横浜市立飯島中学校	3 年生	121人
県立多摩高等学校	1 年生	279人
	教職員	12人
県立橋本高等学校	3 年生	271人
横浜市立日限山中学校	3 年生（2 クラスずつ）	141人
鎌倉市立玉縄中学校	3 年生	191人

(2) 心理・相談業務

心理・相談科では、依存症により生じた家族関係や就業、経済的問題など、社会的側面の問題をもつ患者・家族に対して相談支援や集団精神療法等の回復プログラムをおこなっている。

平成23年度は入院患者薬物プログラム「SMARPP16」が定着し、退院後も継続して参加する人が増え、従来の「SMARPP24」と共に外来での薬物治療プログラムの充実が図られた。

地域のアルコール、薬物依存症の自助グループや回復施設との連携では、平成23年度は8名のアルコール・薬物依存症患者の施設入所を支援した。心理・相談科の業務内容は以下のとおりである。

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| 1. 相談（電話、面接） | 7. 臨床心理検査 |
| 2. 初診時インテーク面接 | 8. 心理療法 |
| 3. 入院・外来患者へのケースワーク | 9. 薬物問題を持つ家族のための家族教室 |
| 4. 患者家族へのケースワーク | 10. 依存症者の家族のための家族教室（医局、看護局との分担） |
| 5. 入院・外来患者への集団精神療法 | 11. 地域関連機関・施設や自助グループ等の団体との連絡、調整及び技術援助 |
| 6. 入院患者への教育 | 12. 研修の受け入れ（精神保健福祉援助実習など） |
| | 13. 講師派遣（薬物乱用防止教室等） |

ア 相談・インテーク・ケースワーク等件数

			23年度	22年度	備 考
電 話	新 規 相 談		336	216	まだ受診していない者についての相談
	相 談		965	653	すでに受診している者（患者）についての相談
	関係機関との連絡調整		2,744	2,834	保健所、福祉事務所、医療機関、施設等との患者についての相談、連絡調
	小 計		4,045	3,703	
面 接	新 規 相 談		55	54	まだ受診していない者についての相談
	患 者	外 来	817	565	外来患者等に対する面接
		入 院	924	914	入院患者等に対する面接
	イ ン テ ー ク		467	465	初診患者に生活背景、病歴等を面接聴取する
	小 計		2,263	1,998	
計			6,308	5,701	

イ 平成23年度集団精神療法件数

外 来	ア ル コ ー ル	981	999	週1回の外来ミーティング
	薬 物	523	552	月2回の外来ミーティング、SMARPP
	小 計	1,504	1,551	
入院	ア ル コ ー ル ・ 薬 物	4,014	4,211	7グループで実施
計		5,518	5,762	

ウ 平成23年度家族教室参加人数

家 族 教 室	251	198	アルコール依存症の者の家族 月2回
薬 物 依 存 症 家 族 教 室	428	458	薬物問題を持つ家族 月2回
計	669	656	

エ 平成23年度 研修・講師等

(ア) 精神保健福祉援助実習

	学 校	実 施 日	人 数
1	県立保健福祉大学	平成22年 8 月22日～ 9 月 6 日	2 名
2	上智社会福祉専門学校	平成22年 8 月22日～ 9 月 6 日	1 名
3	日本福祉教育専門学校	平成24年 1 月10日～ 1 月25日	1 名

(イ) その他研修見学

	機 関	実 施 日	人 数
1	久里浜アルコール症センター（見学）	平成23年 6 月16日	1 名
2	県精神保健福祉センター（転入職員研修）	平成23年 7 月20日	4 名
3	県精神保健福祉センター（転入職員研修）	平成23年 7 月22日	4 名
4	日本大学文理学部心理学科（見学）	平成23年 9 月 8 日	3 名
5	横浜市こころの健康相談センター（見学）	平成23年 9 月22日	1 名
6	アルコールケアセンターたんぽぽ（見学）	平成23年10月26日	1 名
7	横浜市こころの健康相談センター（転入職員研修）	平成24年 1 月30日	7 名

(ウ) 講師派遣

	機 関	実 施 日	人 数
1	駐留軍要員保健組合健康教室	平成23年 5 月25日	40名
2	わたしのこころサポート講座	平成23年 6 月16日	95名
3	横浜市こころの健康相談センター薬物家族教室	平成23年 7 月12日	4名
4	神奈川県酒害相談員研修	平成23年 8 月21日	17名
5	六ッ川地域ケアプラザ・白朋苑精神医療研修会	平成23年 9 月28日	50名
6	横浜保護観察所保護者会	平成24年 2 月 7 日	43名

(エ) 講師派遣（薬物乱用防止教室）

	機 関	実 施 日	人 数
1	伊勢原市立山王中学校	平成23年 7 月 5 日	693名
2	神奈川県立新栄高校	平成23年 7 月11日	300名
3	神奈川県立鶴見高校	平成23年10月 6 日	292名
4	横浜市立中尾小学校	平成23年12月12日	73名
5	小田原市立町田小学校	平成23年12月15日	57名
6	小田原市立城南中学校	平成24年 2 月27日	86名
7	鎌倉市立岩瀬中学校	平成24年 3 月 2 日	140名
8	小田原市立橋中学校	平成24年 3 月12日	108名
9	神奈川県立秦野総合高校	平成24年 3 月19日	530名

オ 平成23年度 心理検査

(実人数) 73名 (延べ件数) 134件

検 査 名	件 数
W A I S - R	1
W A I S - Ⅲ	51
ロールシャッハテスト	41
バウムテスト	4
P - Y スタディ	10
S C T	8
Y - G 性格検査	2
長谷川式簡易知能検査	5
記名力検査	7
ベンダーゲシュタルト	3
M M S E	1
計	134

(3) 作業療法

当院作業療法は平成19年7月に開設され、平成20年度までは1名の作業療法士、平成21年度より2名の作業療法士で運営している。

作業療法は、依存症のリハビリテーションとして身体的、心理的、社会的によりよい状態の再獲得が主たる目的である。通常プログラムとして農耕、スポーツ、表現活動を集団で実施しているほか、高齢者プログラム、病院行事なども行っている。また、作業療法以外にも教育プログラム、自助グループへの参加支援など作業療法士が関わっている。

当院入院患者のほぼ全員が作業療法の処方を受けており、実施数や対象患者の層も入院患者の状況により影響を受けている。

平成21年10月より通院作業療法を開始したので、退院後の患者への受け皿として利用価値を高めていきたい。

ア 病棟別実施件数

年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23	1 階 病 棟	95	53	116	98	127	79	98	145	144	105	73	97	1,230
	2 階 病 棟	367	362	421	378	436	400	342	290	292	371	423	424	4,506
	合同プログラム	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	46	0	82
	計	462	415	537	476	563	479	476	435	436	476	542	521	5,818
年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22	1 階 病 棟	107	91	130	109	183	97	91	101	72	45	76	73	1,175
	2 階 病 棟	434	394	341	449	373	407	400	412	338	321	306	368	4,543
	合同プログラム	0	0	0	0	0	0	38	0	0	0	37	0	75
	計	541	485	471	558	556	504	529	513	410	366	419	441	5,793

イ 通院作業療法実施件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23	20	14	28	26	32	26	29	29	28	25	34	37	328
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22	24	16	25	20	14	20	11	5	14	7	10	22	188

(4) 学生等の指導

ア 学生実習の受け入れ

対 象	人 数	実 施 日
横浜市立大学医学部学生	5～6人	火曜日（見学実習）

(5) 薬剤業務

平成23年度の薬品購入金額は7,993万円であり前年度に比べ500万円増となった。薬価が高い新しい抗精神病薬の適用患者が増加し、また一人に使用する薬の量が増加しているのが主な原因とみられる。

処方せん枚数は、前年度に比べ33枚減となった。

薬剤情報提供は前年度に比べ415件減少し647件であった。

薬事会議は9月と3月に開催し、新たに7品目を採用し、6品目を削除した。

後発医薬品については3品目を先発品から切り替え、採用率は品目で10.7%、金額で8.1%となった。

A 調剤数

	処方せん	剤 数	延べ剤数	一 日 平 均	
				剤 数	延べ剤数
入 院	6,412 枚	17,263 剤	103,871 剤	47.3 剤	284.6 剤
外 来	12,522	41,094	634,086	140.3	2,164.1
計	18,934	58,357	737,957	187.5	2,448.7

B 注射剤払い出し

注射せん	500ml未満	500ml以上	計
217 枚	252 本	147 本	399 本

C 製剤数

内服散剤	軟 膏 剤	錠剤の粉碎
100,530 g	1,230 g	2,060 錠

D 剤型別購入額

剤 型	品目数	割 合	購入額	割 合
注 射	38 品	8.7 %	1,482,978 円	1.9 %
内 服	361	82.4	77,610,676	97.1
外 用	36	8.2	818,969	1.0
消 毒	3	0.7	24,140	0.1
計	438	100.0	79,936,763	100.0

E 薬効別購入額

薬 効	品目数	割 合	購入額	割 合
精 神 神 経 用 剤	168 品	38.4 %	52,411,413 円	65.6 %
睡眠鎮静剤、抗不安剤	50	11.4	9,406,577	11.8
習 慣 性 中 毒 用 剤	2	0.5	1,844,500	2.3
ビ タ ミ ン 剤	16	3.7	3,036,777	3.8
肝 臓 疾 患 用 剤	5	1.1	97,103	0.1
そ の 他	197	44.9	13,140,393	16.4
計	438	100.0	79,936,763	100.0

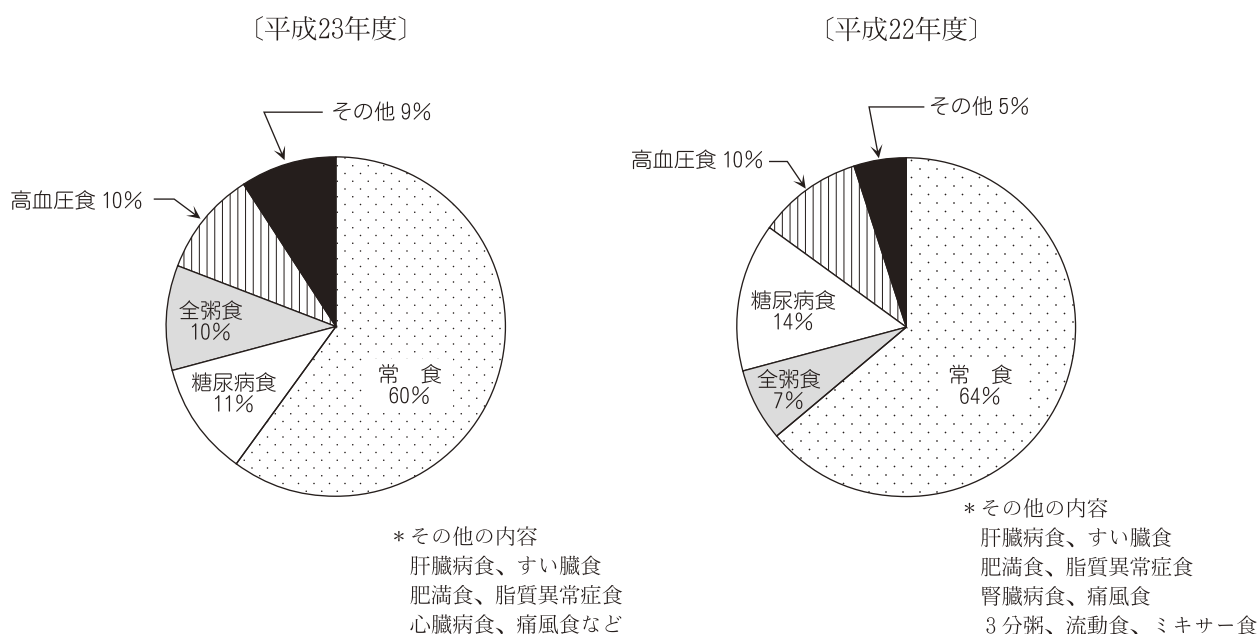
(6) 栄養業務

ア 給食実施状況

入院患者の食種では一般食が7割を占め、特別食が3割であった。特別食では糖尿病食と高血圧食の割合が高く、次いで痛風食、腎臓食、肝臓食となっている。これらの疾患はアルコール依存症に多く合併しており、入院中の食事を含めた生活指導が重要と考えられる。肥満食には、摂食障害の数が含まれる。また、近年の特徴として高齢者等の嚥下障害を有する患者への「とろみ調整」など入院患者個々人に適応した、さめこまかい食事指示が増加していることがあげられる。

当院の特徴として、依存症の症状に応じた形態（キザミ食等）や食器（メラミンやデイスボ食器の使用）、食事時間（分割食、早食）への対応、嗜好への対応、作業所参加や治療プログラムのための弁当の調整などきめ細かな個人対応食を実施している。さらに、依存症専門病院として食材や調味料等についても配慮しており、調理技術の高度化と専門性が要求されている。また、入院生活を潤いあるものにするため、季節感を取り入れた行事食を年10回実施した。選択食は、週2日、各日昼食と夕食に実施した。

栄養指導では、入院患者に対する生活支援の一環として「教育プログラム」に位置づけられ、定例的に自立に向けた集団指導を行っている。さらに、生活習慣病予防のための食生活についての指導を取り入れた。



区 分			年 度	23年度	22年度	対前年度比（％）
一 般 食	常 食			29,041	33,800	85.9
	軟 流 動 食	全 粥 食		4,863	3,486	139.5
		五 分 粥 食		0	0	—
		三 分 粥 食		0	73	0.0
		流 動 食		0	8	0.0
		小 計		4,863	3,568	136.3
	計			33,904	37,368	90.7
特 別 食	加 算 で き る も の	糖 尿 病 食	5,265	7,578	69.5	
		脂 質 異 常 症 食	165	574	28.7	
		肝 臓 病 食	396	899	44.0	
		脾 臓 病 食	527	99	532.3	
		腎 臓 病 食	0	114	0.0	
		心 臓 病 食	495	0	—	
		痛 風 食	898	49	1,832.7	
		貧 血 食	107	0	—	
		低 残 渣 食	238	0	—	
		小 計	8,091	9,313	86.9	
	加 算 で き な い も の	高 血 圧 食	5,012	5,379	93.2	
		肥 満 食	1,289	863	149.4	
		小 計	6,301	6,242	100.9	
		計	14,392	15,555	92.5	
合 計			48,296	52,923	91.3	
患 者 食 弁 当			(630)	(778)	81.0	
検 食 ・ 保 存 食			2,196	2,190	100.3	
職 員			10,853	10,752	100.9	
総 合 計			61,345	65,865	93.1	

* 患者食弁当（ ）は再掲

イ 栄養指導実施状況

区 分 年 度	入 院				外 来				合 計			
	集団指導		個別指導		集団指導		個別指導		集団指導		個別指導	
	件数	延人数	件数	延人数	件数	延人数	件数	延人数	件数	延人数	件数	延人数
23	4	159	12	12	0	0	27	27	4	159	39	39
22	4	164	4	4	0	0	22	22	4	164	26	26
対前年度比(%)	100.0	97.0	300.0	300.0	—	—	122.7	122.7	100.0	97.0	150.0	150.0

平成23年度 業 務 年 報

平成24年12月発行

神奈川県立精神医療センター

横浜市港南区芹が谷2-5-1

TEL 045-822-0241

印刷所 中川印刷株式会社

横浜市中区山田町7-1

TEL 045-261-2101



地方独立行政法人神奈川県立病院機構
神奈川県立精神医療センター

横浜市港南区芹が谷2-5-1 〒233-0006 電話(045)822-0241(代表) FAX(045)825-3852